ROBO CYLINDER

ロボシリンダ
RCP2アクチュエータ
ロータリタイプ

小型タイプ330度回転仕様［RTBS・RTCS］
小型タイプ多回転仕様［RTBSL・RTCSL］
中型タイプ330度回転仕様［RTB・RTC］
中型タイプ多回転仕様［RTBL・RTCL］
大型タイプ330度回転仕様［RTBB・RTCB］
大型タイプ多回転仕様［RTBBL・RTCBL］

取扱説明書

第14版

株式会社アイエイアイ

お使いになる前に

この度は、当社の製品をお買い上げ頂き、ありがとうございます。

この取扱説明書は本製品の取扱い方法や構造、保守等について解説しており、安全にお使い頂くために必要な情報を記載しています。

本製品をお使いになる前に必ずお読み頂き、十分理解した上で安全にお使い頂きますよう、お願いいたします。
製品に同梱の DVD には、当社製品の取扱説明書が収録されています。
製品のご使用につきましては、該当する取扱説明書の必要部分をプリントアウトするか、またはパソコンで表示してご利用ください。

お読みになった後も取扱説明書は、本製品を取り扱われる方が、必要な時にすぐ読むことができるように保管してください。

【重要】

- この取扱説明書は、本製品専用に書かれたオリジナルの説明書です。
- この取扱説明書に記載されている以外の運用はできません。記載されている以外の運用をした結果につきましては、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- この取扱説明書に記載されている事柄は、製品の改良にともない予告なく変更させて頂く場合があります。
- この取扱説明書の内容について、ご不審やお気付きの点などがありましたら、「アイエイアイお客様センターエイト」もしくは最寄りの当社営業所までお問合せください。
- この取扱説明書の全部または一部を無断で使用・複製する事はできません。
- 本文中における会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

目　次

安全ガイド 1
取扱い上の注意 9
海外規格対応 11
各部の名称 12

1.　仕様の確認 13
1.1　製品の確認 13
1.1.1　構成品 13
1.1.2　本製品関連用コントローラの取扱説明書 13
1.1.3　型式銘板の見方 13
1.1.4　型式の見方 14
1.2　仕様 15
1.2.1　小型タイプ 15
1.2.2　中型タイプ 18
1.2.3　大型タイプ 21
1.2.4　クリーンルーム仕様 24
1.2.5　防塵・防滴仕様 24
1.3　使用上の注意 25
1.3.1　動作範囲と原点復帰 25
1.3.2　原点復帰方向 25
1.3.3　原点復帰動作 26
1.4　オプション 29
1.4.1　原点逆仕様（型式：NM） 29
1.4.2　シャフトアダプタ（型式：SA） 29
1.4.3　テーブルアダプタ（型式：TA） 30
1.4.4　ブレーキ付き（型式：B） 31
1.5　モータ・エンコーダケーブル 32
1.5.1　小型タイプ　［RTBS、RTBSL、RTCS、RTCSL］ 32
1.5.2　中型タイプ　［RTB、RTBL、RTC、RTCL］
大型タイプ　［RTBB、RTBBL、RTCB、RTCBL］ 34
1.5.3　クリーンルーム・防塵・防滴仕様 36

2.　設置 39
2.1　運搬 39
2.2　設置および保管・保存環境 41
2.3　設置 42
2.3.1　取付け姿勢 42
2.4　本体の取付け 43
2.4.1　小型タイプ 43
2.4.2　中型タイプ 45
2.4.3　大型タイプ 47
2.5　出力軸部取付けアダプタ（オプション） 49
2.5.1　小型タイプ 49
2.5.2　中型タイプ 51
2.5.3　大型タイプ 53

3.　コントローラとの接続 55

4. 保守点検 59
4.1 点検項目と点検時期 59
4.2 外部目視検査 59
4.3 清掃 59
4.4 グリース補給 60
4.4.1 使用グリース 60
4.4.2 グリース供給方法 61

5. 外形図 66
5.1 小型タイプ 66
5.1.1 標準仕様 66
5.1.2 防塵・防滴・クリーン仕様 68
5.2 中型タイプ 70
5.2.1 標準仕様 70
5.2.2 防塵・防滴・クリーン仕様 74
5.3 大型タイプ 78
5.3.1 標準仕様 78
5.3.2 防塵・防滴・クリーン仕様 82

6. 寿命 86

7. 保証 87
7.1 保証期間 87
7.2 保証の範囲 87
7.3 保証の実施 87
7.4 責任の制限 88
7.5 規格法規等への適合性および用途の条件 88
7.6 その他の保証外項目 88

変更履歴 89

安全ガイド

安全ガイドは、製品を正しくお使い頂き、危険や財産の損害を未然に防止するために書かれたものです。製品のお取扱い前に必ずお読みください。

産業用ロボットに関する法令および規格

機械装置の安全方策としては、国際工業規格 ISO/DIS12100「機械類の安全性」において、一般論として次の 4 つを規定しています。

安全方策
- 本質安全設計
- 安全防護…… 安全柵など
- 追加安全方策…… 非常停止装置など
- 使用上の情報…… 危険表示・警告、取扱説明書

これに基づいて国際規格 ISO/IEC で階層別に各種規格が構築されています。
産業用ロボットの安全規格は以下のとおりです。

タイプ C 規格（個別安全規格） → ISO10218（マニピュレーティング産業ロボットー安全性）
→ JIS B 8433（産業用マニピュレーティングロボットー安全性）

また産業用ロボットの安全に関する国内法は、次のように定められています。

労働安全衛生法 第 59 条
危険または有害な業務に従事する労働者に対する特別教育の実施が義務付けられています。

労働安全衛生規則
第 36 条 …… 特別教育を必要とする業務
- 第 31 号（教示等）…… 産業用ロボット（該当除外あり）の教示作業等について
- 第 32 号（検査等）…… 産業用ロボット（該当除外あり）の検査、修理、調整作業等について

第 150 条……産業用ロボットの使用者の取るべき措置

労働安全衛生規則の産業用ロボットに対する要求事項

作業エリア	作業状態	駆動源のしゃ断	措　置	規　定
可動範囲外	自動運転中	しない	運転開始の合図	104 条
			柵、囲いの設置等	150 条の 4
可動範囲内	教示等の作業時	する（運転停止含む）	作業中である旨の表示等	150 条の 3
		しない	作業規定の作成	150 条の 3
			直ちに運転を停止できる措置	150 条の 3
			作業中である旨の表示等	150 条の 3
			特別教育の実施	36 条 31 号
			作業開始前の点検等	151 条
	検査等の作業時	する	運転を停止して行う	150 条の 5
			作業中である旨の表示等	150 条の 5
		しない（やむをえず運転中に行う場合）	作業規定の作成	150 条の 5
			直ちに運転停止できる措置	150 条の 5
			作業中である旨の表示等	150 条の 5
			特別教育の実施（清掃・給油作業を除く）	36 条 32 号

当社の産業用ロボット該当機種

労働省告示第 51 号および労働省労働基準局長通達（基発第 340 号）により、以下の内容に該当するものは、産業用ロボットから除外されます。

（1） 単軸ロボットでモータワット数が 80W 以下の製品
（2） 多軸組合せロボットで X・Y・Z 軸が 300mm 以内、かつ回転部が存在する場合はその先端を含めた最大可動範囲が 300mm 立方以内の場合
（3） 多関節ロボットで可動半径および Z 軸が 300mm 以内の製品

当社カタログ掲載製品のうち産業用ロボットの該当機種は以下のとおりです。

1. 単軸ロボシリンダ
   RCS2/RCS2CR-SS8□、RCS3/RCS3CR/RCS3P/RCS3PCR でストローク 300mm を超えるもの
2. 単軸ロボット
   次の機種でストローク 300mm を超え、かつモータ容量 80W を超えるもの
   ISA/ISPA, ISB/ISPB, SSPA, ISDA/ISPDA, ISWA/ISPWA, IF, FS, NS
3. リニアサーボアクチュエータ
   ストローク 300mm を超える全機種
4. 直交ロボット
   1～3 項の機種のいずれかを 1 軸でも使用するもの、および CT4
5. IX スカラロボット
   アーム長 300mm を超える全機種
   （IX-NNN1205/1505/1805/2515、NNW2515、NNC1205/1505/1805/2515 を除く全機種）

当社製品の安全に関する注意事項

ロボットのご使用にあたり、各作業内容における共通注意事項を示します。

No.	作業内容	注意事項
1	機種選定	●本製品は、高度な安全性を必要とする用途には企画、設計されていませんので、人命を保証できません。従って、次のような用途には使用しないでください。 ①人命および身体の維持、管理などに関わる医療機器 ②人の移動や搬送を目的とする機構、機械装置 （車両・鉄道施設・航空施設など） ③機械装置の重要保安部品（安全装置など） ●製品は仕様範囲外で使用しないでください。著しい寿命低下を招き、製品故障や設備停止の原因となります。 ●次のような環境では使用しないでください。 ①可燃性ガス、発火物、引火物、爆発物などが存在する場所 ②放射能に被爆する恐れがある場所 ③周囲温度や相対湿度が仕様の範囲を超える場所 ④直射日光や大きな熱源からの輻射熱が加わる場所 ⑤温度変化が急激で結露するような場所 ⑥腐食性ガス（硫酸、塩酸など）がある場所 ⑦塵埃、塩分、鉄粉が多い場所 ⑧本体に直接振動や衝撃が伝わる場所 ●垂直に使用するアクチュエータは、ブレーキ付きの機種を選定してください。ブレーキがない機種を選定すると、電源をオフしたとき可動部が落下し、けがやワークの破損などの事故を起こすことがあります。
2	運搬	●重量物を運ぶ場合には 2 人以上で運ぶ、または、クレーンなどを使用してください。 ●2 人以上で作業を行う場合は、主と従の関係を明確にし、声を掛け合い、安全を確認しながら作業を行ってください。 ●運搬時は、持つ位置、重量、重量バランスを考慮し、ぶつけたり落下しないように充分な配慮をしてください。 ●運搬は適切な運搬手段を用いて行ってください。 クレーンの使用可能なアクチュエータには、アイボルトが取り付けられているか、または取付用タップ穴が用意されていますので、個々の取扱説明書に従って行ってください。 ●梱包の上には乗らないでください。 ●梱包が変形するような重い物は載せないでください。 ●能力が 1t 以上のクレーンを使用する場合は、クレーン操作、玉掛けの有資格者が作業を行ってください。 ●クレーンなどを使用する場合は、クレーンなどの定格荷重を超える荷物は絶対に吊らないでください。 ●荷物にふさわしい吊具を使用してください。吊具の切断荷重などに安全を見込んでください。また、吊具に損傷がないか確認してください。 ●吊った荷物に人は乗らないでください。 ●荷物を吊ったまま放置しないでください。 ●吊った荷物の下に入らないでください。
3	保管・保存	●保管・保存環境は設置環境に準じますが、特に結露の発生がないように配慮してください。 ●地震などの天災により、製品の転倒、落下がおきないように考慮して保管してください。

No.	作業内容	注意事項
4	据付け・ 立ち上げ	(1) ロボット本体・コントローラ等の設置 ●製品(ワークを含む)は、必ず確実な保持、固定を行ってください。製品の転倒、落下、異常動作等によって破損およびけがをする恐れがあります。また、地震などの天災による転倒や落下にも備えてください。 ●製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。転倒事故、物の落下によるけがや製品破損、製品の機能喪失・性能低下・寿命低下などの原因となります。 ●次のような場所で使用する場合は、遮蔽対策を十分行ってください。 ①電気的なノイズが発生する場所 ②強い電界や磁界が生じる場所 ③電源線や動力線が近傍を通る場所 ④水、油、薬品の飛沫がかかる場所
		(2) ケーブル配線 ●アクチュエータ～コントローラ間のケーブルやティーチングツールなどのケーブルは当社の純正部品を使用してください。 ●ケーブルに傷をつけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、巻きつけたり、挟み込んだり、重いものを載せたりしないでください。漏電や導通不良による火災、感電、異常動作の原因になります。 ●製品の配線は、電源をオフして誤配線がないように行ってください。 ●直流電源(+24V)を配線する時は、+/-の極性に注意してください。 接続を誤ると火災、製品故障、異常動作の恐れがあります。 ●ケーブルコネクタの接続は、抜け・ゆるみのないように確実に行ってください。火災、感電、製品の異常動作の原因になります。 ●製品のケーブルの長さを延長または短縮するために、ケーブルの切断再接続は行わないでください。火災、製品の異常動作の原因になります。
		(3) 接地 ●接地は、感電防止、静電気帯電の防止、耐ノイズ性能の向上および不要な電磁放射の抑制には必ず行わなければなりません。 ●コントローラの AC 電源ケーブルのアース端子および制御盤のアースプレートは、必ず線径 0.5mm^2(AWG20 相当)以上のより線で接地工事をしてください。保安接地は、負荷に応じた線径が必要です。規格(電気設備技術基準)に基づいた配線を行ってください。 ●接地は D 種(旧第三種、接地抵抗 100Ω 以下)接地工事を施工してください。

No.	作業内容	注意事項
4	据付け・ 立ち上げ	(4) 安全対策 ●2 人以上で作業を行う場合は、主と従の関係を明確にし、声を掛け合い、安全を確認しながら作業を行ってください。 ●製品の動作中または動作できる状態の時は、ロボットの可動範囲に立ち入ることができないような安全対策(安全防護柵など)を施してください。動作中のロボットに接触すると死亡または重傷を負うことがあります。 ●運転中の非常事態に対し、直ちに停止することができるように非常停止回路を必ず設けてください。 ●電源投入だけで起動しないよう安全対策を施してください。製品が急に起動し、けがや製品破損の原因になる恐れがあります。 ●非常停止解除や停電後の復旧だけで起動しないよう、安全対策を施してください。人身事故、装置の破損などの原因となります。 ●据付・調整などの作業を行う場合は、「作業中、電源投入禁止」などの表示をしてください。不意の電源投入により感電やけがの恐れがあります。 ●停電時や非常停止時にワークなどが落下しないような対策を施してください。 ●必要に応じて保護手袋、保護めがね、安全靴を着用して安全を確保してください。 ●製品の開口部に指や物を入れないでください。けが、感電、製品破損、火災などの原因になります。 ●垂直に設置しているアクチュエータのブレーキを解除する時は、自重で落下して手を挟んだり、ワークなどを損傷しないようにしてください。
5	教示	●2 人以上で作業を行う場合は、主と従の関係を明確にし、声を掛け合い、安全を確認しながら作業を行ってください。 ●教示作業はできる限り安全防護柵外から行ってください。やむをえず安全防護柵内で作業する時は、「作業規定」を作成して作業者への徹底を図ってください。 ●安全防護柵内で作業する時は、作業者は手元非常停止スイッチを携帯し、異常発生時にはいつでも動作停止できるようにしてください。 ●安全防護柵内で作業する時は、作業者以外に監視人をおいて、異常発生時にはいつでも動作停止できるようにしてください。また第三者が不用意にスイッチ類を操作することのないよう監視してください。 ●見やすい位置に「作業中」である旨の表示をしてください。 ●垂直に設置しているアクチュエータのブレーキを解除する時は、自重で落下して手を挟んだり、ワークなどを損傷しないようにしてください。 ※安全防護柵・・・安全防護柵がない場合は、可動範囲を示します。
6	確認運転	●2 人以上で作業を行う場合は、主と従の関係を明確にし、声を掛け合い、安全を確認しながら作業を行ってください。 ●教示およびプログラミング後は、1 ステップずつ確認運転をしてから自動運転に移ってください。 ●安全防護柵内で確認運転をする時は、教示作業と同様にあらかじめ決められた作業手順で作業を行ってください。 ●プログラム動作確認は、必ずセーフティ速度で行ってください。プログラムミスなどによる予期せぬ動作で事故をまねく恐れがあります。 ●通電中に端子台や各種設定スイッチに触れないでください。感電や異常動作の恐れがあります。

No.	作業内容	注意事項
7	自動運転	●自動運転を開始する前、あるいは停止後の再起動の際には、安全防護柵内に人がいないことを確認してください。 ●自動運転を開始する前には、関連周辺機器がすべて自動運転に入ることのできる状態にあり、異常表示がないことを確認してください。 ●自動運転の開始操作は、必ず安全防護柵外から行うようにしてください。 ●製品に異常な発熱、発煙、異臭、異音が生じた場合は、直ちに停止して電源スイッチをオフしてください。火災や製品破損の恐れがあります。 ●停電した時は電源スイッチをオフしてください。停電復旧時に製品が突然動作し、けがや製品破損の原因になることがあります。
8	保守・点検	●2 人以上で作業を行う場合は、主と従の関係を明確にし、声を掛け合い、安全を確認しながら作業を行ってください。 ●作業はできる限り安全防護柵外から行ってください。やむをえず安全防護柵内で作業する時は、「作業規定」を作成して作業者への徹底を図ってください。 ●安全防護柵内で作業を行う場合は、原則として電源スイッチをオフしてください。 ●安全防護柵内で作業する時は、作業者は手元非常停止スイッチを携帯し、異常発生時にはいつでも動作停止できるようにしてください。 ●安全防護柵内で作業する時は、作業者以外に監視人をおいて、異常発生時にはいつでも動作停止できるようにしてください。また第三者が不用意にスイッチ類を操作することのないよう監視してください。 ●見やすい位置に「作業中」である旨の表示をしてください。 ●ガイド用およびボールネジ用グリースは、各機種の取扱説明書により適切なグリースを使用してください。 ●絶縁耐圧試験は行わないでください。製品の破損の原因になることがあります。 ●垂直に設置しているアクチュエータのブレーキを解除する時は、自重で落下して手を挟んだり、ワークなどを損傷しないようにしてください。 ●サーボオフすると、スライダーやロッドが停止位置からずれることがあります。不要動作による、けがや損傷をしない様にしてください。 ●カバーや取り外したねじ等は紛失しないよう注意し、保守・点検完了後は必ず元の状態に戻して使用してください。 不完全な取り付けは製品破損やけがの原因となります。 ※安全防護柵・・・安全防護柵がない場合は、可動範囲を示します。
9	改造・分解	●お客様の独自の判断に基づく改造、分解組立て、指定外の保守部品の使用は行わないでください。
10	廃棄	●製品が使用不能、または不要になって廃棄する場合は、産業廃棄物として適切な廃棄処理をしてください。 ●廃棄のためアクチュエータを取り外す場合は、落下等に考慮し、ねじの取り外しを行ってください。 ●製品の廃棄時は、火中に投じないでください。製品が破裂したり、有毒ガスが発生する恐れがあります
11	その他	●ペースメーカなどの医療機器を装着された方は、影響を受ける場合がありますので、本製品および配線には近づかないようにしてください。 ●海外規格への対応は、海外規格対応マニュアルを確認してください。 ●アクチュエータおよびコントローラの取扱は、それぞれの専用取扱説明書に従い、安全に取り扱ってください。

注意表示について

各機種の取扱説明書には、安全事項を以下のように「危険」「警告」「注意」「お願い」にランク分けして表示しています。

レベル	危害・損害の程度	シンボル
危険	取扱いを誤ると、死亡または重傷に至る危険が差し迫って生じると想定される場合	危　険
警告	取扱いを誤ると、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合	警　告
注意	取扱いを誤ると、傷害または物的損害の可能性が想定される場合	注　意
お願い	傷害の可能性はないが、本製品を適切に使用するために守っていただきたい内容	お願い

取扱い上の注意

1. 製品の使用条件、使用環境、仕様範囲を守ってお使いください。守られない場合、性能低下や製品の故障を招きます。

2. 本取扱説明書に記していない取扱い及び操作等を行わないでください。

3. アクチュエータは、本取扱説明書に従って確実に取り付けてください。アクチュエータが確実に保持固定されていないと異音、振動発生、故障および寿命低下の原因となります。

4. アクチュエータ、コントローラ間の配線は、当社製品をお使いください。

5. 速度、加減速度は、許容値以上の設定は行わないでください。
   速度および加減速度を許容値を超えて運転した場合、異音・振動発生、故障および寿命低下の原因となります。

6. 許容モーメントは、許容値以内としてください。
   許容モーメント以上の負荷で運転を行なった場合、異音・振動発生、故障および寿命低下の原因となります。極端な場合には、ガイドにフレーキングを発生することがあります。

7. アクチュエータは、本取扱説明書に従って確実に取付けてください。
   アクチュエータが確実に保持、固定されていないと、異音・振動発生、故障および寿命低下の原因となります。

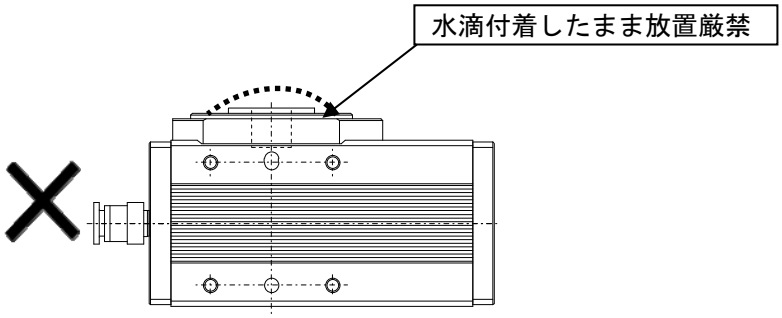
8. クリーンルーム仕様の中空穴にケーブルを通す場合、配線には十分注意してください。
   軸とケーブルの接触により発塵する可能性があります。

9. 防塵防滴仕様は、非接触であるラビリンスシール構造とエアパージ構造を採用しています。
   この構造は、ラビリンスシールと合わせてエアパージにより出力軸への異物や液体の侵入を遮っています。
   (出力軸端部ギャップからのエア流れにより異物や液体の侵入を阻止)

   ① 防滴性能について
   防滴性能は IP*4 相当です。噴流が直接アクチュエータに掛かるような環境には対応しておりません。
   保護等級 IP*4
   第 2 記号(水の浸入に対する保護)
   4：あらゆる方向からの飛まつによる有害な影響が無い

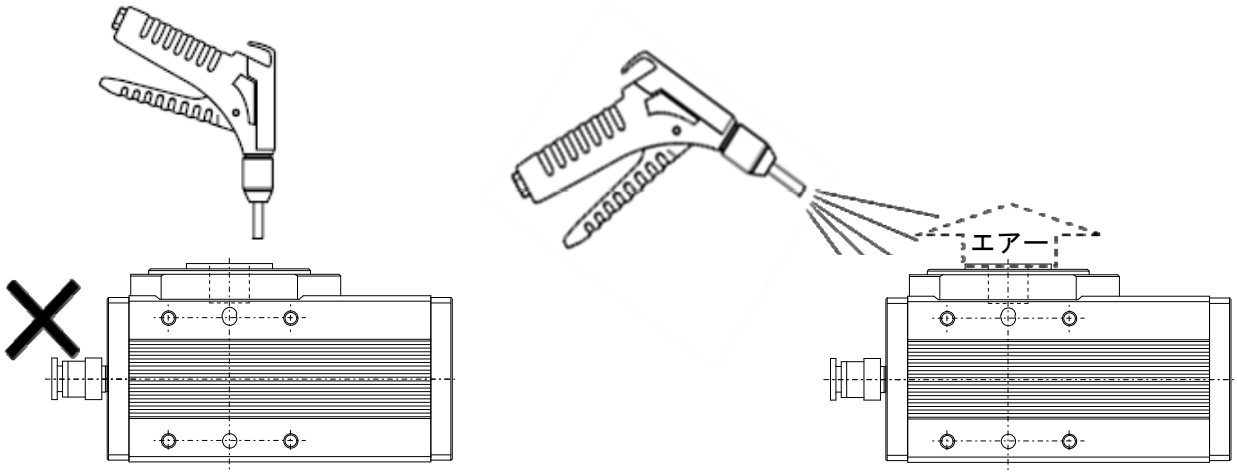
② エアパージについて
供給エアはエアドライアを通した清掃乾燥エアとして下さい。
水分や油分が浸入すると故障の原因となります。
エア供給流量は指定流量を守って下さい。
防塵防滴性能を満たす為にはエアパージが必須です。エアパージ無しで稼動させないでください。
液体、異物侵入の原因となります。
（稼動開始時、終了時には特にご注意下さい）

③ 稼動終了時には出力軸周辺に付着した水滴はエアパージ状態でウエス等で拭き取って下さい。
水滴が付着したままエアダウン状態で放置すると水滴がアクチュエータ内部に侵入する危険があります。



※お客様側にて出力軸にテーブル等を取り付ける時には出力軸回りに水滴が溜まらない構造としてください。

④ エアガンによるブローついて
エアガンで出力軸に直接ブローしないでください。
アクチュエータ周辺をエアブロー清掃する時はエアパージした状態で行って下さい。



海外規格対応

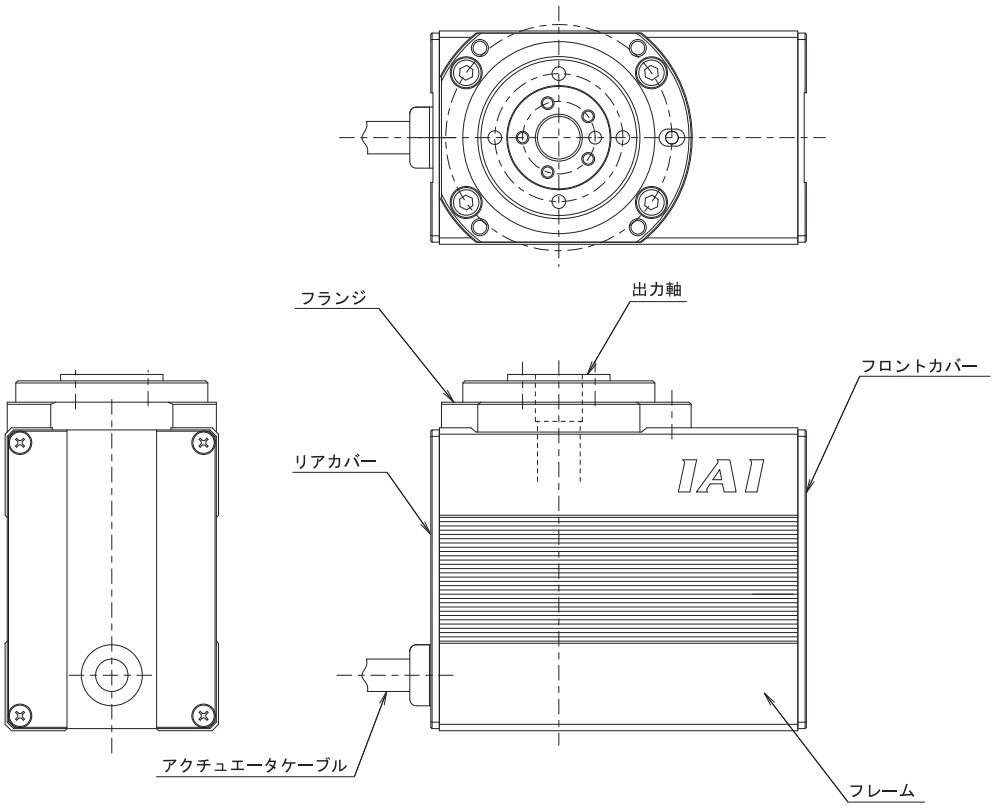
本アクチュエータは、以下の海外規格に対応しています。
詳細は海外規格対応マニュアル(MJ0287)をご確認ください。

RoHS指令	CEマーキング
○	○

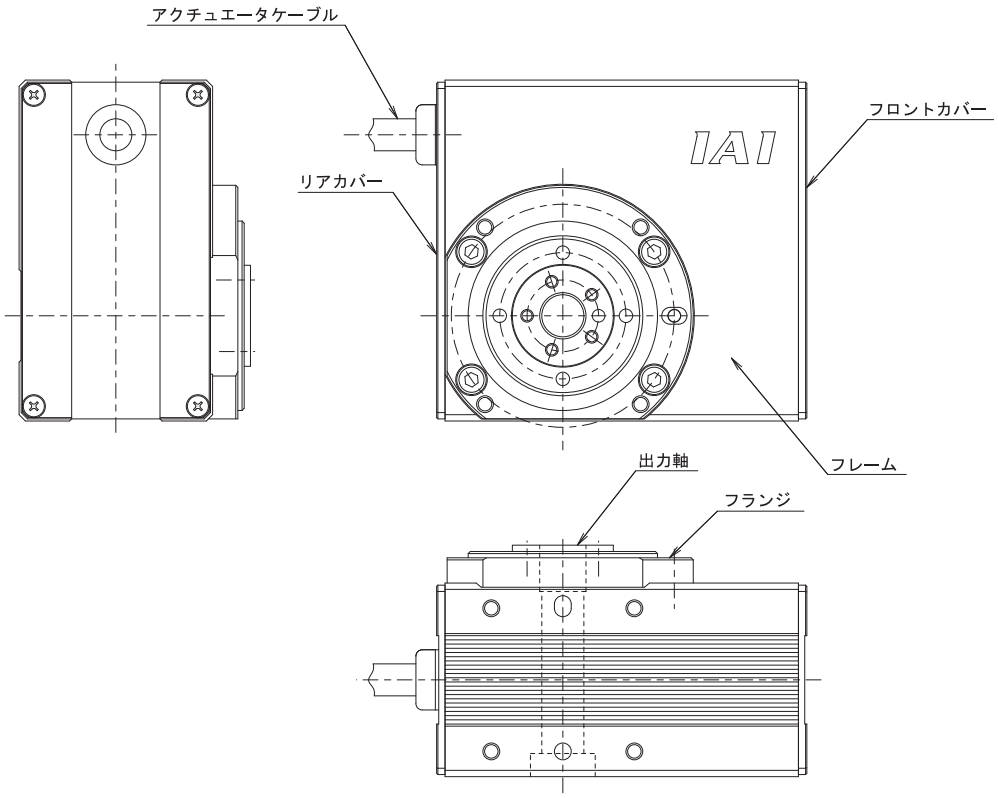
各部の名称

本説明書では、図のようにアクチュエータを水平に置いた状態で、モータ側からアクチュエータを見て左右を表しています。

- 縦型



- 扁平型



1. 仕様の確認

1.1 製品の確認

本製品は、標準構成の場合、以下の製品で構成されています。
梱包明細書で、梱包品を確認してください。万が一、型式の間違いや不足のものがありましたら、お手数ですが、販売店または当社までご連絡ください。

1.1.1 構成品

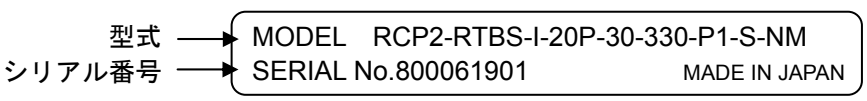
番号	品　名	型　式	数量
1	本体	型式銘板の見方、型式の見方を参照	1
付属品			
2	モータ・エンコーダケーブル(注1)		1式
3	ファーストステップガイド		1
4	取扱説明書(DVD)		1
5	安全ガイド		1

注1　付属されているモータ・エンコーダケーブルは、標準品とロボットケーブルでは異なります。[1.4.モータ・エンコーダケーブル参照]

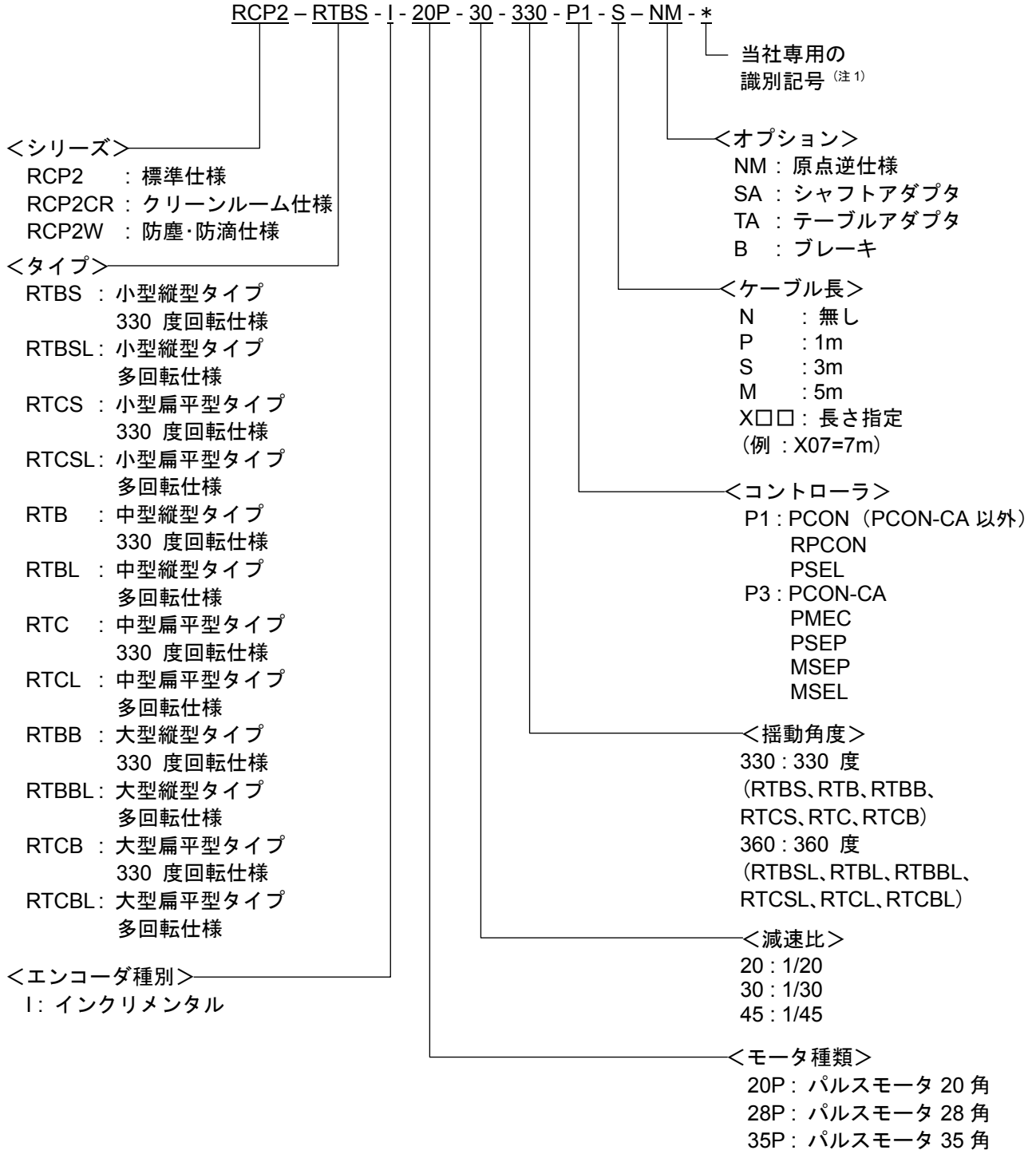
1.1.2 本製品関連用コントローラの取扱説明書

番号	名　称	管理番号
1	PSEL コントローラ取扱説明書	MJ0172
2	PCON-C-/CG/CF コントローラ取扱説明書	MJ0170
3	PCON-CY コントローラ取扱説明書	MJ0156
4	PCON-SE コントローラ取扱説明書	MJ0163
5	PCON-PL/PO コントローラ取扱説明書	MJ0164
6	PCON-CA/CFA コントローラ取扱説明書	MJ0289
7	ASEP/PSEP コントローラ取扱説明書	MJ0216
8	MSEP コントローラ取扱説明書	MJ0299
9	MSEL コントローラ取扱説明書	MJ0336
10	パソコン対応ソフト IA-101X-XMW/ZA-101-X-USBMW 取扱説明書	MJ0154
11	パソコン対応ソフト RCM-101MW/RCM-101-USB 取扱説明書	MJ0155
12	ティーチングボックス SEL-T/TD 取扱説明書	MJ0183
13	ティーチングボックス CON-T/TG 取扱説明書	MJ0178
14	タッチパネルティーチング CON-PT/PD/PG 取扱説明書	MJ0227
15	タッチパネルティーチング CON-PTA/PDA/PGA 取扱説明書	MJ0295
16	タッチパネルティーチング SEP-PT 取扱説明書	MJ0217
17	タッチパネルティーチング TB-01/01D/01DR 取扱説明書 ポジションコントローラ対応	MJ0324

1.1.3 型式銘板の見方



1.1.4 型式の見方



注 1　当社都合により記載されることがあります。（型式を示すものではありません。）

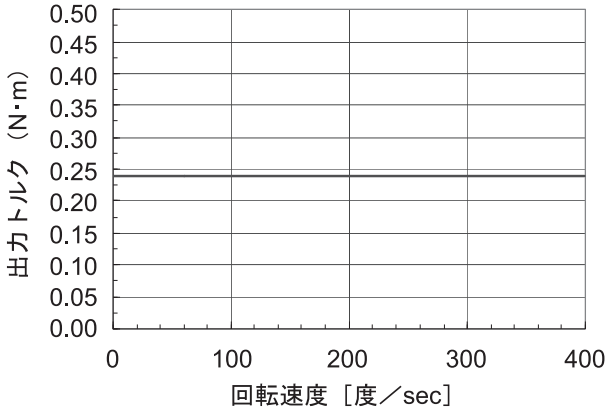
1.2 仕様

1.2.1 小型タイプ

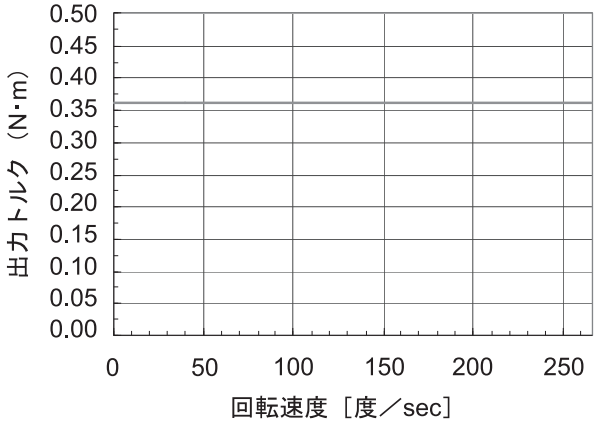
型式		RTBS / RTBSL		RTCS / RTCSL	
減速比		1/30	1/45	1/30	1/45
動作範囲	度	標準仕様：330 度 / 多回転仕様：±9999 度			
最大トルク	N/m	0.24	0.36	0.24	0.36
最大速度	度/sec	400	266	400	266
位置決め再現性	度	±0.05			
バックラッシ	度	±0.1			
許容慣性モーメント	Kg･㎡	0.0023	0.0035	0.0023	0.0035
許容スラスト荷重	N	30			
許容負荷モーメント	N･m	3.6			
原点復帰精度	度	±0.05 度以内			
駆動方式		ステッピングモータ+タイミングベルト+ハイポイドギア(1/30)			
エンコーダパルス数	P/R	200			

- 出力トルク
  回転軸出力トルクは、回転速度により変動します。

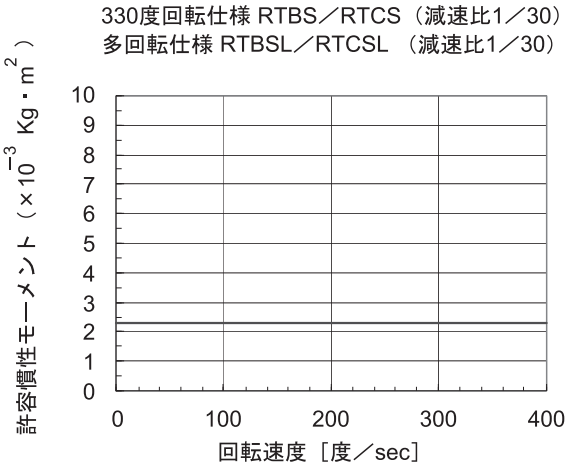
330度回転仕様 RTBS／RTCS（減速比1／30）
多回転仕様 RTBSL／RTCSL （減速比1／30）

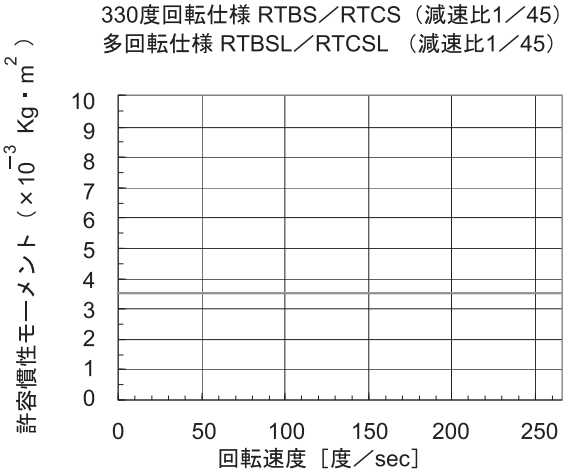


330度回転仕様 RTBS／RTCS（減速比1／45）
多回転仕様 RTBSL／RTCSL （減速比1／45）



- 許容慣性モーメント
  回転させることができるワークの慣性モーメントは、回転速度により異なります。
  動作条件及び慣性モーメントを確認のうえ、ワークを設計してください。

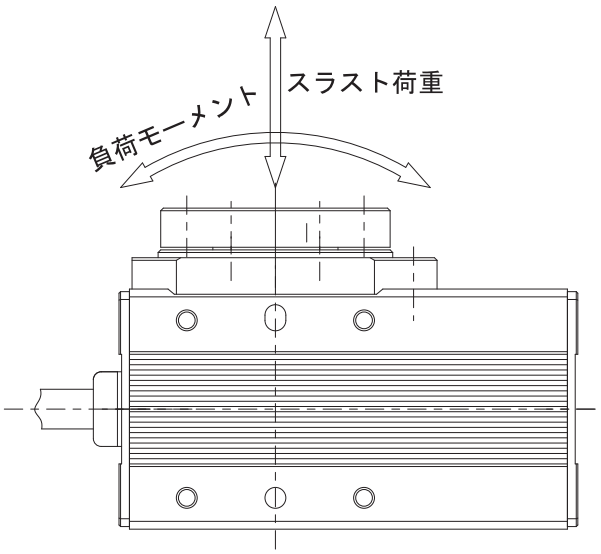




⚠ 注意：回転軸が水平方向で使用する場合は、ワーク重心が回転中心から離れた位置にあると、重力による負荷トルクが発生します。回転速度を下げるか、ワーク慣性モーメントを軽減する必要があります。

- 許容負荷モーメント・スラスト荷重
  回転軸にかかる負荷モーメント、スラスト荷重が許容値以内かどうか確認してください。

機種	許容負荷モーメント	許容スラスト荷重
330 度回転仕様 RTBS／RTCS	3.6N･m	30N
多回転仕様 RTBSL／RTCSL		



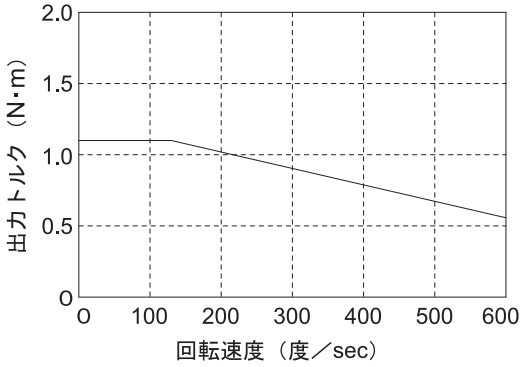
⚠ 注意：
- 許容値以上の負荷で使用すると、動作不良、又は寿命低下、破損の原因となります。許容値以下となるように負荷を設定する必要があります。
- 回転軸が水平方向で使用する場合は、出来るだけ負荷トルクがかからないようなワーク構造としてください。

1.2.2 中型タイプ

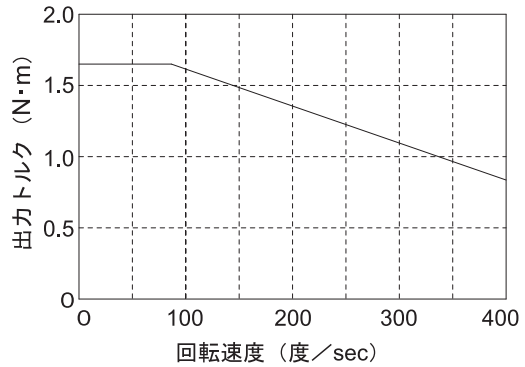
型式		RTB / RTBL		RTC / RTCL	
減速比		1/20	1/30	1/20	1/30
動作範囲	度	標準仕様：330 度 / 多回転仕様：±9999 度			
最大トルク	N･m	1.1	1.7	1.1	1.7
最大速度	度/sec	600	400	600	400
位置決め再現性	度	±0.01			
バックラッシ	度	±0.1			
許容慣性モーメント	Kg･㎡	0.01	0.015	0.01	0.015
許容スラスト荷重	N	50			
許容負荷モーメント	N･m	3.9			
原点復帰精度	度	標準仕様：±0.01 度以内 / 多回転仕様：±0.05 度以内			
駆動方式		ステッピングモータ+タイミングベルト+ハイポイドギア(1/20)			
エンコーダパルス数	P/R	200			
ブレーキ付仕様 保持トルク	N･m	0.4(出力軸換算)			

- 出力トルク
  回転軸出力トルクは、回転速度により変動します。

330度回転仕様 RTB／RTC（減速比1／20）
多回転仕様 RTBL／RTCL （減速比1／20）

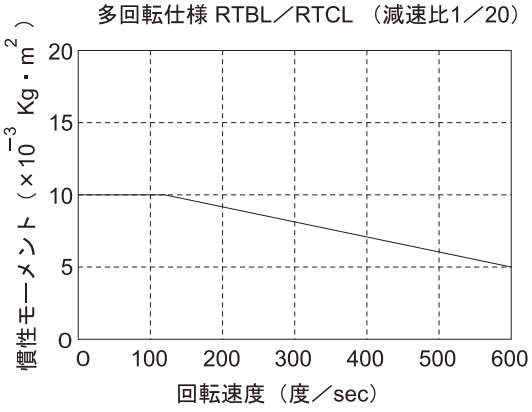


330度回転仕様 RTB／RTC（減速比1／30）
多回転仕様 RTBL／RTCL （減速比1／30）

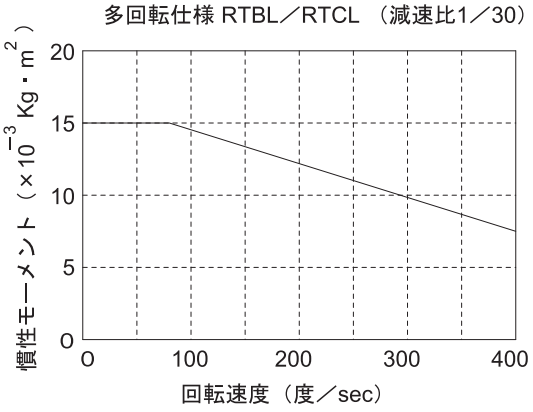


- 許容慣性モーメント
  回転させることができるワークの慣性モーメントは、回転速度により異なります。
  動作条件及び慣性モーメントを確認のうえ、ワークを設計してください。

330度回転仕様 RTB／RTC（減速比1／20）
多回転仕様 RTBL／RTCL （減速比1／20）



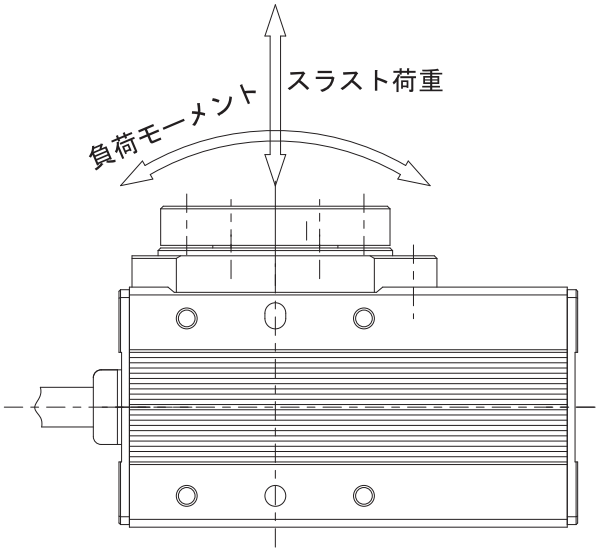
330度回転仕様 RTB／RTC（減速比1／30）
多回転仕様 RTBL／RTCL （減速比1／30）



⚠ 注意： 回転軸が水平方向で使用する場合は、ワーク重心が回転中心から離れた位置にあると、重力による負荷トルクが発生します。回転速度を下げるか、ワーク慣性モーメントを軽減する必要があります。

- 許容負荷モーメント・スラスト荷重
  回転軸にかかる負荷モーメント、スラスト荷重が許容値以内かどうか確認してください。

機種	許容負荷モーメント	許容スラスト荷重
330 度回転仕様 RTB／RTC	3.9N･m	50N
多回転仕様 RTBL／RTCL		



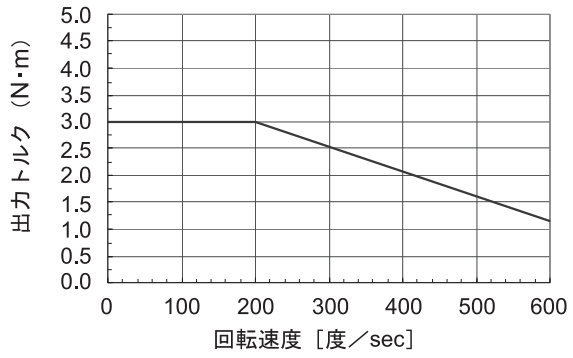
⚠ 注意：
- 許容値以上の負荷で使用すると、動作不良、又は寿命低下、破損の原因となります。許容値以下となるように負荷を設定する必要があります。
- 回転軸が水平方向で使用する場合は、出来るだけ負荷トルクがかからないようなワーク構造としてください。

1.2.3 大型タイプ

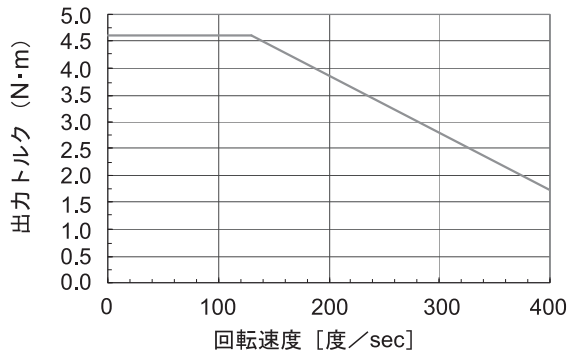
型式		RTBB / RTBBL		RTCB / RTCBL	
減速比		1/20	1/30	1/20	1/30
動作範囲	度	標準仕様：330 度 / 多回転仕様：±9999 度			
最大トルク	N･m	3	4.6	3	4.6
最大速度	度/sec	600	400	600	400
位置決め再現性	度	±0.01			
バックラッシ	度	±0.1			
許容慣性モーメント	Kg･㎡	0.02	0.03	0.02	0.03
許容スラスト荷重	N	200			
許容負荷モーメント	N･m	17.7			
原点復帰精度	度	標準仕様：±0.01 度以内 / 多回転仕様：±0.03 度以内			
駆動方式		ステッピングモータ+タイミングベルト+ハイポイドギア(1/20)			
エンコーダパルス数	P/R	200			
ブレーキ付仕様 保持トルク	N･m	2.9(出力軸換算)			

- 出力トルク
  回転軸出力トルクは、回転速度により変動します。

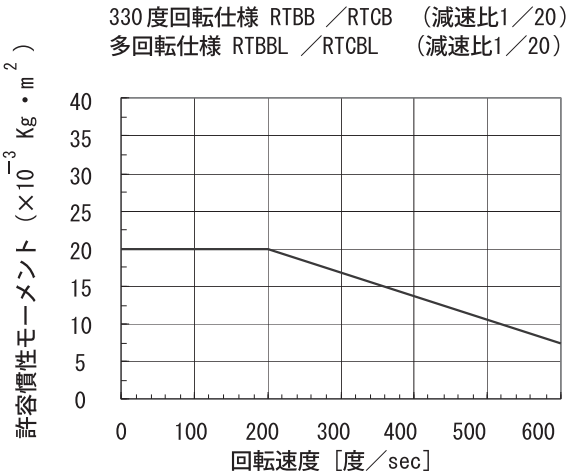
330度回転仕様 RTBB／RTCB（減速比1／20）
多回転仕様 RTBBL／RTCBL （減速比1／20）

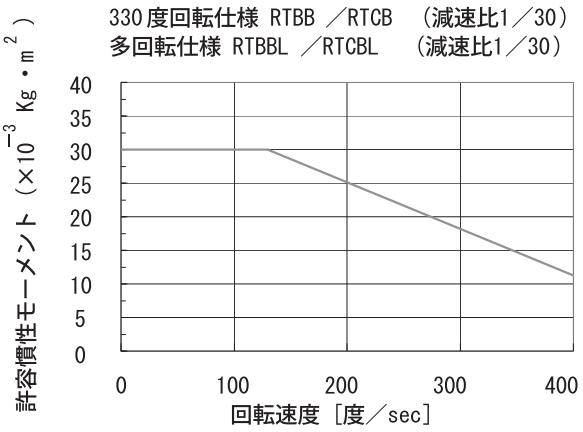


330度回転仕様 RTBB／RTCB（減速比1／30）
多回転仕様 RTBBL／RTCBL （減速比1／30）



- 許容慣性モーメント
  回転させることができるワークの慣性モーメントは、回転速度により異なります。
  動作条件及び慣性モーメントを確認のうえ、ワークを設計してください。

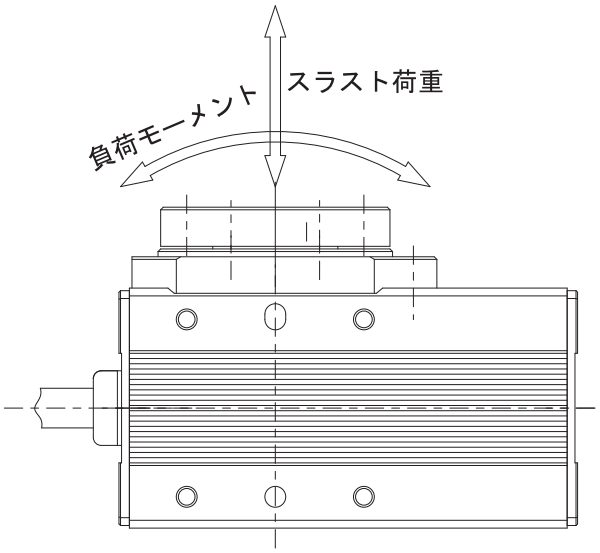




⚠ 注意：回転軸が水平方向で使用する場合は、ワーク重心が回転中心から離れた位置にあると、重力による負荷トルクが発生します。回転速度を下げるか、ワーク慣性モーメントを軽減する必要があります。

- 許容負荷モーメント・スラスト荷重
  回転軸にかかる負荷モーメント、スラスト荷重が許容値以内かどうか確認してください。

機種	許容負荷モーメント	許容スラスト荷重
330 度回転仕様 RTBB／RTCB	17.7N·m	200N
多回転仕様 RTBBL／RTCBL		



⚠ 注意：
- 許容値以上の負荷で使用すると、動作不良、又は寿命低下、破損の原因となります。許容値以下となるように負荷を設定する必要があります。
- 回転軸が水平方向で使用する場合は、出来るだけ負荷トルクがかからないようなワーク構造としてください。

1.2.4　クリーンルーム仕様

クリーン度	クラス 10 対応（0.1μm）		
エア吸引用配管継手	ワンタッチ管継手　適用チューブ外形φ6		
エア吸引流量	RTBS/RTBSL/RTCS/RTCSL	RTB/RTBL/RTC/RTCL	RTBB/RTBBL/RTCB/RTCBL
	10 Nl/min	15 Nl/min	20 Nl/min

1.2.5　防塵・防滴仕様

保護等級	IP54 相当		
エアパージ用配管継手	ワンタッチ管継手　適用チューブ外形φ6		
エアパージ流量	RTBS/RTBSL/RTCS/RTCSL	RTB/RTBL/RTC/RTCL	RTBB/RTBBL/RTCB/RTCBL
	15 Nl/min	20 Nl/min	40 Nl/min

1.3 使用上の注意

1.3.1 動作範囲と原点復帰

●動作(ポジション設定)範囲
原点位置からの移動角度がポジション値となります。
- 330 度回転仕様：ポジション指定範囲　0～330 度

- 多回転仕様：ポジション指定範囲

モード	絶対位置指定	相対位置指定
回転軸　ノーマルモード	－0.15～＋9999.15	－9999.30～＋9999.30
回転軸　インデックスモード	0～359.99	－360.00～＋360.00

※詳細に付きましては、コントローラの仕様書を、ご参照ください

●角速度、加減速度指令
回転角度は角速度(度／sec)が指令値となります。
加減速度はプログラム上では「G」で指定します。
小型タイプ RTBS 、RTCS 、RTBSL 、RTCSL
　定格角加減速度：0.2G＝1960 度／s^2
中型タイプ RTB 、RTC 、RTBL 、RTCL 大型タイプ RTBB 、RTCB 、RTBBL 、RTCBL
　定格角加減速度：0.3G＝2940 度／s^2

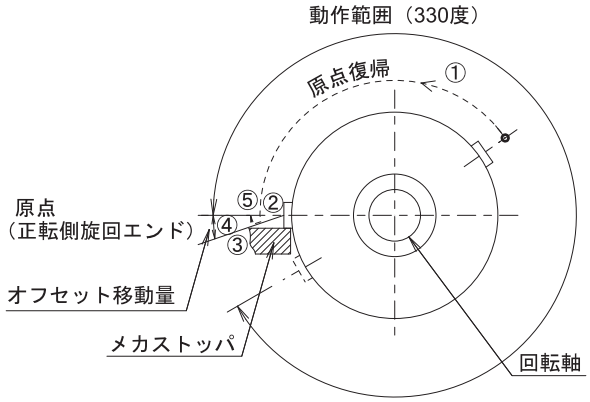
1.3.2 原点復帰方向

出力軸の反時計回り移動端が原点位置となります。
※多回転仕様には、逆回転仕様があります。逆回転仕様の場合は、原点復帰方向が時計回りになります。

⚠ 注意：納入後、パラメータ変更にて原点復帰方向を変更した場合、原点復帰方向は逆になりますが、構造上、原点位置がずれます。原点復帰方向のパラメータ変更は行わないでください。

1.3.3 原点復帰動作

- 330 度回転仕様
  ①原点復帰開始→②メカストッパ検出→③反転→④オフセット量移動→⑤原点位置



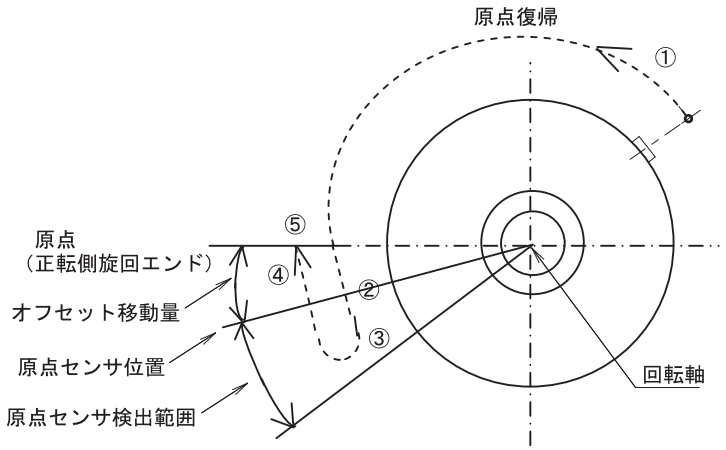
330度回転仕様 RTBS／RTCS、RTB／RTC、RTBB／RTCB

⚠ 注意：原点復帰は必ず一定方向に回転します。
原点復帰方向が標準仕様の場合は、必ず反時計方向に回転します。
開口穴にケーブルなどを通した場合はケーブルへの負荷にご注意ください。
切断の恐れがあります。

- 多回転仕様

PCON コントローラ	V 0018 以前
PSEL コントローラ	V 0.21 以前

①原点復帰開始→②原点センサ検出(B 接点時：信号の立ち上がり又は信号 ON 検出)→③反転→④原点センサ検出(B 接点時：信号の立ち上がり又は信号 OFF 検出)→⑤オフセット量移動→⑤原点位置
※原点センサ検出範囲内で原点復帰動作を行った場合は、一旦、原点センサ検出範囲外に移動し、その後、原点復帰動作を行います。



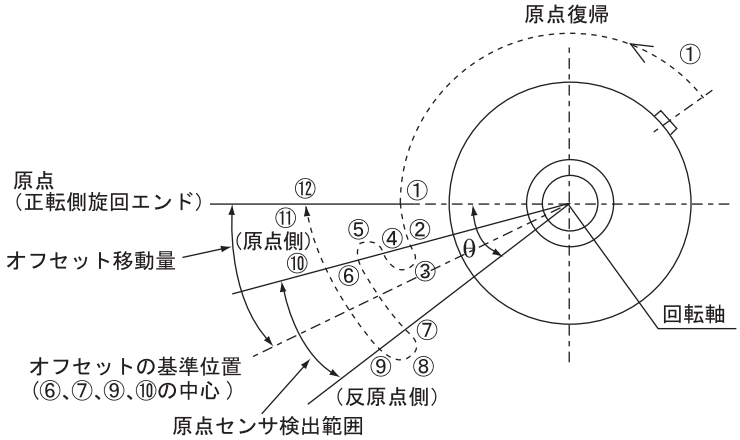
多回転仕様 RTBL／RTCL

⚠ 注意：原点復帰は必ず一定方向に回転します。
原点復帰方向が標準仕様の場合は、必ず反時計方向に回転します。
ただし、多回転仕様の場合、図中の原点センサ検出範囲外の位置では必ず反時計回り方向に原点復帰します。近回りしません。
開口穴にケーブルなどを通した場合はケーブルへの負荷にご注意ください。
切断の恐れがあります。

- 多回転仕様

PCON コントローラ	V 0019 以前
PSEL コントローラ	V 0.22 以前

[原点センサ検出範囲(原点側)の検出]
① 原点復帰開始(原点センサ検出範囲を捜索)
② 原点センサ検出範囲(原点側) を検出(B 接点時：信号の立ち下がりまたは信号 OFF 検出)
③ 反転(原点センサ非検出範囲を捜索)
④ 原点センサ非検出範囲(原点を検出(B 接点時：信号の立ち上がりまたは信号 ON 検出)
⑤ 反転
[原点センサ検出範囲の 4 点⑥、⑦、⑨、⑩の検出。⑥、⑦、⑨、⑩の中心位置をオフセットの基準位置とする。]
⑥ 原点センサ検出範囲(原点側)を検出(B 接点時：信号の立ち下がりまたは信号 OFF 検出)、原点センサ非検出範囲(反原点側)へ移動
⑦ 原点センサ非検出範囲(反原点側)を検出(B 接点時：信号の立ち上がりまたは信号 ON 検出)
⑧ 反転、原点センサ検出範囲(反原点側)へ移動
⑨ 原点センサ検出範囲(反原点側)を検出(B 接点時：信号の立ち下がりまたは信号 OFF 検出)、原点センサ非検出範囲(原点側)へ移動
⑩ 原点センサ非検出範囲(原点側)を検出(B 接点時：信号の立ち上がりまたは信号 ON 検出)
[オフセット移動動作]
⑪ ⑥、⑦、⑨、⑩の中心からオフセットの基準位置を決めます。
オフセットの基準位置からオフセット移動量移動した位置が原点となります。
現在の位置から原点へ移動。
⑫ 原点位置



原点復帰範θ(目安)(注 1)
- RTBSL／RTCSL ：約40度
- RTBL／RTCL ：約30度
- RTBBL／RTCBL ：約10度

(注 1) 原点センサの検出距離によって多少バラツキます。目安としてください。

多回転仕様 RTBSL／RTCSL、RTBL／RTCL、RTBBL／RTCBL

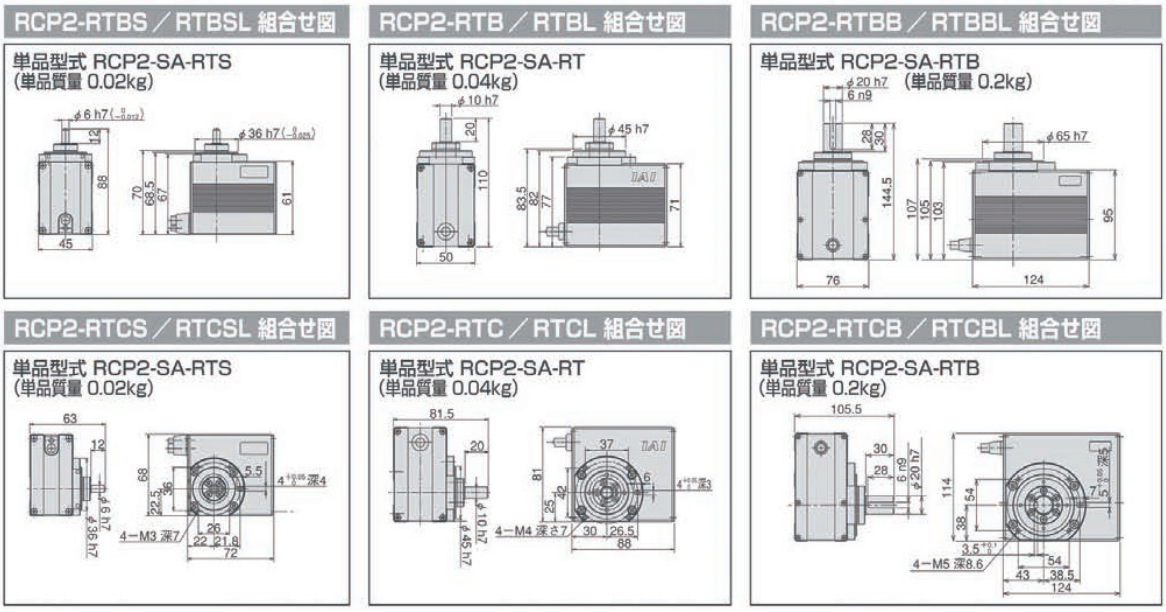
⚠ 注意： 原点復帰は必ず一定方向に回転します。
原点復帰方向が標準仕様の場合は、必ず反時計方向に回転します。
ただし、多回転仕様の場合、図中の原点センサ検出範囲外の位置では必ず反時計回り方向に原点復帰します。近回りしません。
開口穴にケーブルなどを通した場合はケーブルへの負荷にご注意ください。
切断の恐れがあります。

1.4 オプション

1.4.1 原点逆仕様(型式：NM)

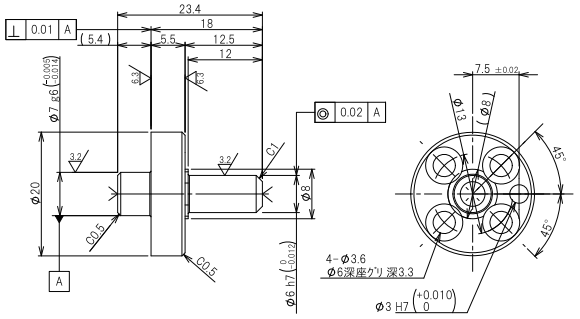
1.4.2 シャフトアダプタ(型式：SA)

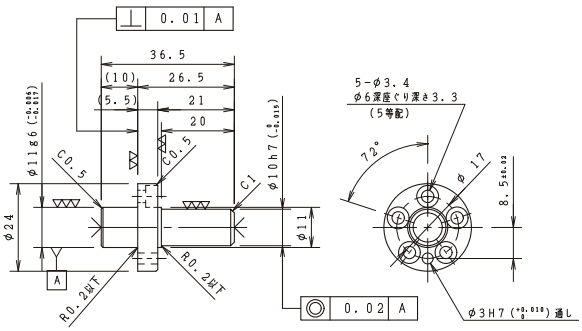
回転部に治具などを取付けるためのシャフト形状のアダプタです。



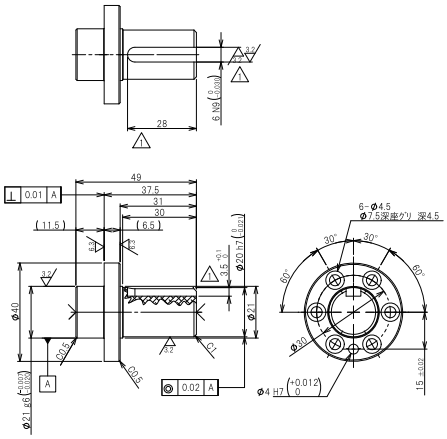
RTBS/RTBSL/RTCS/RTCSL 用シャフト

RTB/RTBL/RTC/RTCL 用シャフト





RTBB/RTBBL/RTCB/RTCBL 用シャフト

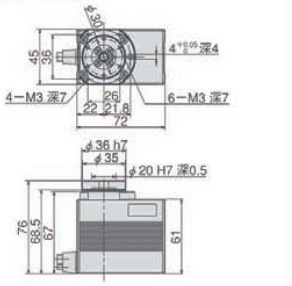


1.4.3　テーブルアダプタ（型式：TA）

回転部に治具などを取付けるためのテーブル形状のアダプタです。

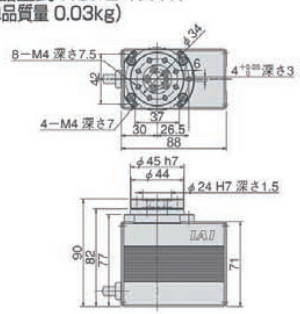
RCP2-RTBS／RTBSL 組合せ図

単品型式 RCP2-TA-RTS
(単品質量 0.02kg)



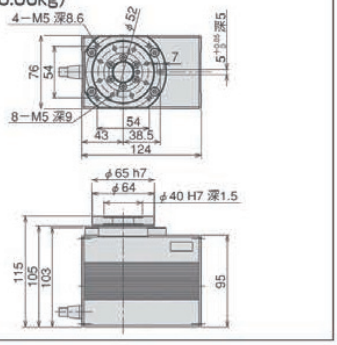
RCP2-RTB／RTBL 組合せ図

単品型式 RCP2-TA-RT
(単品質量 0.03kg)



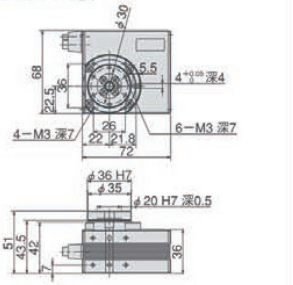
RCP2-RTBB／RTBBL 組合せ図

単品型式 RCP2-TA-RTB
(単品質量 0.06kg)



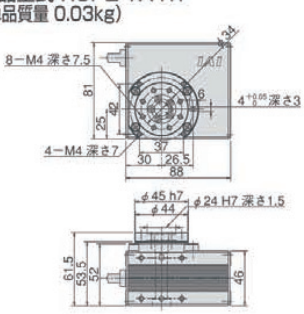
RCP2-RTCS／RTCSL 組合せ図

単品型式 RCP2-TA-RTS
(単品質量 0.02kg)



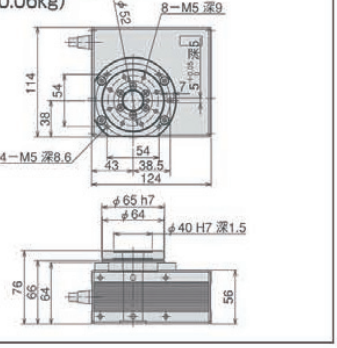
RCP2-RTC／RTCL 組合せ図

単品型式 RCP2-TA-RT
(単品質量 0.03kg)

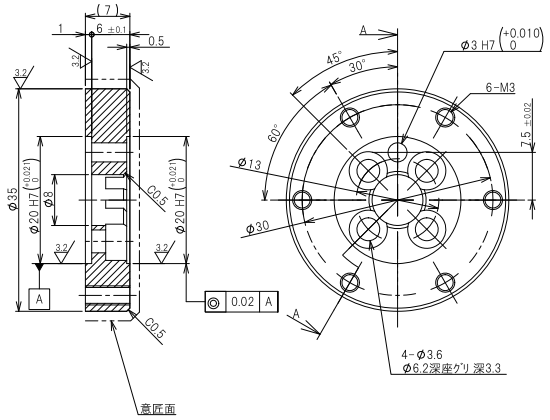


RCP2-RTCB／RTCBL 組合せ図

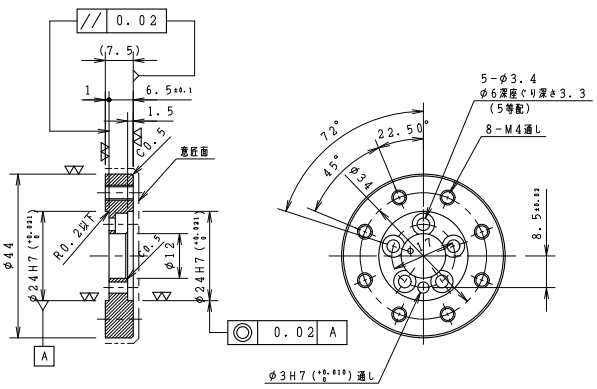
単品型式 RCP2-TA-RTB
(単品質量 0.06kg)



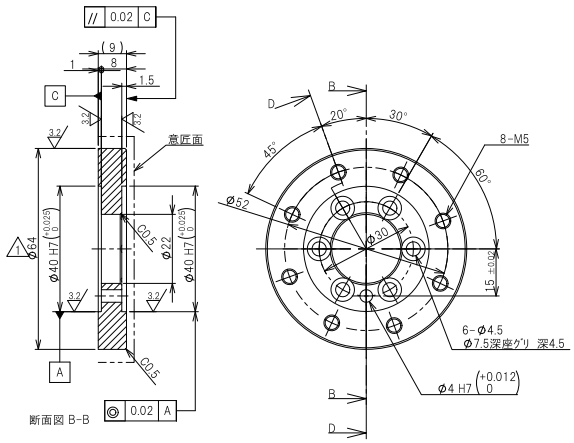
RTBS/RTBSL/RTCS/RTCSL用テーブル

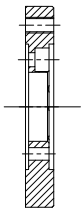


RTB/RTBL/RTC/RTCL用テーブル



RTBB/RTBBL/RTCB/RTCBL用テーブル





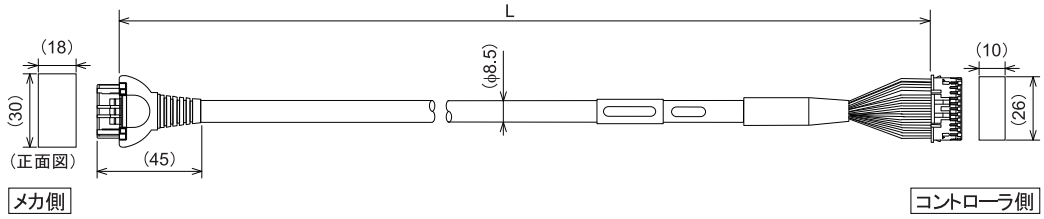
1.4.4 ブレーキ付き（型式：B）

1.5 モータ・エンコーダケーブル

1.5.1 小型タイプ ［RTBS、RTBSL、RTCS、RTCSL］

【PMEC、PSEP、MSEP、MSEL、PCON-CA コントローラ用】

① モータ・エンコーダー体型ケーブル：CB-RPSEP-MPA□□□

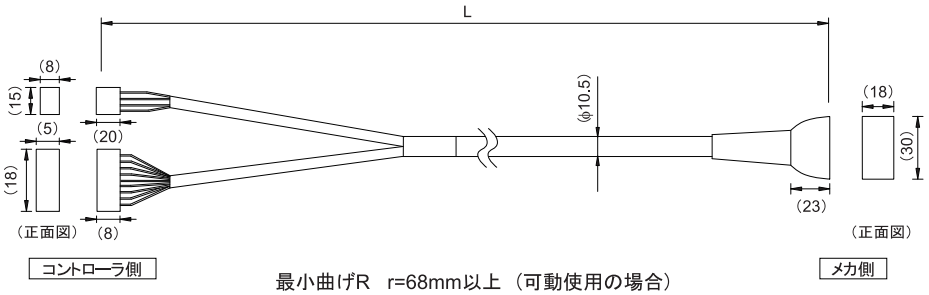


最小曲げR　r=68mm以上（可動使用の場合）
r=34mm以上（固定使用の場合）

メカ側 端子番号		コントローラ側 端子番号
A1	黒[φA]	1
B1	白[VMM]	2
A2	茶[φ/A]	5
B2	緑[φB]	3
A3	黄[VMM]	4
B3	赤[φ/B]	6
A6	橙[LS+]	7
B6	灰[LS-]	8
A7	赤[A+]	13
B7	緑[A-]	14
A8	黒[B+]	15
B8	茶[B-]	16
A4	NC	7
B4	NC	8
A5	黒(識別テープ)[BK+]	9
B5	茶(識別テープ)[BK-]	10
A9	緑(識別テープ)[GNDLS]	20
B9	赤(識別テープ)[VPS]	18
A10	白(識別テープ)[VCC]	17
B10	黄(識別テープ)[GND]	19
A11	NC	21
B11	シールド[FG]	24
	NC	22
	NC	23

【PCON-CY／SE／PL／PO、PSEL コントローラ用】

② モータ・エンコーダー体型ケーブル：CB-PCS-MPA□□□



最小曲げR　r=68mm以上（可動使用の場合）
　　r=34mm以上（固定使用の場合）

（注）　曲げ半径は、電線変更後の値です。
　　変更前のケーブルの値は異なります。

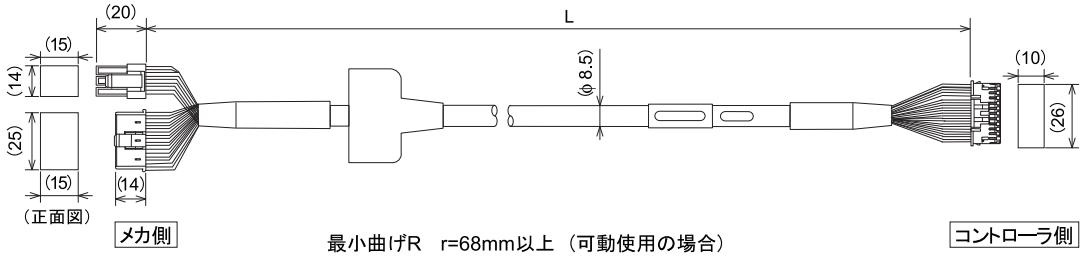
信号	ピン番号	（線色）	ピン番号	信号
A	B1	黒	A1	A
VMM	A2	白	B1	VMM
／A	A1	赤	A2	／A
B	B3	緑	B2	B
VMM	B2	黄	A3	VMM
／B	A3	茶	B3	／B
			A4	NC
			B4	NC
BK＋	14	橙	A5	BK＋
BK－	13	灰	B5	BK－
LS＋	16	白	A6	LS＋
LS－	15	黄	B6	LS－
A＋	12	赤	A7	A＋
A－	11	緑	B7	A－
B＋	10	黒	A8	B＋
B－	9	茶	B8	B－
NC	8		A9	NC
VPS	7	黄（識別テープ）	B9	VPS
VCC	6	赤（識別テープ）	A10	VCC
GND	5	緑（識別テープ）	B10	GND
NC	4		A11	NC
FG	1	シールド	B11	FG

（注）　電線色は、電線変更後の色です。変更前のケーブルの電線色は異なります。

1.5.2 中型タイプ ［RTB、RTBL、RTC、RTCL］
大型タイプ ［RTBB、RTBBL、RTCB、RTCBL］

【PMEC、PSEP、MSEP、MSEL、PCON-CA コントローラ用】

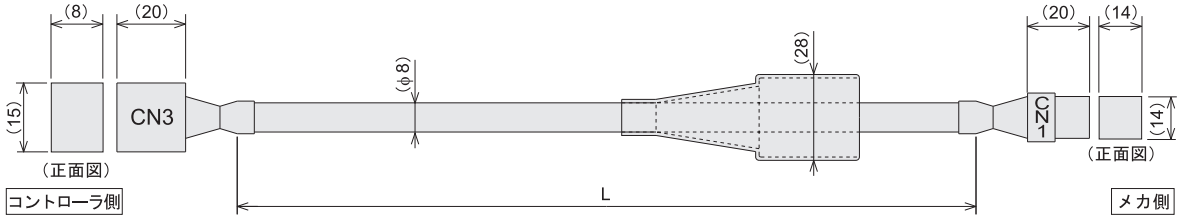
① モータ・エンコーダー体型ケーブル：CB-PSEP-MPA□□□



メカ側 端子番号		コントローラ側 端子番号
1	黒[φ A]	1
2	白[VMM]	2
4	赤[φ B]	3
5	緑[VMM]	4
3	茶[φ /A]	5
6	黄[φ /B]	6
16	橙[BK+]	9
17	灰[BK-]	10
5	NC	11
6	NC	12
13	黒[LS+]	7
14	茶[LS-]	8
1	白[A+]	13
2	黄[A-]	14
3	赤[B+]	15
4	緑[B-]	16
10	白（識別テープ）[VCC]	17
11	黄（識別テープ）[VPS]	18
9	赤（識別テープ）[GND]	19
12	緑（識別テープ）[（予備）]	20
15	NC	21
7	NC	22
8	NC	23
18	シールド[FG]	24

【PCON-CY／SE／PL／PO、PSEL コントローラ用】

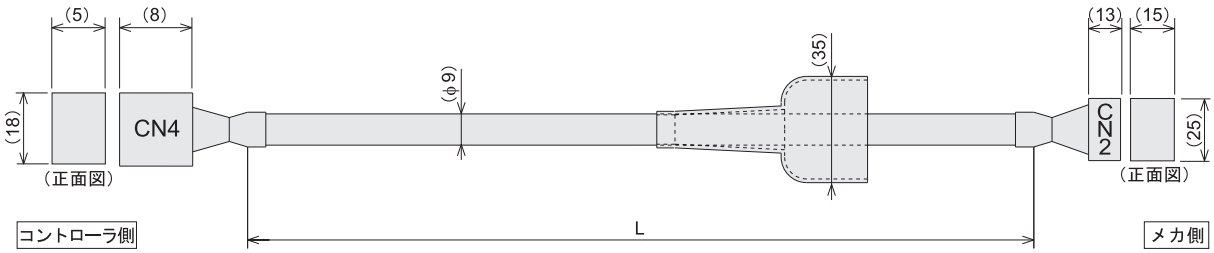
① モータケーブル：CB-RCP2-MA□□□



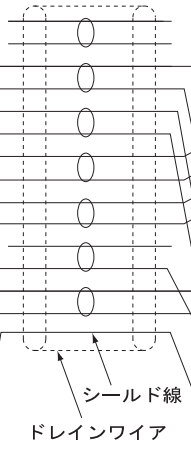
Mケーブル

CN3				CN1			
I-1318119-3（AMP）	橙	Ā	A1	1	A	黄	SLP-06V（日圧）
	灰	VMM	A2	2	VMM	灰	
	白	B̄	A3	3	Ā	橙	
	黄	A	B1	4	B	橙(黒1)	
	桃	VMM	B2	5	VMM	桃	
	橙(黒1)	B	B3	6	B̄	白	

② エンコーダケーブル：CB-RCP2-PB□□□
エンコーダロボットケーブル：CB-RCP2- PB□□□-RB



CN4	ケーブル色	信号名称	ピン名称
PHDR-16VS（日圧）	青(赤1)	LS＋	16
	白	LS－	15
	赤	BK＋	14
	灰	BK－	13
	茶	ENA	12
	緑	ENA	11
	紫	ENB	10
	桃	ENB	9
	―	―	8
	黄	VPS	7
	橙	VBB	6
	青	GND	5
	―	(N.C)	4
	―	(N.C)	3
	―	(N.C)	2
	ドレイン	F.G	1

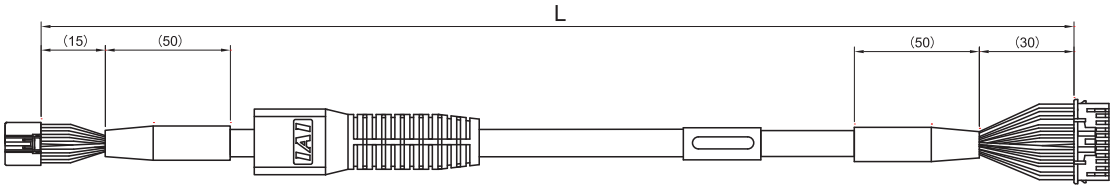


ピン名称	信号名称	ケーブル色	CN2
1	ENA	茶	XMP-18V（日圧）
2	ENA	緑	
3	ENB	紫	
4	ENB	桃	
5	―	―	
6	―	―	
7	―	―	
8	―	―	
9	GND	青	
10	VBB	橙	
11	VPS	黄	
12	―	―	
13	LS＋	青(赤1)	
14	LS－	白	
15	―	―	
16	BK＋	赤	
17	BK－	灰	
18	F.G	ドレイン	

1.5.3　クリーンルーム・防塵・防滴仕様

【PMEC、PSEP、MSEP、MSEL、PCON-CA コントローラ用】

① モータ・エンコーダー体型ケーブル：CB-CAN-MPA□□□



アクチュエータ側
コネクタ：DF62B-24S-2.2C
コンタクト：DF62-2428SCFA（AWG26用）
DF62-22SCFA（AWG22用）

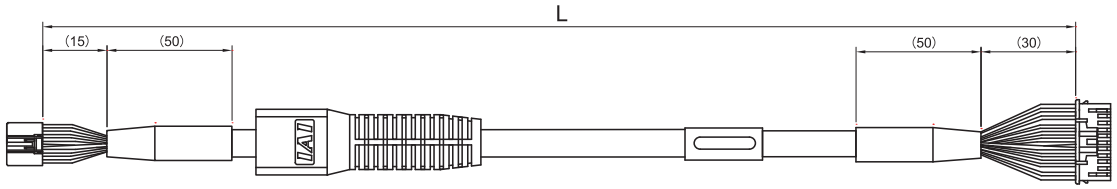
コントローラ側
コネクタ：PADP-24V-1-S
コンタクト
SPND-002T-C0.5（AWG26用）
SPND-001T-C0.5（AWG22用）

接続図

アクチュエータ側					コントローラ側			
太さ	電線色	信号名	ピン No.		ピン No.	信号名	電線色	太さ
AWG22/19	青	ϕA	3		1	ϕA	青	AWG22/19
AWG22/19	橙	VMM	5		2	VMM	橙	AWG22/19
AWG22/19	茶	ϕB	10		3	ϕB	茶	AWG22/19
AWG22/19	灰	VMM	9		4	VMM	灰	AWG22/19
AWG22/19	緑	ϕ_A	4		5	ϕ_A	緑	AWG22/19
AWG22/19	赤	ϕ_B	15		6	ϕ_B	赤	AWG22/19
AWG26	黒	LS+	8		7	LS+	黒	AWG26
AWG26	黄	LS-	14		8	LS-	黄	AWG26
AWG26	青	SA	12		11	SA	青	AWG26
AWG26	橙	SB	17		12	SB	橙	AWG26
AWG26	緑	A+	1		13	A+	緑	AWG26
AWG26	茶	A-	6		14	A-	茶	AWG26
AWG26	灰	B+	11		15	B+	灰	AWG26
AWG26	赤	B-	16		16	B-	赤	AWG26
AWG26	青	BK+	20		9	BK+	青	AWG26
AWG26	橙	BK-	2		10	BK-	橙	AWG26
AWG26	灰	VCC	21		17	VCC	灰	AWG26
AWG26	赤	GND	7		19	GND	赤	AWG26
AWG26	茶	VPS	18		18	VPS	茶	AWG26
AWG26	緑	LS_GND	13		20	LS_GND	緑	AWG26
—	—	—	19		22	—		—
AWG26	桃	—	22		21	—	桃	AWG26
—	—	—	23		23	—		—
AWG26	黒	FG	24		24	FG	黒	AWG26

（注）太さ AWG22/19 について
ケーブル長が 5m 以下の場合、AWG22、5m を超える場合、AWG19 となります。

② モータ・エンコーダー体型ロボットケーブル：CB-CAN-MPA□□□-RB



アクチュエータ側
コネクタ：DF62B-24S-2.2C
コンタクト：DF62-2428SCFA（AWG26用）
DF62-22SCFA（AWG22用）

コントローラ側
コネクタ：PADP-24V-1-S
コンタクト
SPND-002T-C0.5（AWG26用）
SPND-001T-C0.5（AWG22用）

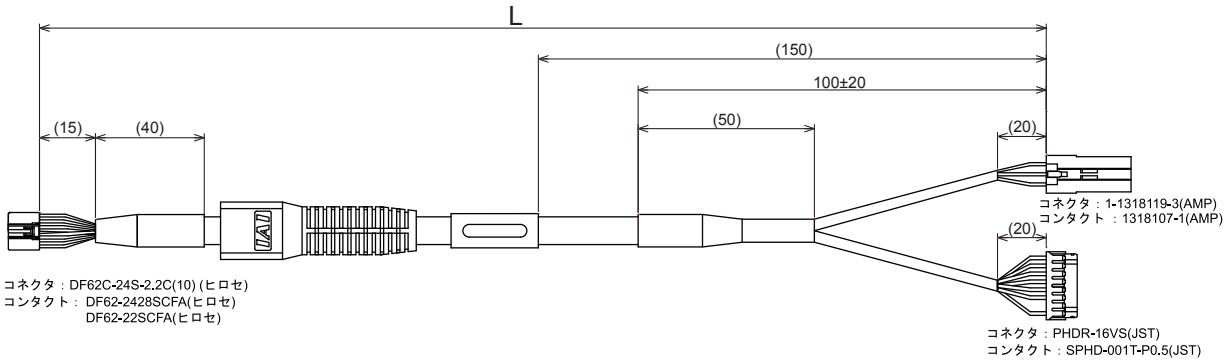
接続図

アクチュエータ側					コントローラ側			
太さ	電線色	信号名	ピン No.		ピン No.	信号名	電線色	太さ
AWG22/19	青	ϕA	3		1	ϕA	青	AWG22/19
AWG22/19	橙	VMM	5		2	VMM	橙	AWG22/19
AWG22/19	茶	ϕB	10		3	ϕB	茶	AWG22/19
AWG22/19	灰	VMM	9		4	VMM	灰	AWG22/19
AWG22/19	緑	ϕ_A	4		5	ϕ_A	緑	AWG22/19
AWG22/19	赤	ϕ_B	15		6	ϕ_B	赤	AWG22/19
AWG26	黒	LS+	8		7	LS+	黒	AWG26
AWG26	黄	LS-	14		8	LS-	黄	AWG26
AWG26	青	SA	12		11	SA	青	AWG26
AWG26	橙	SB	17		12	SB	橙	AWG26
AWG26	緑	A+	1		13	A+	緑	AWG26
AWG26	茶	A-	6		14	A-	茶	AWG26
AWG26	灰	B+	11		15	B+	灰	AWG26
AWG26	赤	B-	16		16	B-	赤	AWG26
AWG26	青	BK+	20		9	BK+	青	AWG26
AWG26	橙	BK-	2		10	BK-	橙	AWG26
AWG26	灰	VCC	21		17	VCC	灰	AWG26
AWG26	赤	GND	7		19	GND	赤	AWG26
AWG26	茶	VPS	18		18	VPS	茶	AWG26
AWG26	緑	LS_GND	13		20	LS_GND	緑	AWG26
—	—	—	19		22	—		—
AWG26	桃	—	22		21	—	桃	AWG26
—	—	—	23		23	—		—
AWG26	黒	FG	24		24	FG	黒	AWG26

（注）太さ AWG22/19 について
ケーブル長が 5m 以下の場合、AWG22、5m を超える場合、AWG19 となります。

【PCON-CY／SE／PL／PO、PSEL コントローラ用】

③　モータ・エンコーダー体型ロボットケーブル：CB-PCS2-MPA□□□



アクチュエータ側　　コントローラ側

接続図

アクチュエータ側

太さ	電線色	信号名	ピン No.
AWG22	青	ϕA	3
AWG22	橙	VMM	5
AWG22	茶	ϕB	10
AWG22	灰	VMM	9
AWG22	緑	ϕ_A	4
AWG22	赤	ϕ_B	15
AWG26	黒	LS+	8
AWG26	黄	LS-	14
AWG26	ー	ー	12
AWG26	ー	ー	17
AWG26	緑	A+	1
AWG26	茶	A-	6
AWG26	灰	B+	11
AWG26	赤	B-	16
AWG26	青	BK+	20
AWG26	橙	BK-	2
AWG26	灰	VCC	21
AWG26	赤	GND	7
AWG26	茶	VPS	18
ー	ー	ー	13
ー	ー	ー	19
ー	ー	ー	22
ー	ー	ー	23
AWG26	黒	FG	24

コントローラ側

ピン No.	信号名	電線色	太さ
B1	ϕA	青	AWG22
A2	VMM	橙	AWG22
B3	ϕB	茶	AWG22
B2	VMM	灰	AWG22
A1	ϕ_A	緑	AWG22
A3	ϕ_B	赤	AWG22
16	LS+	黒	AWG26
15	LS-	黄	AWG26
4	ー	ー	ー
3	ー	ー	ー
12	A+	緑	AWG26
11	A-	茶	AWG26
10	B+	灰	AWG26
9	B-	赤	AWG26
14	BK+	青	AWG26
13	BK-	橙	AWG26
6	VCC	灰	AWG26
5	GND	赤	AWG26
7	VPS	茶	AWG26
8	ー	ー	ー
2	ー	ー	ー
1	FG	黒	AWG26

2. 設置

2.1 運搬

〔1〕 単体での取扱い

特に指定がない場合、アクチュエータは１軸単位の梱包をして出荷しています。

(1) 梱包状態での取扱い
- ぶつけたり、落下したりしないようにしてください。梱包は、落下あるいは衝突による衝撃に耐えるための特別な配慮はしていません。
- 重い梱包は作業者単独では持ち運ばないでください。また、適切な運搬手段を用いてください。
- 静置するときは水平状態としてください。梱包に姿勢指示のある場合は、それに従ってください。
- 梱包の上に乗らないでください。
- 梱包が変形したり、破損したりするような物を載せないでください。

(2) 開梱後の取扱い
- アクチュエータは、ケーブルを持って運搬したり、ケーブルを引っ張って移動したりしないでください。
- アクチュエータ本体を運搬するときは、ベース部分またはブラケット部を持ってください。
- 持ち運びの際、ぶつけたり、落下したりしないようにしてください。
- アクチュエータの各部に無理な力を加えないでください。

〔2〕 組付け状態での取扱い

本製品を他のアクチュエータと組み合わせて当社から出荷した場合です。組み合わせ軸は、角材の土台に外枠を打付けた梱包をして出荷しています。運搬中にスライダが不用意に移動しないよう固定してあります。また、アクチュエータの先端部が外部振動により振れないように固定してあります。

(1) 梱包状態での取扱い
- ぶつけたり、落下したりしないようにしてください。この梱包は、落下あるいは衝突による衝撃に耐えるための特別な配慮をしていません。
- 重い梱包は、作業者単独では持ち運ばないでください。また、適切な運搬手段を用いてください。
- ロープ等で吊り上げる場合は角材の土台の下面の補強枠から支えてください。フォークで持ち上げる場合も同様に角材の土台の下面から持ち上げてください。
- 降ろすときには衝撃が加わったり、バウンドさせたりしないように扱ってください。
- 梱包の上に乗らないでください。
- 梱包が変形したり、破損したりするような物を載せないでください。

(2) 開梱後の取扱い
- 運搬中にスライダが不用意に移動しないように固定してください。
- アクチュエータの先端部が張り出している場合、外部振動により先端が大きく振れないよう適切な固定をしてください。先端を固定しない状態での運搬では 0.3G 以上の衝撃を加えないようにしてください。
- ロープなどで吊り上げる場合は適切な緩衝材を使用して、アクチュエータ本体に歪やゆがみが発生しないようにしてください。また、安定した水平姿勢を保持するようにしてください。必要に応じて、アクチュエータ本体に設けられている取付け穴またはタップ穴を利用した治具を製作し取付けてください。
- アクチュエータやコネクタボックスに荷重が加わらないようにしてください。またケーブルが挟まれたり、無理な変形が発生したりしないようにしてください。

〔3〕 機械装置(システム)に組み付けた状態での取扱い

機械装置(システム)に組み付けを行ったアクチュエータを装置ごと運搬するときの注意です。
- 運搬中にテーブルが移動しないよう固定してください。
- アクチュエータの先端が張り出している場合、先端部が外部振動により大きく振れないよう適切な固定をしてください。先端を固定しない状態での運搬では 0.3G 以上の衝撃を加えないようにしてください。
- 機械装置(システム)をロープなどで吊り上げるとき、アクチュエータやコネクタボックスに荷重が加わらないようにしてください。またケーブルが挟まれたり、無理な変形が発生したりしないようにしてください。

2.2 設置および保管・保存環境

〔1〕 設置環境

次のような場所を避けて設置してください。
また、保守点検に必要な作業スペースを確保してください。

- 熱処理等、大きな熱源からの輻射熱があたる場所
- 周囲温度が 0～40℃の範囲を超える場所
- 温度変化が急激で結露するような場所
- 相対湿度が 85%RH を超える場所
- エアパージを行った場合は、IP54 相当の保護構造の防水性があります。
- 日光が直接当たる場所
- 腐食性ガス、可燃ガスのある場所
- 塵埃、塩分、鉄分が多い場所(通常の組立作業工場外)
- 水(防滴仕様除く)、油(オイルミスト、切削液を含む)、薬品の飛沫がかかる場所
- 本体に振動や衝撃が伝わる場所

次のような場所で使用する場合は、しゃ断対策を十分に行ってください。
- 静電気などによるノイズの発生する場所
- 強い電界や磁界の影響を受ける場所
- 紫外線、放射線の影響を受ける場所

〔2〕 保管・保存環境

- 保管・保存環境は設置環境に準じますが、長期保管・保存では特に結露の発生がないようにしてください。
- 指定のない限り、出荷時には水分吸収剤は同梱してありません。結露が予想される環境での保管・保存の場合、梱包の外側から全体を、あるいは開梱して直接、結露防止処置を施してください。
- 保管・保存温度は短期間なら 60℃まで耐えますが、1 カ月以上の保管・保存の場合は 50℃までとしてください。
- 保管・保存時は、水平平置きとしてください。梱包状態で保管する場合、姿勢表示のある場合は、それに従ってください。

2.3 設置

機械装置へアクチュエータを取付ける方法について示します。

2.3.1 取付け姿勢

取付けは、次を原則とします。
取付けの際は、ご注意ください(特注対応品を除く)。

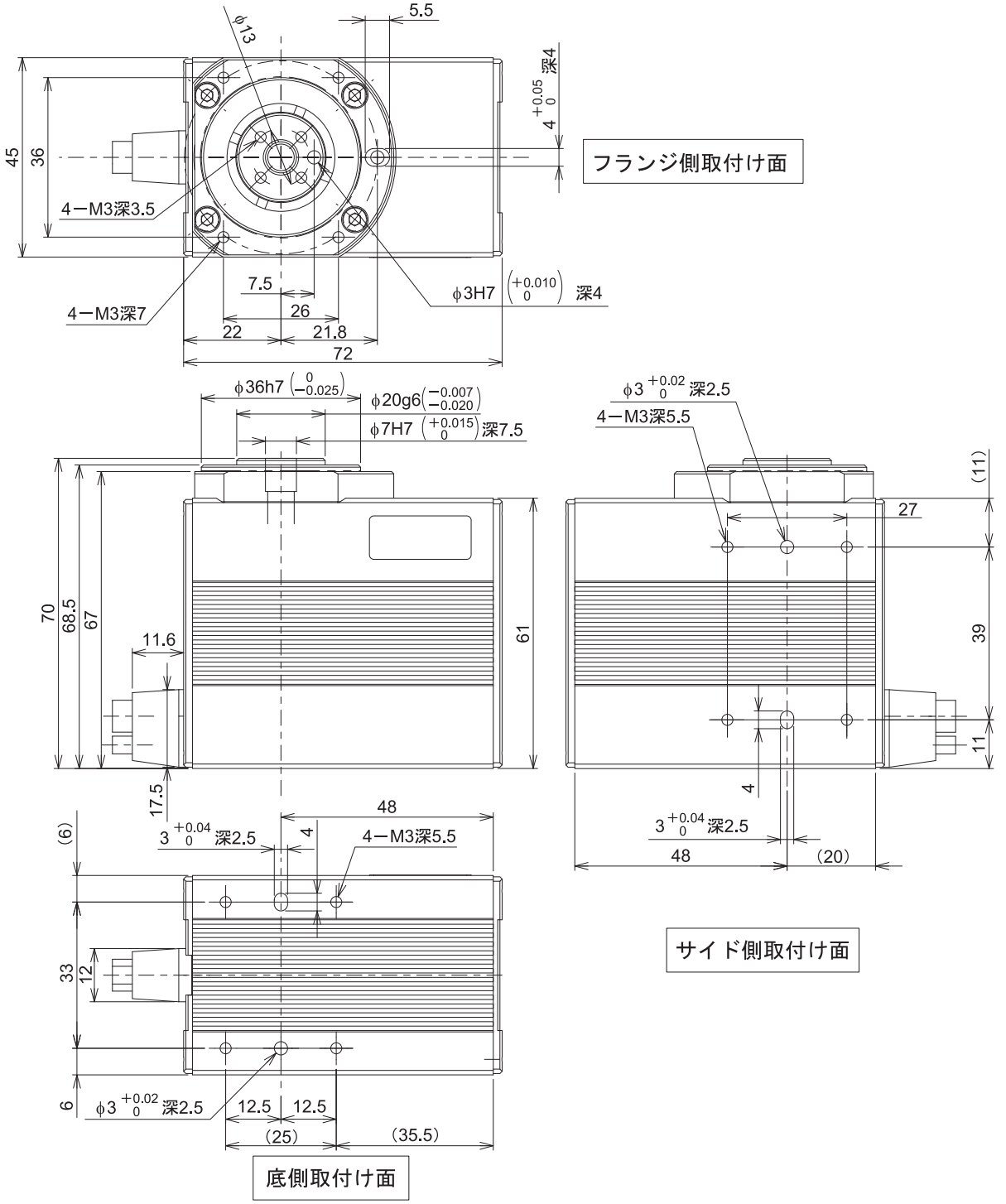
○：設置可能　×：設置不可

水平平置き設置	垂直設置	横立て設置	天吊り設置
○	○	○	○

2.4 本体の取付け

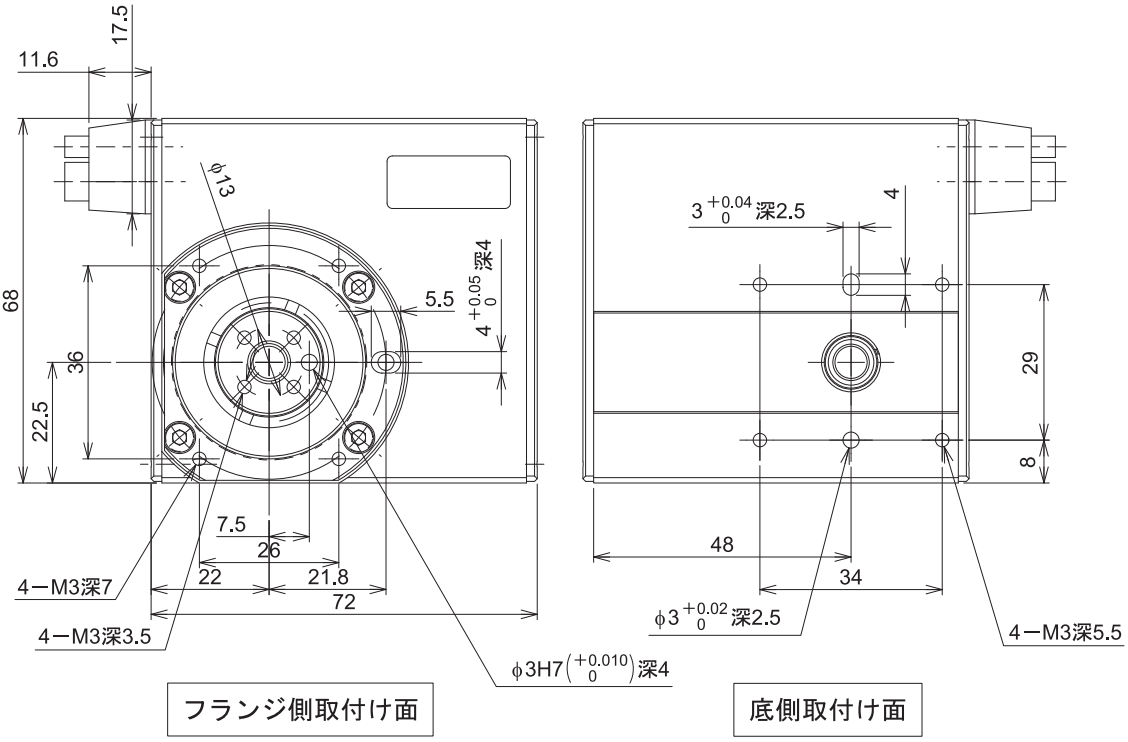
2.4.1 小型タイプ

• 330 度回転仕様 RTBS、多回転仕様 RTBSL（縦型）

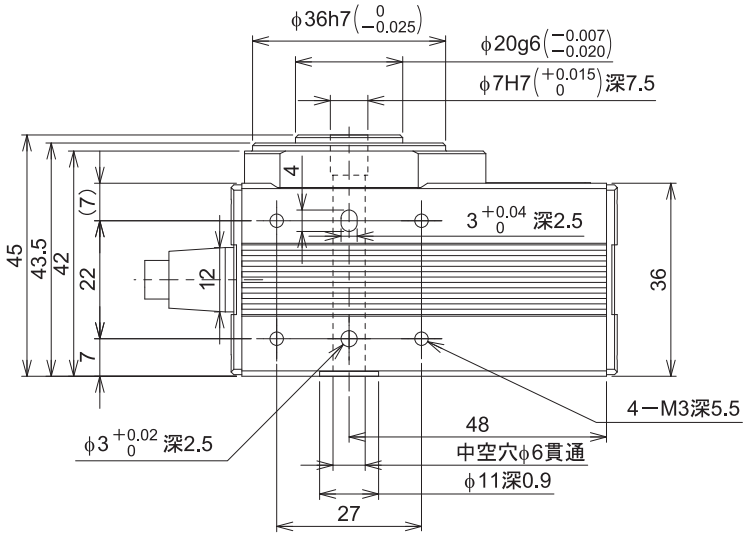


⚠ 注意： 取付け部タップ穴は部分的に貫通穴となっております。最大ねじ込み深さ以上となる長いねじは絶対使用しないでください。内部機構、電気部品を損傷する可能性があります。

• 330 度回転仕様 RTCS、多回転仕様 RTCSL（扁平型）



フランジ側取付け面　　底側取付け面

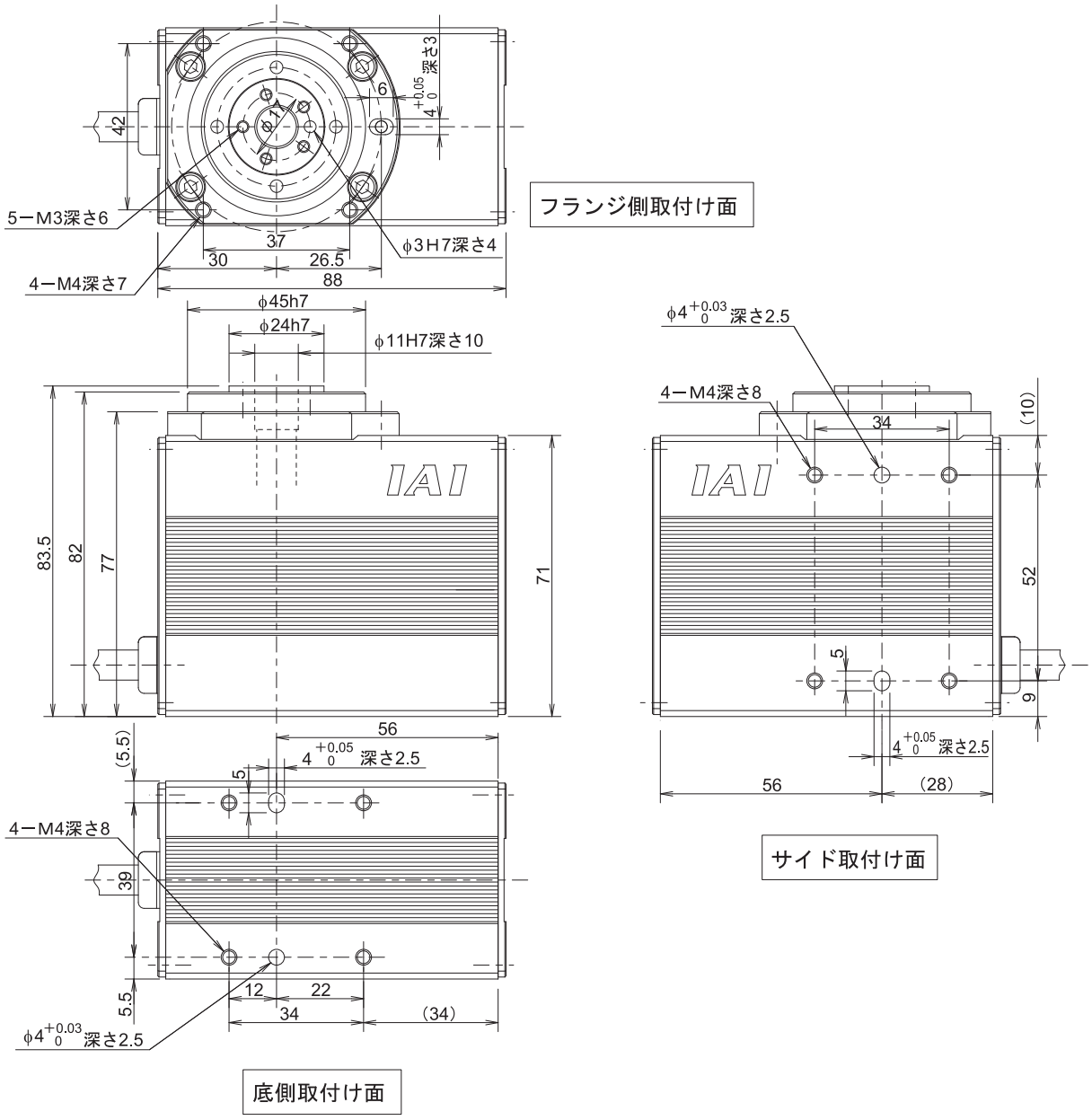


サイド側取付け面

⚠ 注意：取付け部タップ穴は部分的に貫通穴となっております。最大ねじ込み深さ以上となる長いねじは絶対使用しないでください。内部機構、電気部品を損傷する可能性があります。

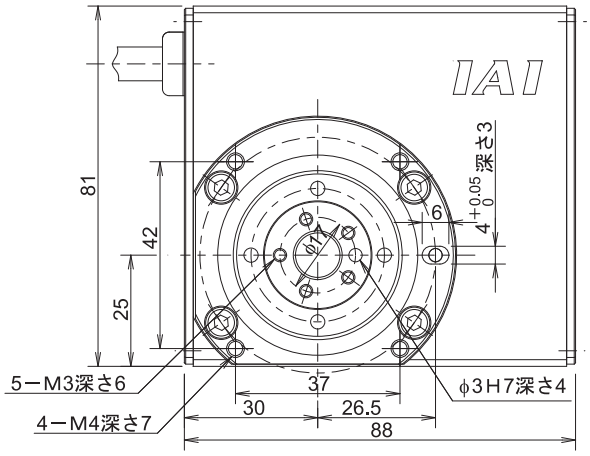
2.4.2　中型タイプ

- 330 度回転仕様 RTB、多回転仕様 RTBL（縦型）

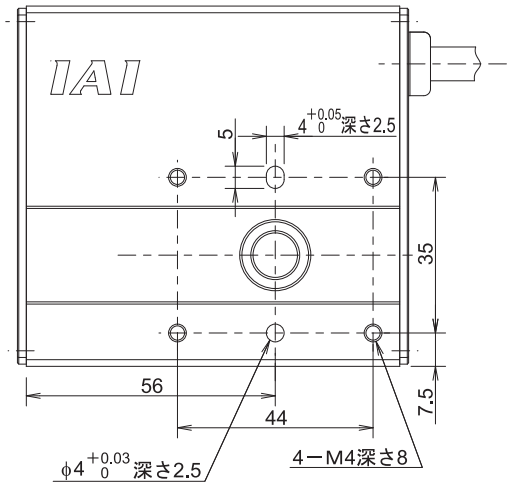


⚠ 注意：取付け部タップ穴は部分的に貫通穴となっております。最大ねじ込み深さ以上となる長いねじは絶対使用しないでください。内部機構、電気部品を損傷する可能性があります。

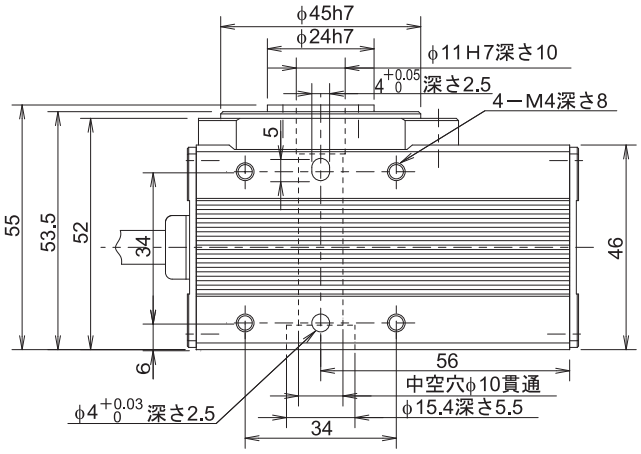
• 330 度回転仕様 RTC、多回転仕様 RTCL（扁平型）



フランジ側取付け面



底側取付け面

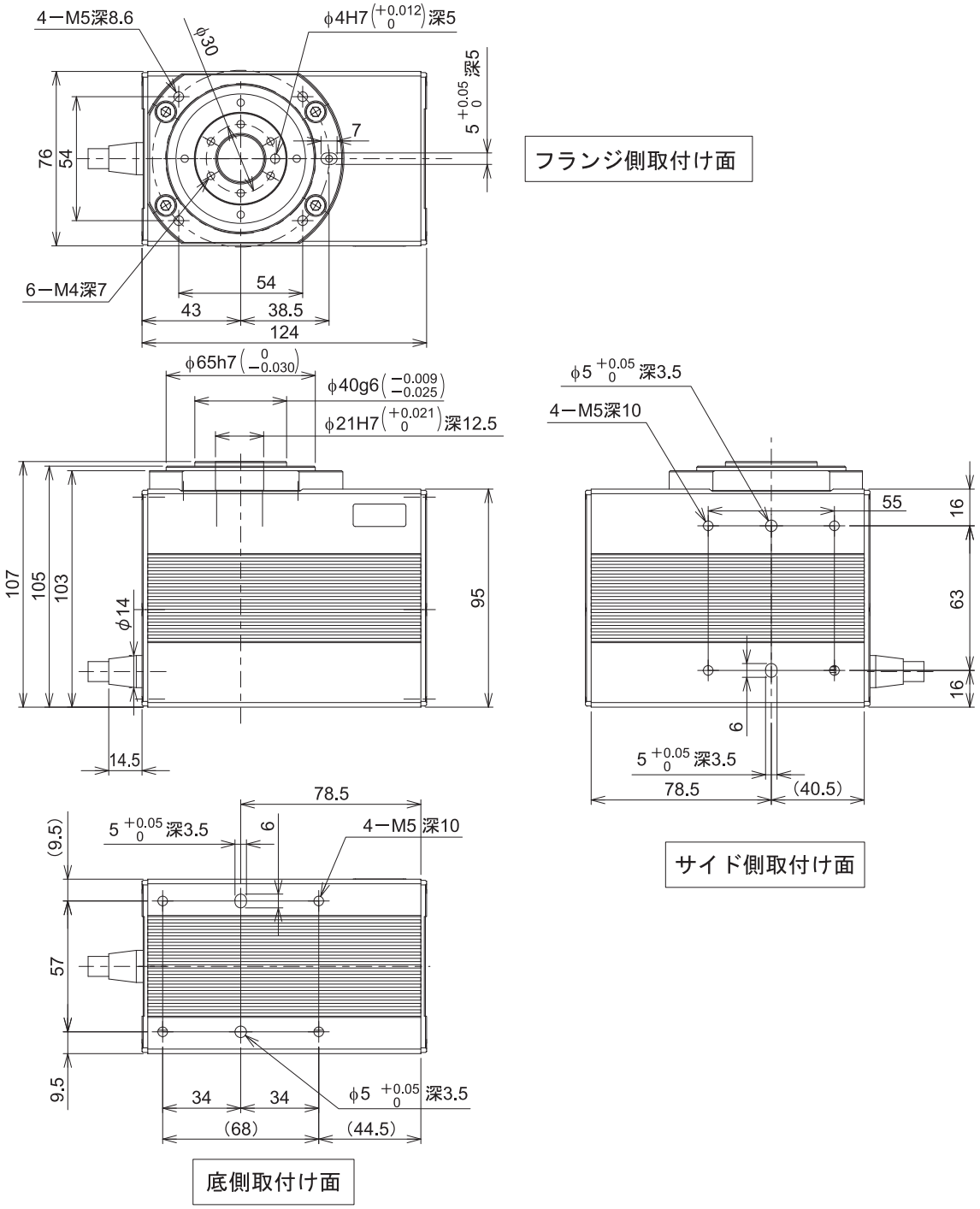


サイド側取付け面

⚠ 注意：取付け部タップ穴は部分的に貫通穴となっております。最大ねじ込み深さ以上となる長いねじは絶対使用しないでください。内部機構、電気部品を損傷する可能性があります。

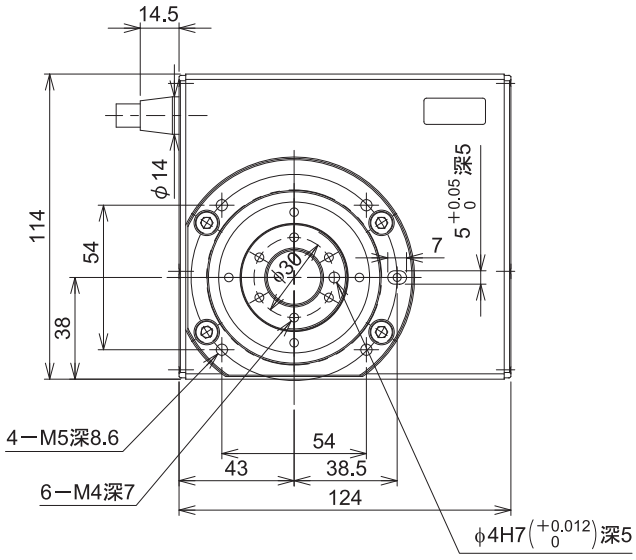
2.4.3　大型タイプ

• 330 度回転仕様 RTBB、多回転仕様 RTBBL（縦型）

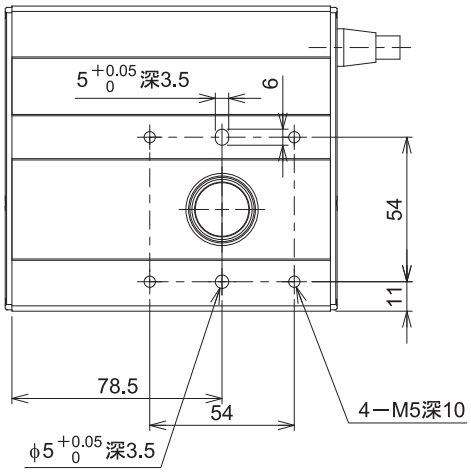


⚠ 注意：取付け部タップ穴は部分的に貫通穴となっております。最大ねじ込み深さ以上となる長いねじは絶対使用しないでください。内部機構、電気部品を損傷する可能性があります。

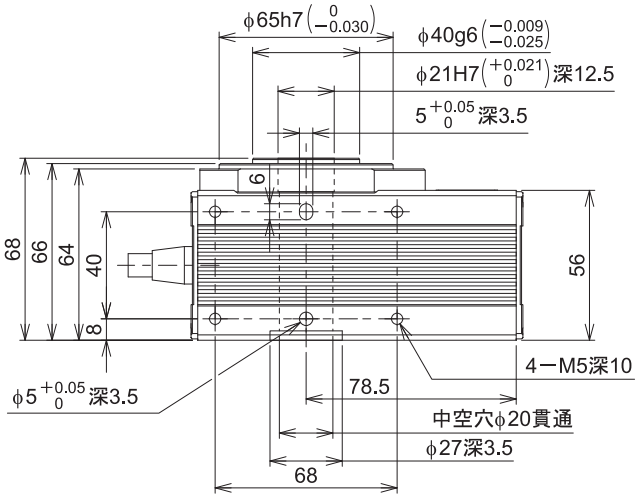
• 330 度回転仕様 RTCB、多回転仕様 RTCBL（扁平型）



フランジ側取付け面



底側取付け面



サイド側取付け面

⚠ 注意：取付け部タップ穴は部分的に貫通穴となっております。最大ねじ込み深さ以上となる長いねじは絶対使用しないでください。内部機構、電気部品を損傷する可能性があります。

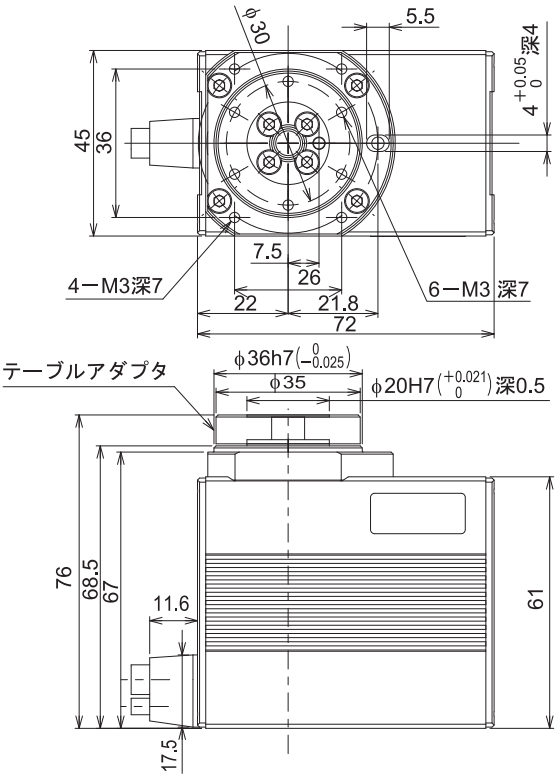
2.5 出力軸部取付けアダプタ（オプション）

本体の出力軸に取付けられるアダプタの外形寸法は次のとおりです。

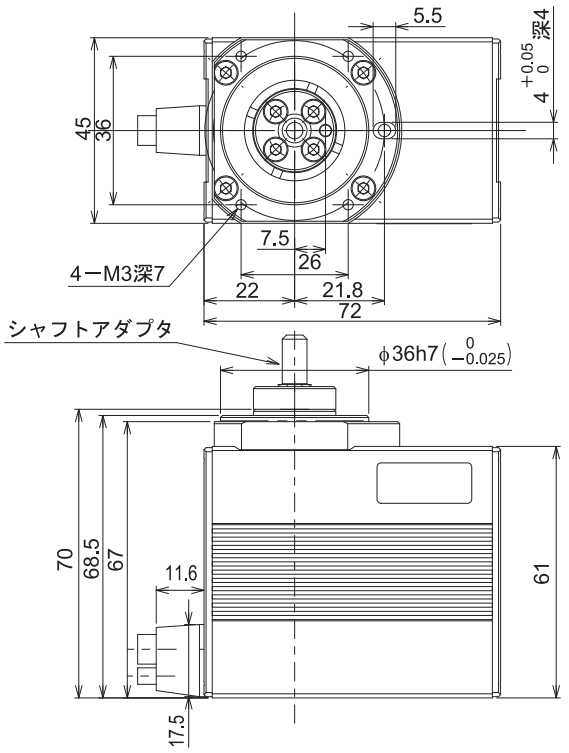
2.5.1 小型タイプ

•330 度回転仕様 RTCB、多回転仕様 RTCBL（縦型）

テーブルアダプタ

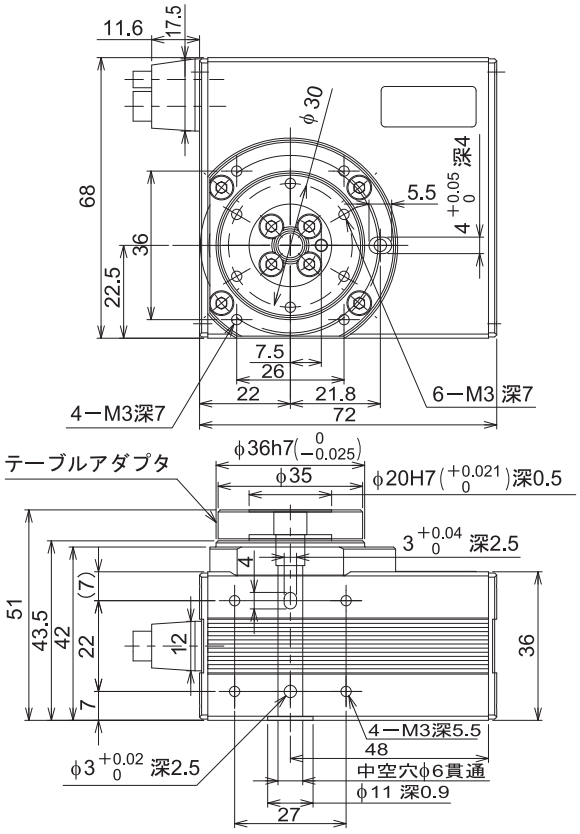


シャフトアダプタ

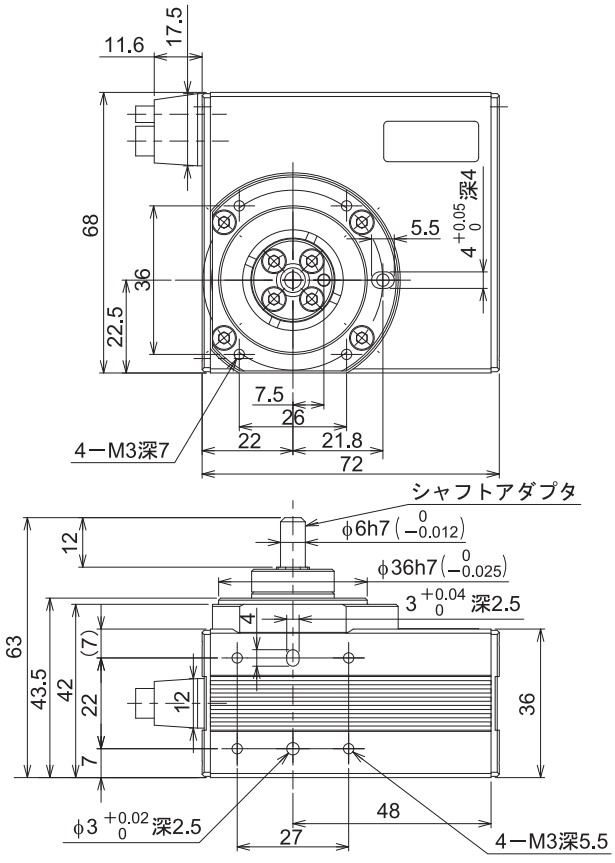


• 330 度回転仕様 RTCS、多回転仕様 RTCSL（扁平型）

テーブルアダプタ



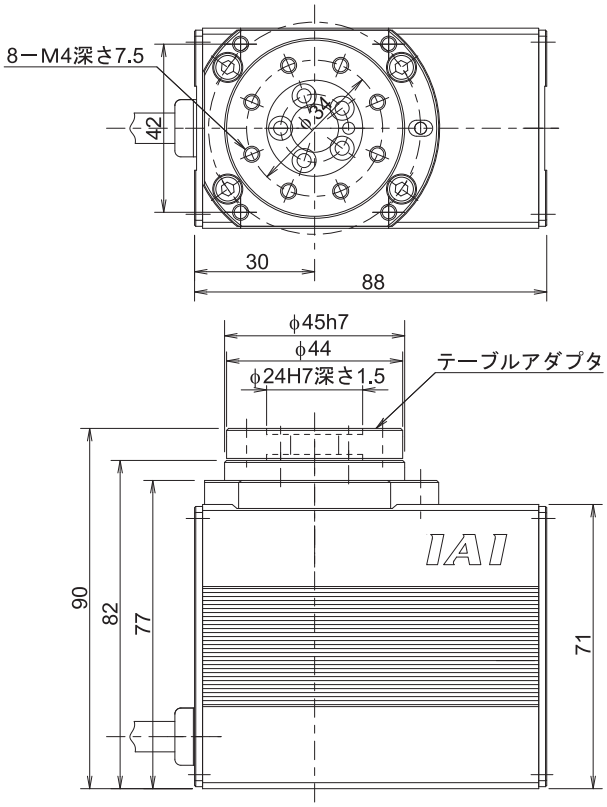
シャフトアダプタ



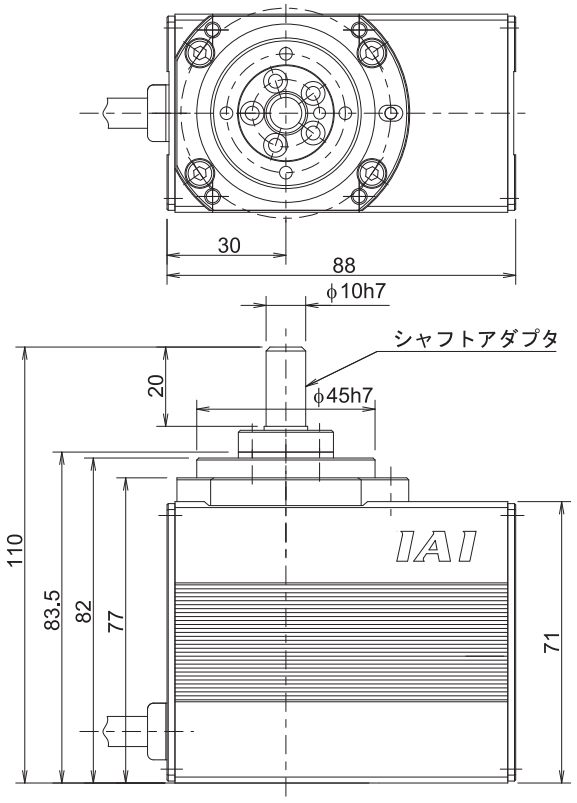
2.5.2　中型タイプ

- 330 度回転仕様 RTB、多回転仕様 RTBL（縦型）

テーブルアダプタ

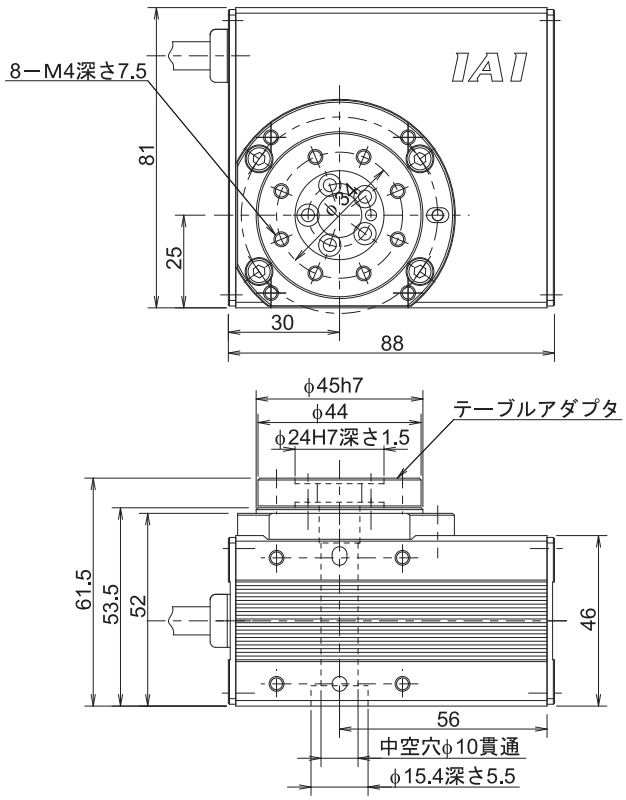


シャフトアダプタ

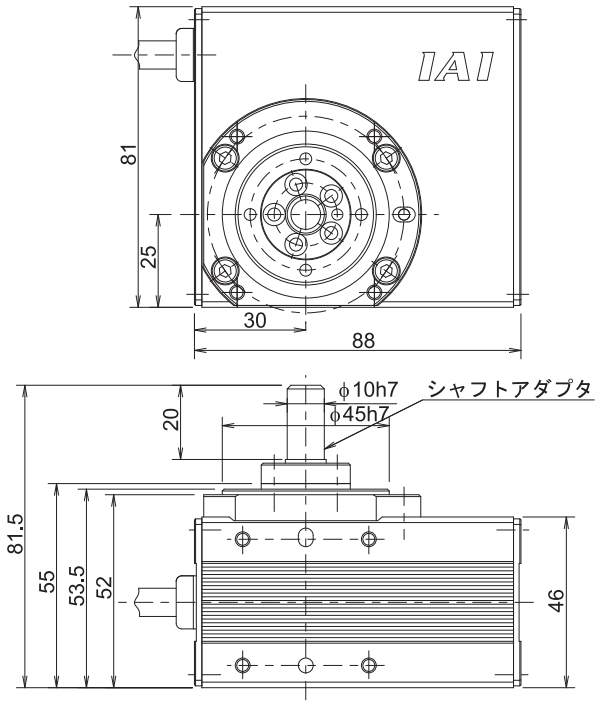


• 330 度回転仕様 RTC、多回転仕様 RTCL（扁平型）

テーブルアダプタ



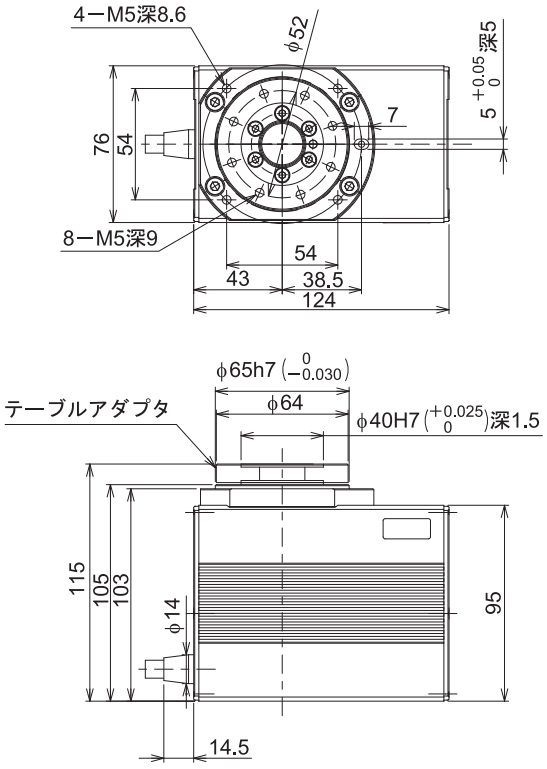
シャフトアダプタ



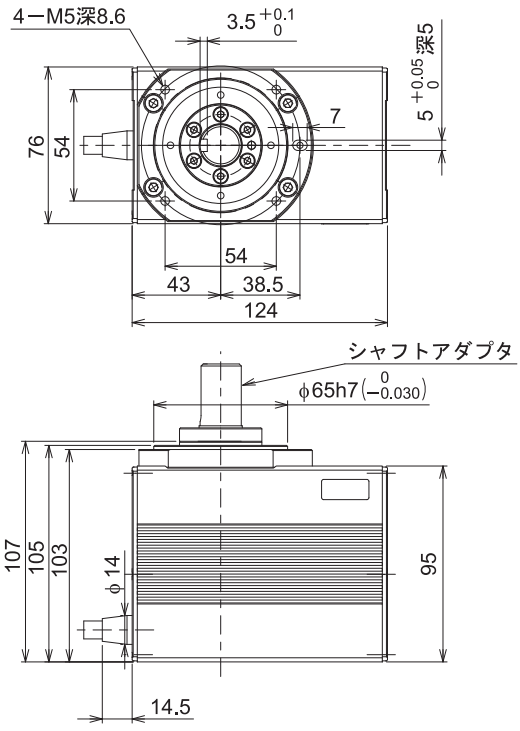
2.5.3　大型タイプ

- 330 度回転仕様 RTBB、多回転仕様 RTBBL（縦型）

テーブルアダプタ

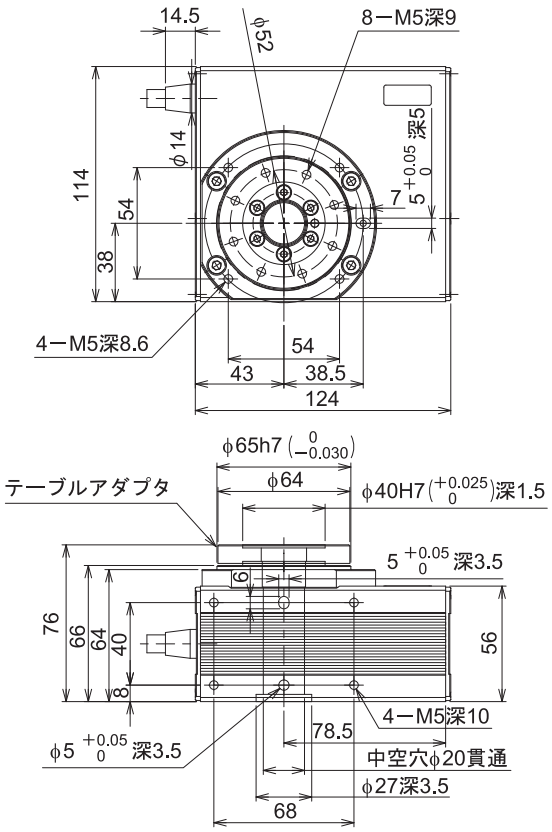


シャフトアダプタ

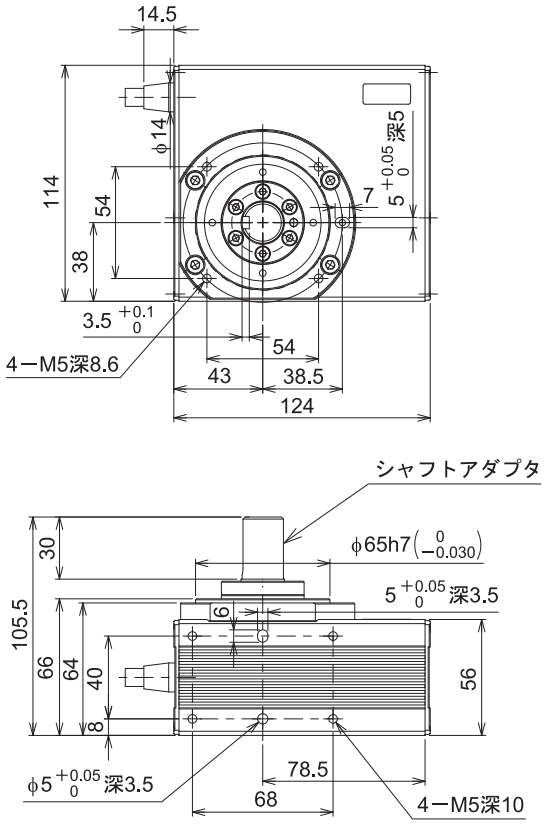


• 330 度回転仕様 RTCB、多回転仕様 RTCBL（扁平型）

テーブルアダプタ



シャフトアダプタ

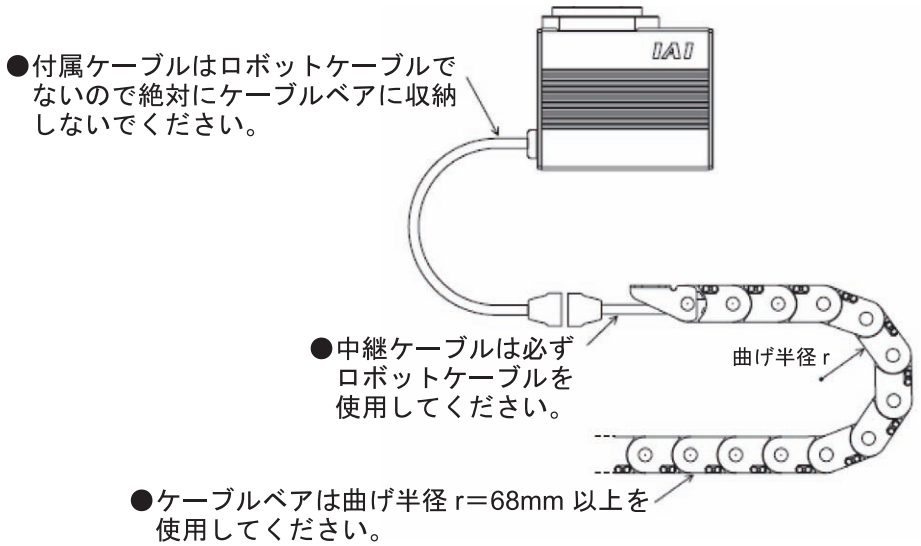


3. コントローラとの接続

コントローラとアクチュエータの接続ケーブルは、当社専用接続ケーブルをご使用ください。

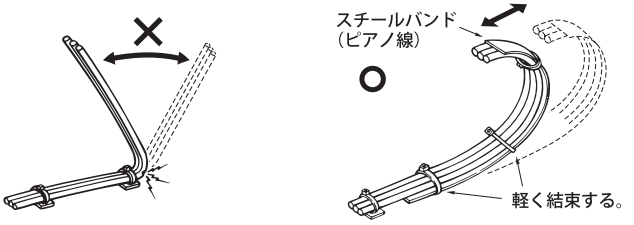
- 専用接続ケーブルが固定できない用途では自重でたわむ範囲での使用か、自立型ケーブルホース等、大半径の配線とし、専用接続ケーブルへの負荷が少なくなるよう配慮ください。
- 専用接続ケーブルを切断して延長したり、短縮、あるいは再結合しないでください。
- 専用接続ケーブルを引っ張ったり、むりに曲げることのない様にしてください。
- モータユニットから出るアクチュエータケーブルは、固定用ケーブルです。ケーブルが繰り返し屈曲しないように固定してください。

専用接続ケーブルの仕様変更をご希望の場合には当社までご相談ください。

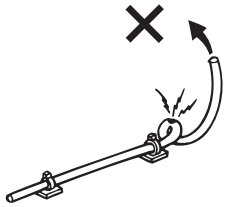


⚠ 警告：配線は以下の記載事項を守って行ってください。機械装置としてのシステムを作り上げる場合、各ケーブルの引き回しや接続を正しく行ってください。守られない場合、ケーブルの断線や接触不良などの故障、あるいは異常動作の原因となるばかりでなく、感電や漏電事故、あるいは火災を発生する場合があります。

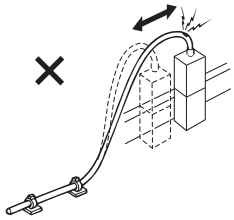
- 本説明書が指定する専用ケーブルは当社製を使用してください。専用接続ケーブルの仕様変更をご希望の場合には当社までご相談ください。
- 電線やケーブルの接続や、取外しの際には、電源を切って行ってください。
- 両端コネクタ仕様の専用ケーブルを切断して延長したり、短縮あるいは再結合したりしないでください。
- 専用ケーブルの端末やコネクタに機械的応力が加わらないよう固定してください。
- 専用ケーブルに機械的損傷の可能性がある場合には、電線管やダクトなどを使用し、適切な保護を行ってください。
- 専用ケーブルを可動部に使用する場合、コネクタに機械的な引っ張りがなく、ケーブルに過度の曲げが生じない方法で配線してください。ケーブルを許容曲げ半径以下で、使用しないでください。
- コネクタの接続は、確実に行ってください。不十分な場合、誤動作を起こす場合があり、非常に危険です。
- 電線やケーブルが、機械自体に轢(ひ)かれる様な配線をしないでください。
- 動作中に、ケーブルが機械構造物に接触しないようにしてください。接触する場合はケーブルベア等を使用して、適切な保護を行ってください。
- ケーブルを吊り下げて使用する場合、ケーブルが加速力や風力によってゆれないようにしてください。
- ケーブルの収納装置内に過度の摩擦が無いようにしてください。
- 電線やケーブルに過度の放射熱が加わらないようにしてください。
- ケーブルの配線は十分な曲げ半径を取り、1ヶ所に屈曲が集中しないようにしてください。



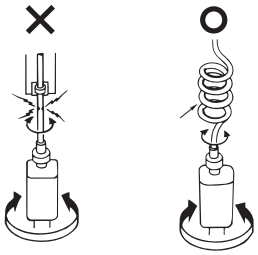
- ケーブルには、折り目、よじれ、ねじれをつけないようにしてください。



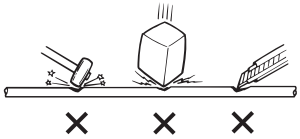
- 強い力で引っ張らないようにしてください。



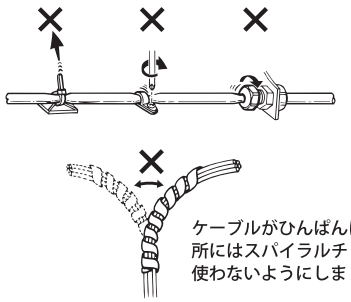
- ケーブルの1ヶ所に回転力が集中しないようにしてください。



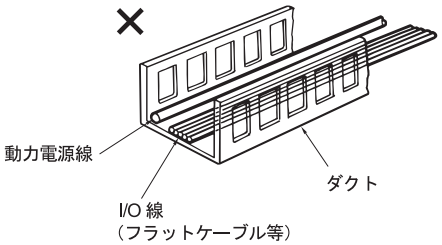
- 挟み込み、打ち傷、切り傷を付けないようにしてください。



- ケーブルを締め付け固定する場合は適度な力で行い、締め付けすぎないようにしてください。

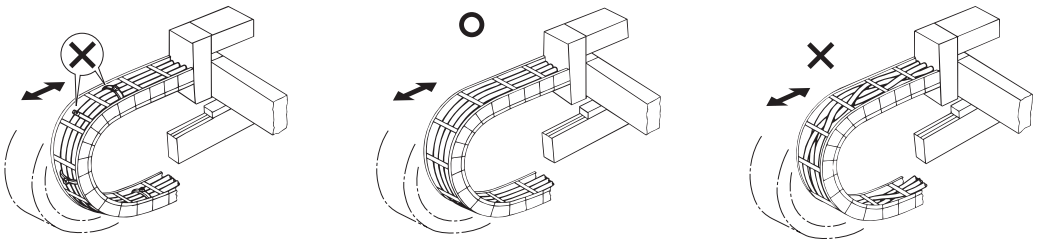


- PIO線、通信ラインおよび電源・動力線はそれぞれ分離して配線し、一緒に束ねないでください。ダクト内は、混在させないようにしてください。



ケーブルベアを使用する場合、以下のことを守ってください。

- ケーブルベア内の占積率の指定などがあるケーブル等は、メーカの配線要領などを参考にしてケーブルベア内に収納してください。
- ケーブルベア内でケーブルのからみやねじれが無いようにし、また、ケーブルに自由度を持たせ結束しないようにしてください。（曲げた時に引っ張られないようにすること）
  ケーブルは、多段に積み重ねないようにしてください。被覆の早期磨耗や断線が生じるおそれがあります。



4. 保守点検

4.1 点検項目と点検時期

次に示された期間で保守点検を行ってください。
稼働状況は 1 日 8 時間の場合です。
昼夜連続運転等、稼働率の高い場合は状況に応じ点検期間を短縮してください。

	外部目視検査	グリース補給
始業点検	○	
稼動後 1 ヶ月	○	
稼動後半年	○	
稼動後 1 年	○	○
以後半年毎	○	
1 年毎	○	○

※下記、項目については工場設備での調整が必要な為、設置場所での分解作業及びケーブルの切断は行わない様にお願い致します。

モータの分解
ギア部の分解
ベアリングの分解
ケーブルの切断

この分解作業、切断行為を行った場合は、以降の動作及び障害については対応しかねますので、ご承知ください。

4.2 外部目視検査

外部目視検査では次の項目を確認してください。

本体	本体取り付けボルト等の緩み
ケーブル類	傷の有無、コネクタ部の接続確認
総合	異音、振動

4.3 清掃

- 外面の清掃は随時行ってください。
- 清掃は柔らかい布等で汚れを拭いてください。
- 隙間から塵埃が入り込まない様、圧縮空気を強く吹き付けないでください。
- 石油系溶剤は樹脂、塗装面を傷めるので使用しないでください。
- 汚れが甚だしい時は中性洗剤またはアルコールを柔らかい布等に含ませて軽く拭き取る程度にしてください。

4.4 グリース補給

4.4.1 使用グリース

当社より出荷時は次のグリースを用いております。

協同油脂	AC-D No.2

このほかにも各社が相当するグリースを販売しております。詳しくは対象メーカにグリース名を伝えて相当品の選定を依頼してください。

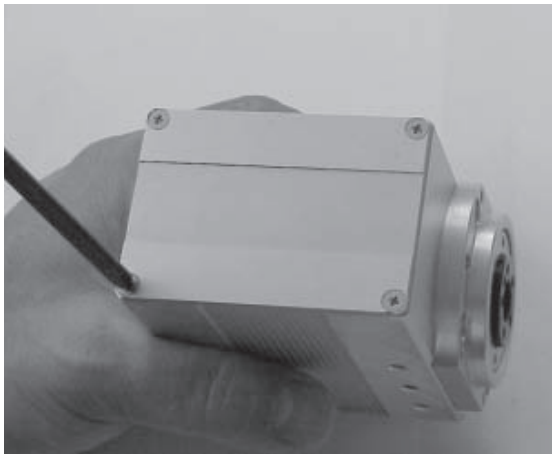
昭和シェル石油	アルバニアグリース S2
モービル石油	ユニレックス N2

⚠警告：
フッ素系のグリースは決して用いないでください。リチウム系グリースと混ざった場合、グリースの性能を損なうばかりでなく、場合によってはアクチュエータに損傷を与える場合があります。

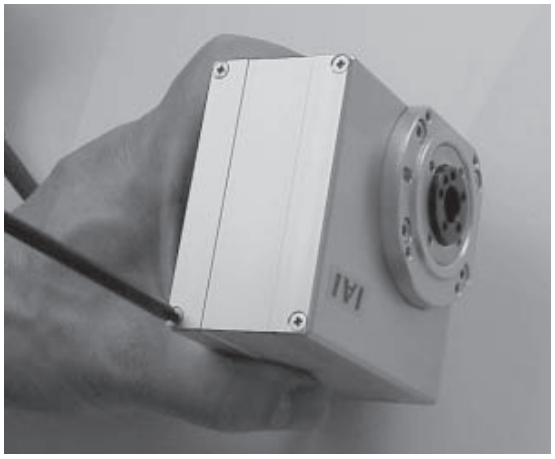
4.4.2　グリース供給方法

①フロントカバーの固定ねじを外します。（皿小ねじ M2.6×6）
　フロントカバーは取り外します。

RTBS、RTBSL
RTB、RTBL
RTBB、RTBBL　（縦型）



RTCS、RTCSL
RTC、RTCL
RTCB、RTCBL　（扁平型）



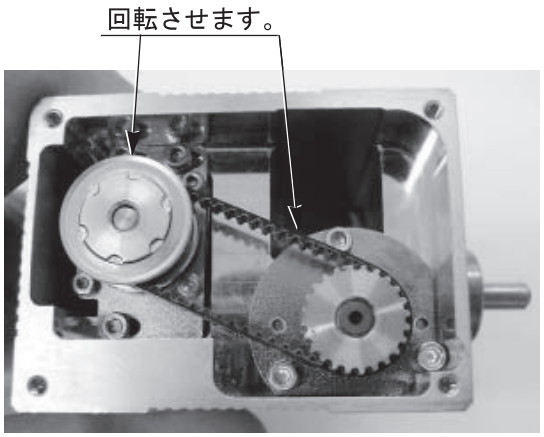
②リアカバーの固定ねじを外します。（皿小ねじ M2.6×6）
　リアカバーは本体フレームから少し引き離すようにします。（この時に内部ケーブルを無理に引っ張らないようにしてください）

RTBS、RTBSL
RTB、RTBL
RTBB、RTBBL　（縦型）

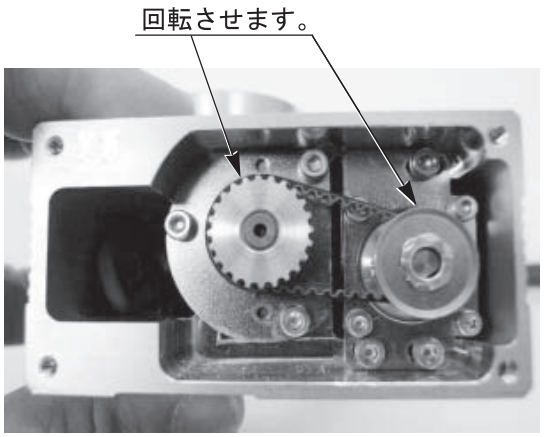
RTCS、RTCSL
RTC、RTCL
RTCB、RTCBL　（扁平型）

③ギア部を回転させながら、リア側開口部より歯底部が埋まる程度にグリースを塗布します。
（入力軸を回すと、出力側ギアが回転します）
塗布後ギア部を数回往復させグリースをなじませます。

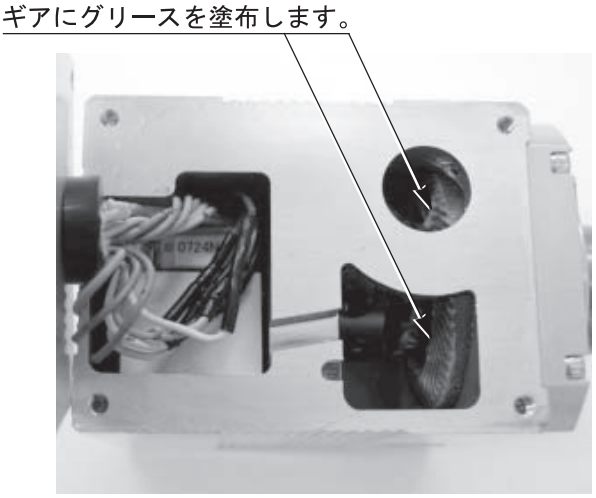
RTBS、RTBSL（縦型）



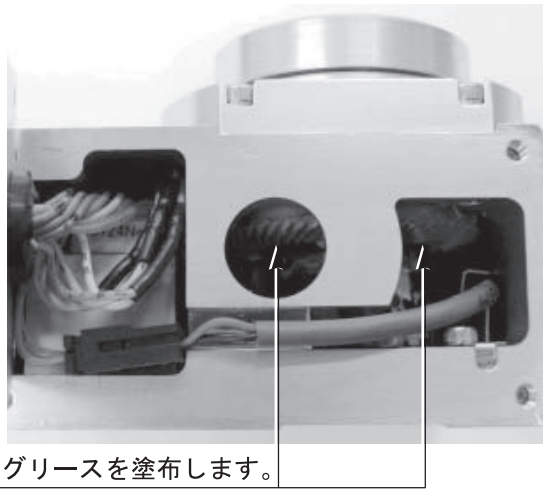
RTCS、RTCSL（扁平型）



RTBS、RTBSL（縦型）
（リア側開口部）



RTCS、RTCSL（扁平型）
（リア側開口部）



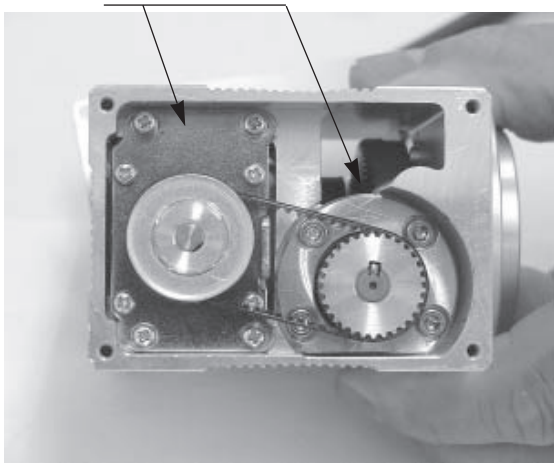
⚠ 注意：
- 多回転仕様RTBL/RTCLには、リア側開口部側に原点センサが取付けられています。
  原点センサにグリースが付着しない様にして、ギア部に塗布してください。
- 万が一グリースが目に入った場合、直ちに専門医の適切な処置を受けてください。
  グリースの供給後、手を水と石鹸で充分に洗い流してください。

ギア部を回転させながら、リア側開口部より歯底部が埋まる程度にグリースを塗布します。
（入力軸を回すと、出力側ギアが回転します）
塗布後ギア部を数回往復させグリースをなじませます。

●中型タイプ

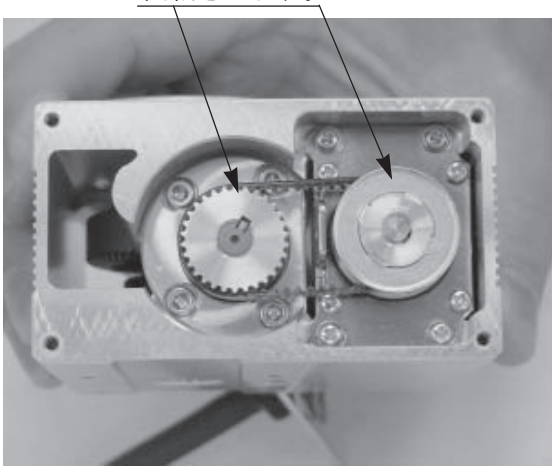
RTB、RTBL（縦型）

回転させます。



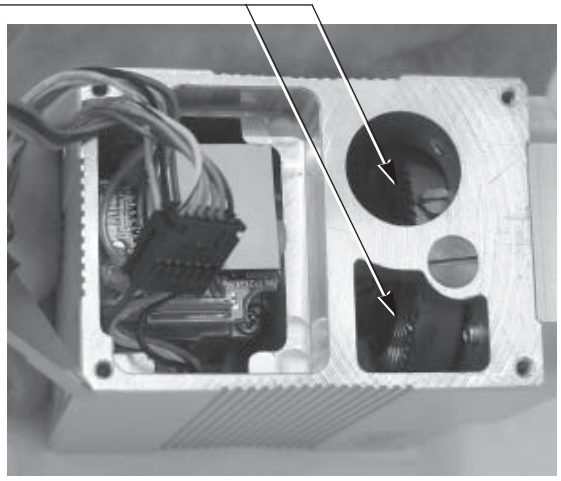
RTC、RTCL（扁平型）

回転させます。

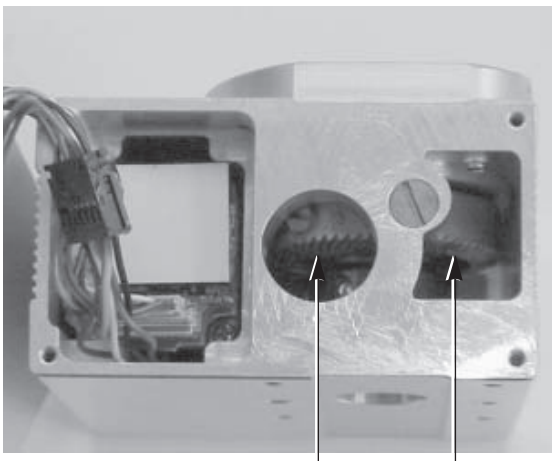


RTB、RTBL（縦型）（リア側開口部）

ギアにグリースを塗布します。



RTC、RTCL（扁平型）（リア側開口部）



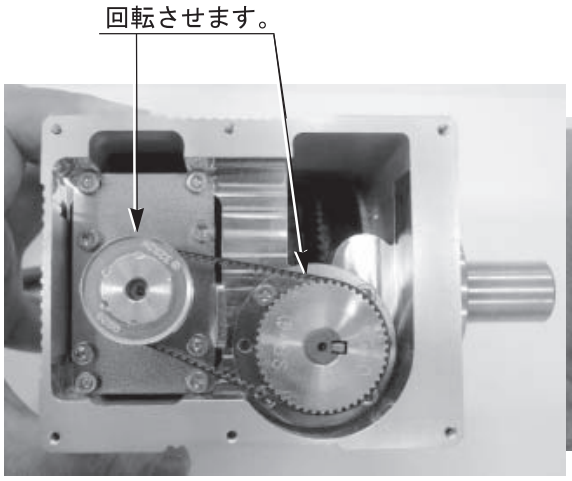
ギアにグリースを塗布します。

⚠ 注意：
- 多回転仕様RTBL/RTCLには、リア側開口部側に原点センサが取付けられています。
  原点センサにグリースが付着しない様にして、ギア部に塗布してください。
- 万が一グリースが目に入った場合、直ちに専門医の適切な処置を受けてください。
  グリースの供給後、手を水と石鹸で充分に洗い流してください。

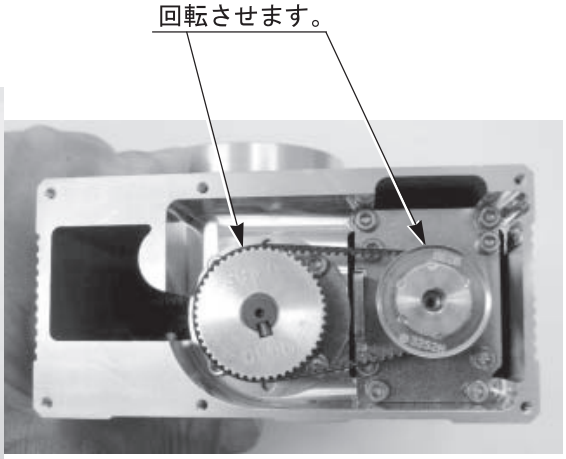
ギア部を回転させながら、リア側開口部より歯底部が埋まる程度にグリースを塗布します。
（入力軸を回すと、出力側ギアが回転します）
塗布後ギア部を数回往復させグリースをなじませます。

●大型タイプ

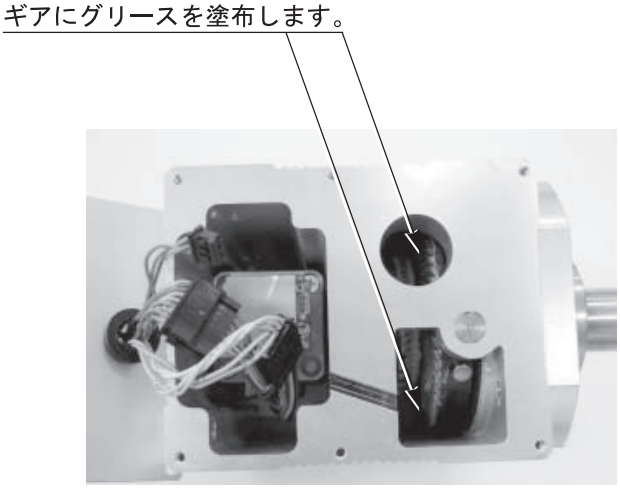
RTBB、RTBBL（縦型）



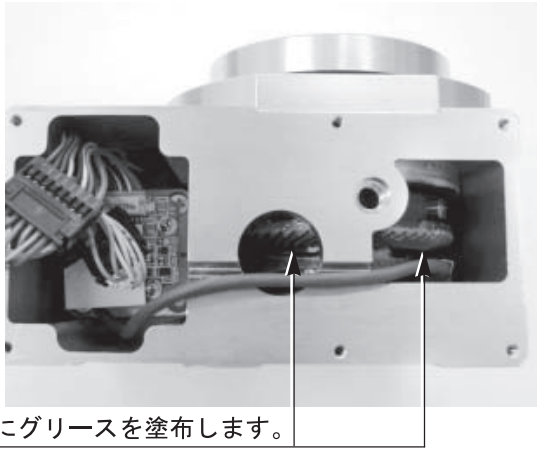
RTCB、RTCBL（扁平型）



RTBB、RTBBL（縦型）（リア側開口部）



RTCB、RTCBL（扁平型）（リア側開口部）



⚠ 注意：
- 多回転仕様RTBL/RTCLには、リア側開口部側に原点センサが取付けられています。
  原点センサにグリースが付着しない様にして、ギア部に塗布してください。
- 万が一グリースが目に入った場合、直ちに専門医の適切な処置を受けてください。
  グリースの供給後、手を水と石鹸で充分に洗い流してください。

④フロントカバー、リアカバーを取付け固定します。
リアカバーを固定する再には、ケーブルを噛みこまないよう注意してください。

⚠ 警告：
- フッ素系のグリースはけっして用いないでください。リチウム系グリースと混ざることによりグリースの機能が低下し機械に損傷を与えます。
- 必要以上にグリースを補給しないでください。電子部品まで流れ込み誤動作の原因となります。

⚠ 警告：
- エンコーダは回転角や原点信号検出の為に、その位相は厳密に調整されております。故障の原因となりますのでエンコーダに手を触れることは絶対に行なわないでください。
- リアカバーを固定する際はケーブルの挟み込みに注意してください。配線が重なら無いよう上部空間に収めてください。パネルが浮いた状態で無理に固定しないでください。

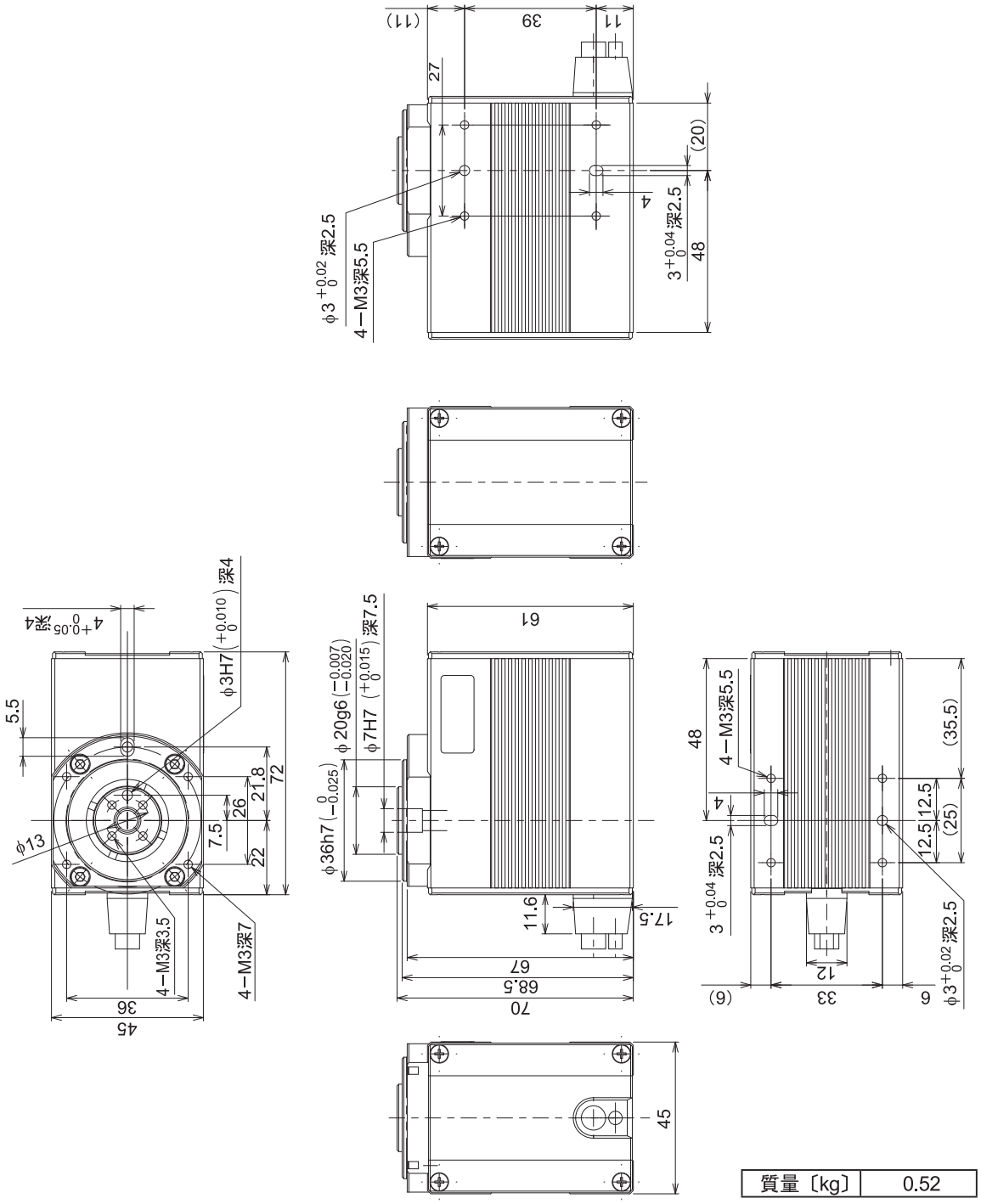
⚠ 注意：万がーグリースが目に入った場合、直ちに専門医の適切な処置を受けてください。
グリースの供給後、手を水と石鹸で充分に洗い流してください。

5. 外形図

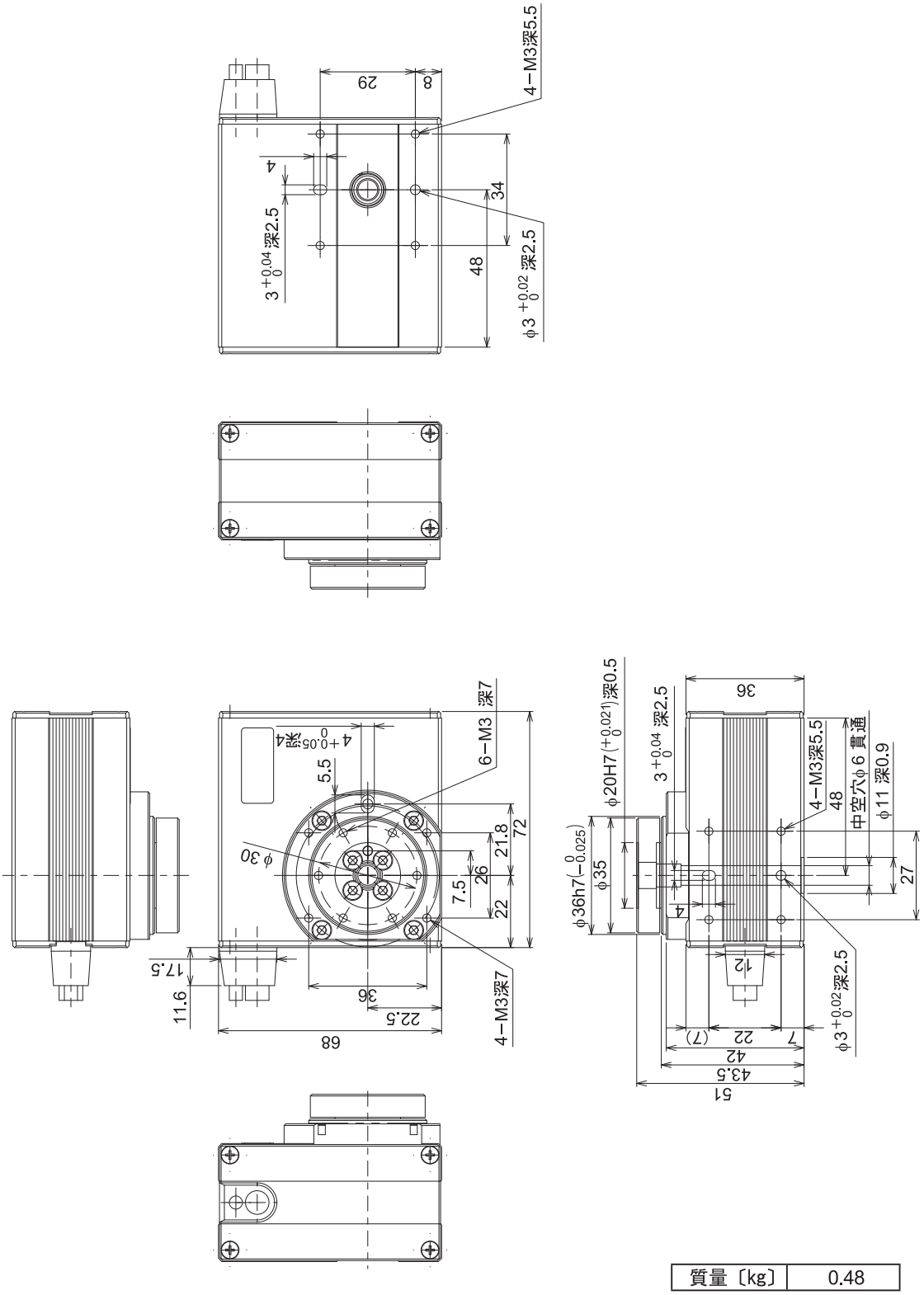
5.1 小型タイプ

5.1.1 標準仕様

- 330 度回転仕様 RTBS、多回転仕様 RTBSL（縦型）



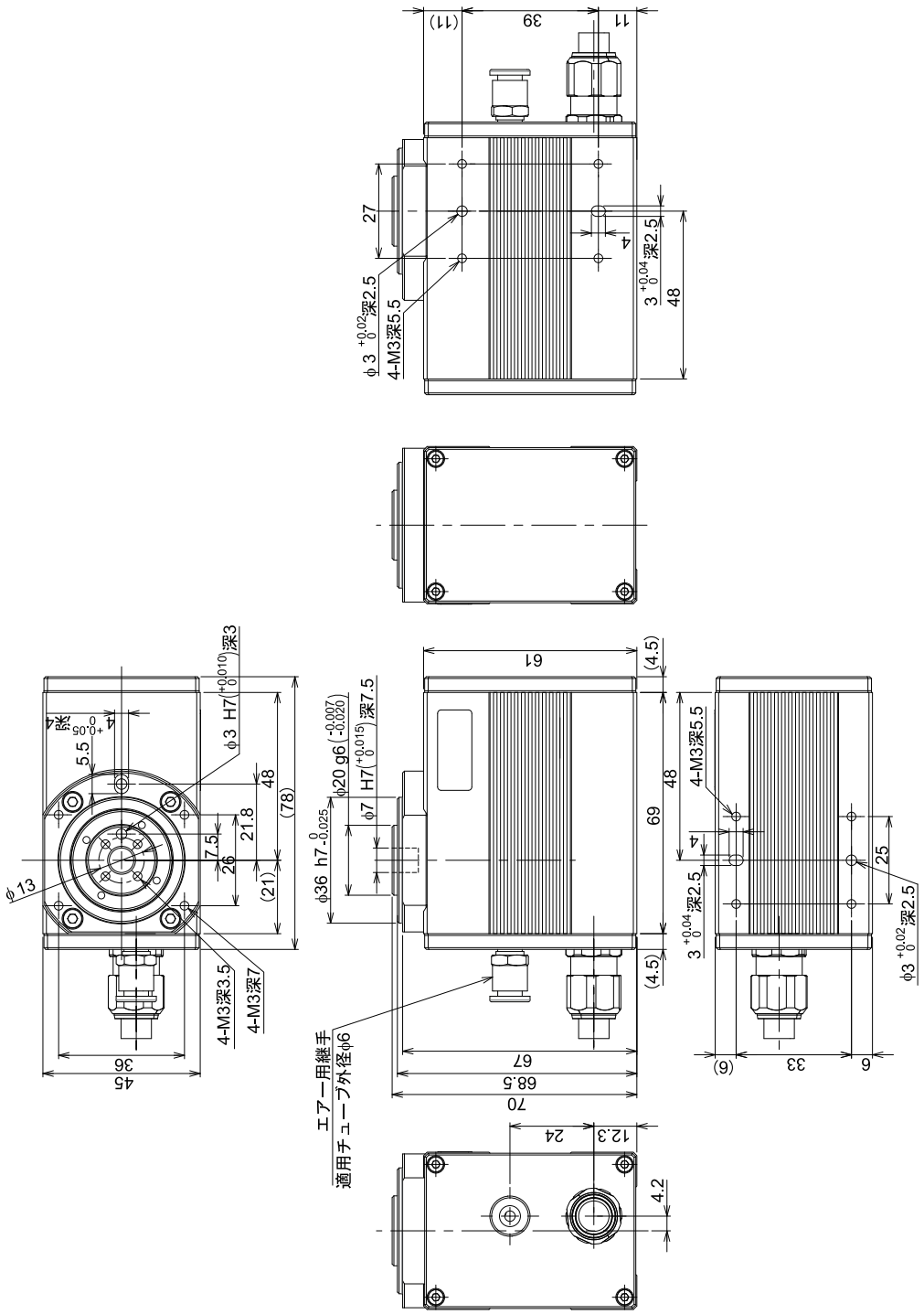
• 330 度回転仕様 RTCS、多回転仕様 RTCSL（扁平型）



質量〔kg〕	0.48

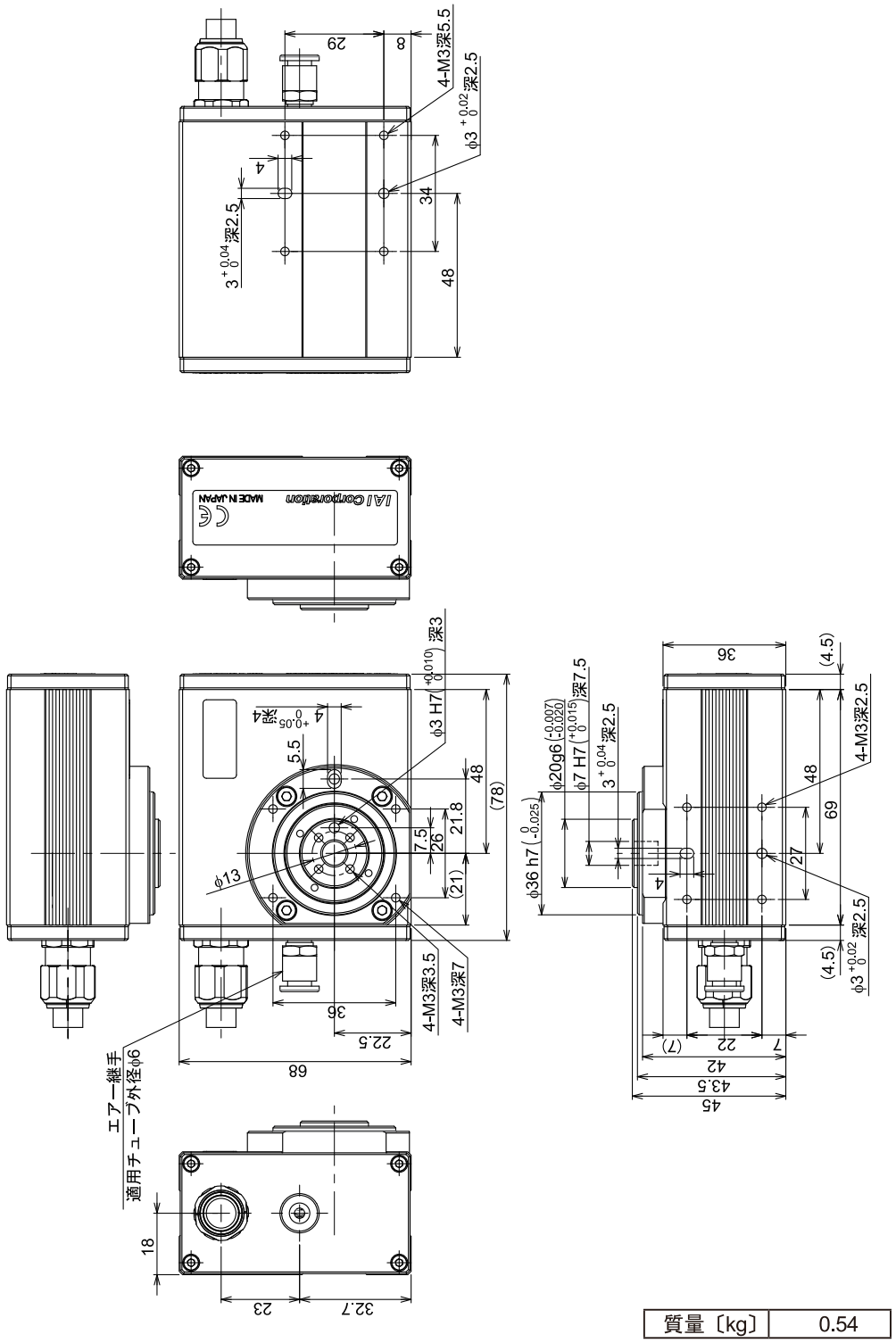
5.1.2　防塵・防滴・クリーン仕様

- 330 度回転仕様 RTBS、多回転仕様 RTBSL（縦型）



質量〔kg〕	0.6

• 330 度回転仕様 RTCS、多回転仕様 RTCSL（扁平型）

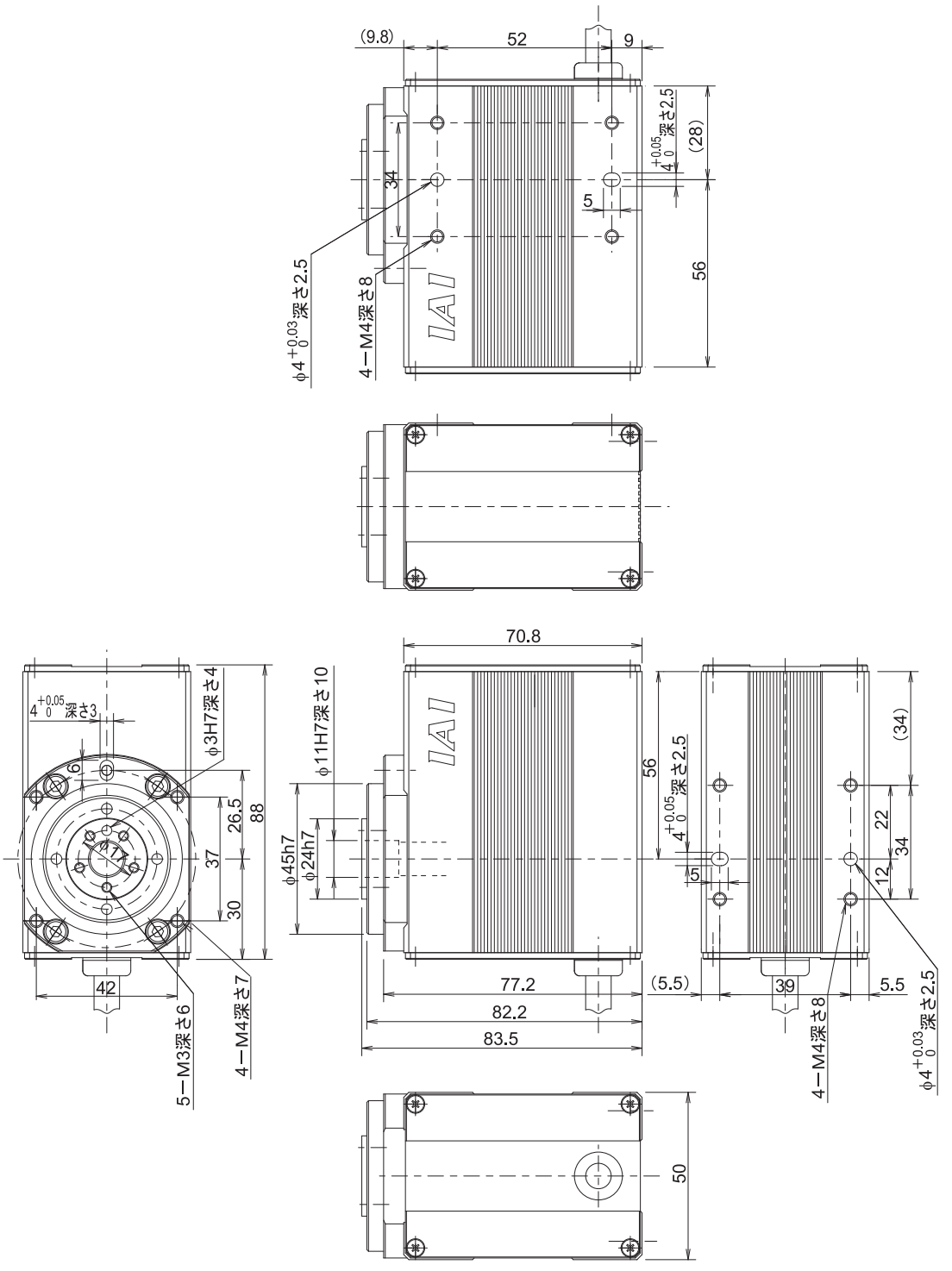


質量〔kg〕	0.54

5.2 中型タイプ

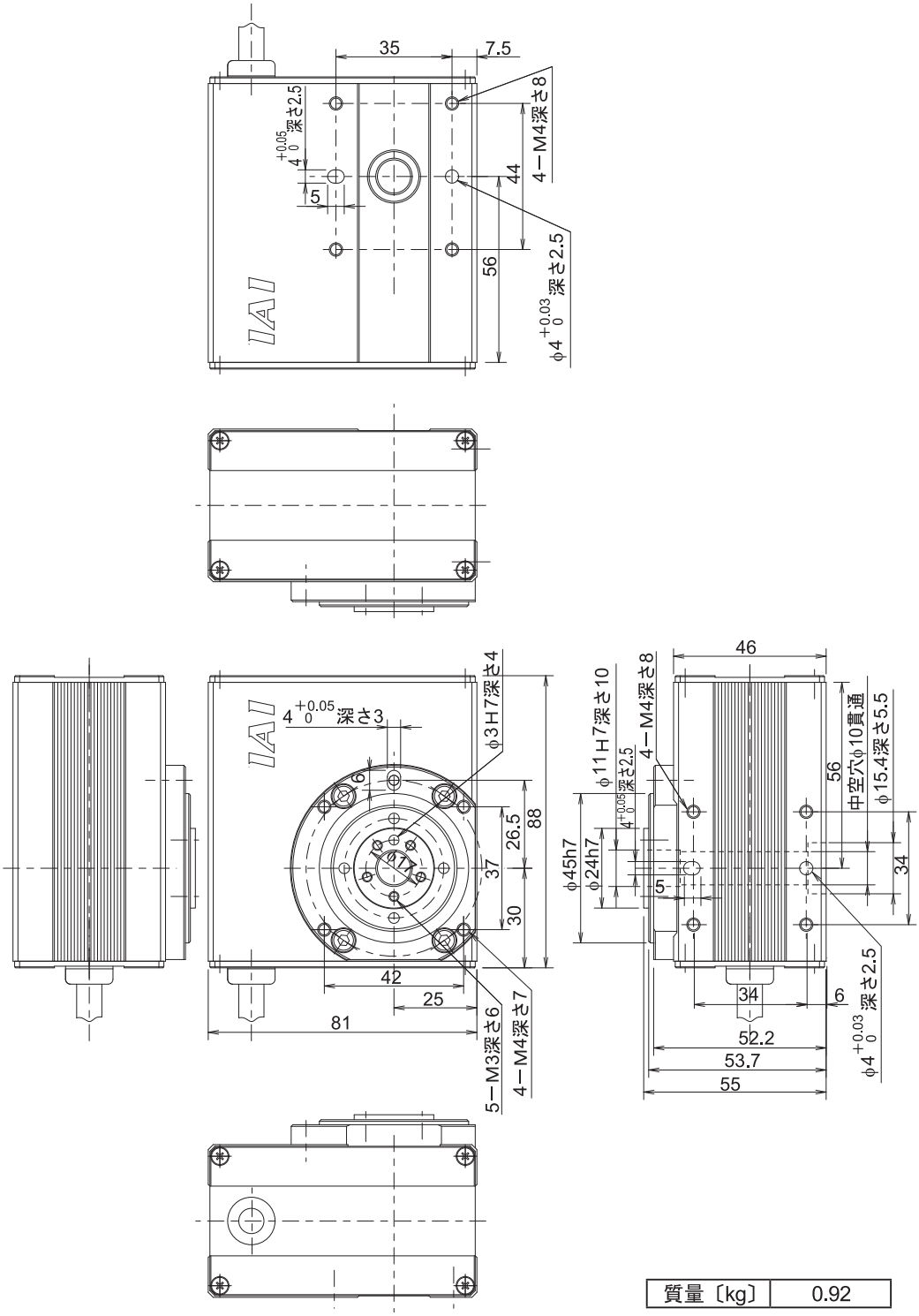
5.2.1 標準仕様

• 330 度回転仕様 RTB、多回転仕様 RTBL（縦型）



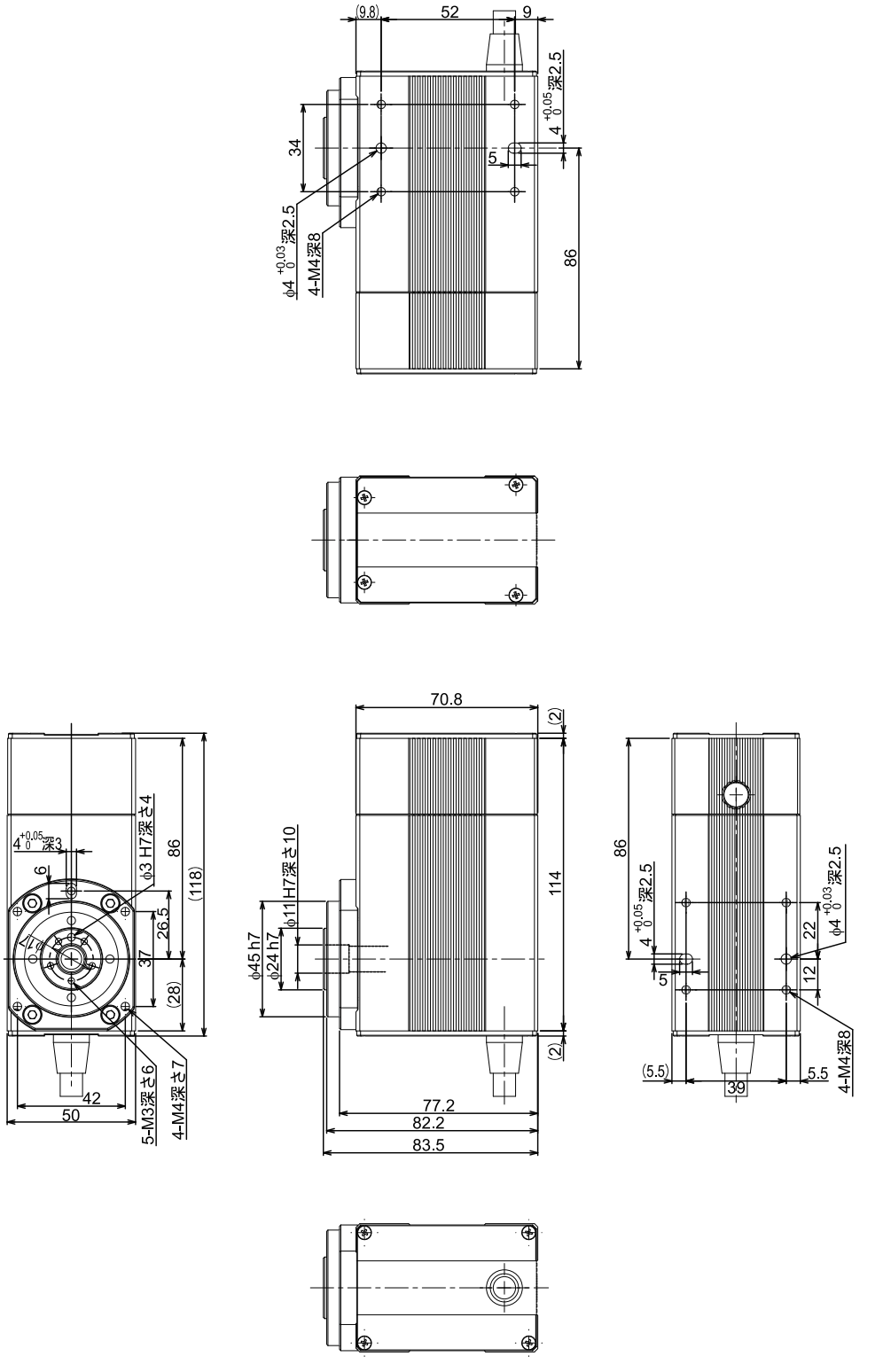
質量〔kg〕	0.86

• 330 度回転仕様 RTC、多回転仕様 RTCL（扁平型）



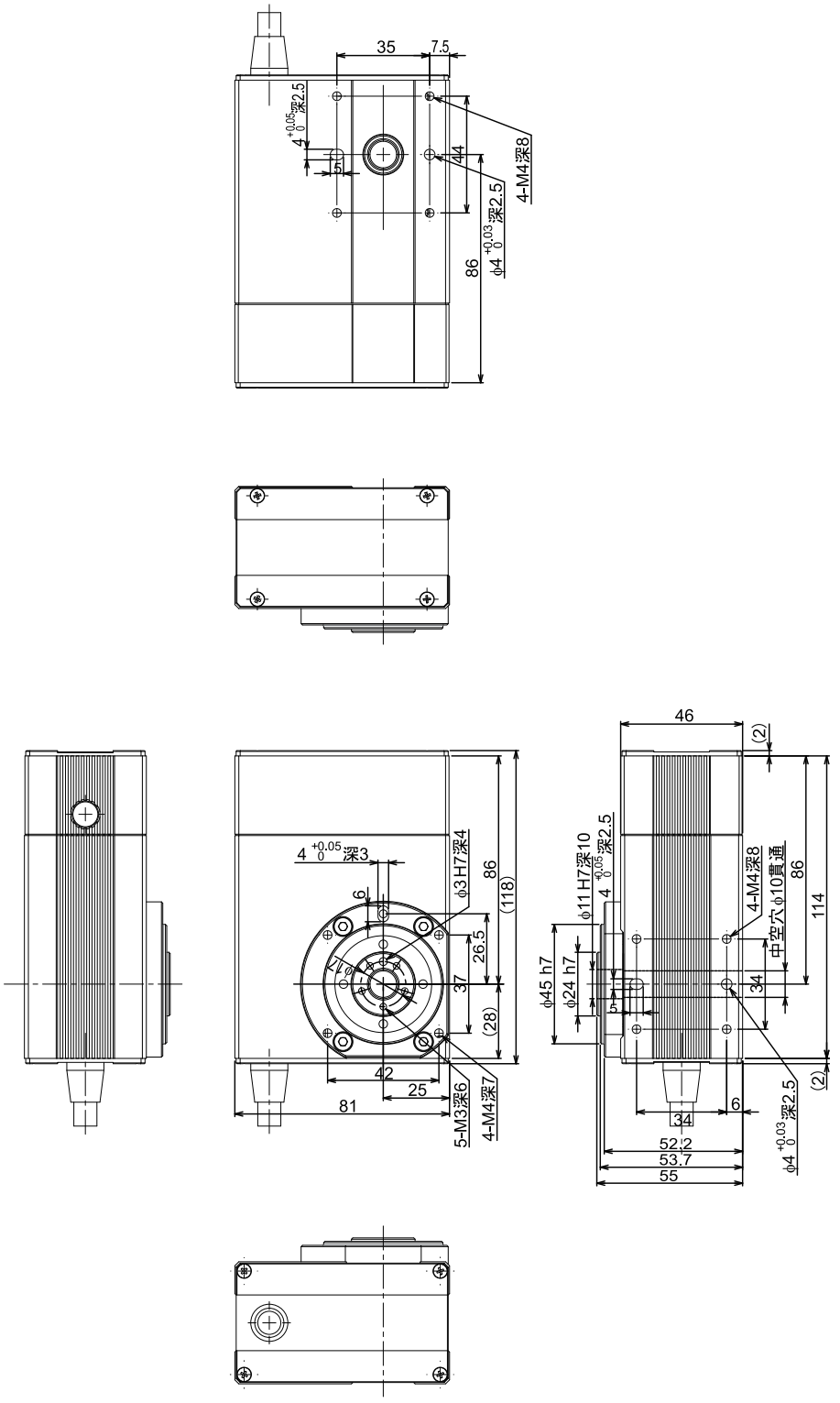
質量〔kg〕	0.92

• 330 度回転仕様 RTB、多回転仕様 RTBL（縦型）　ブレーキ付



質量〔kg〕	1.2

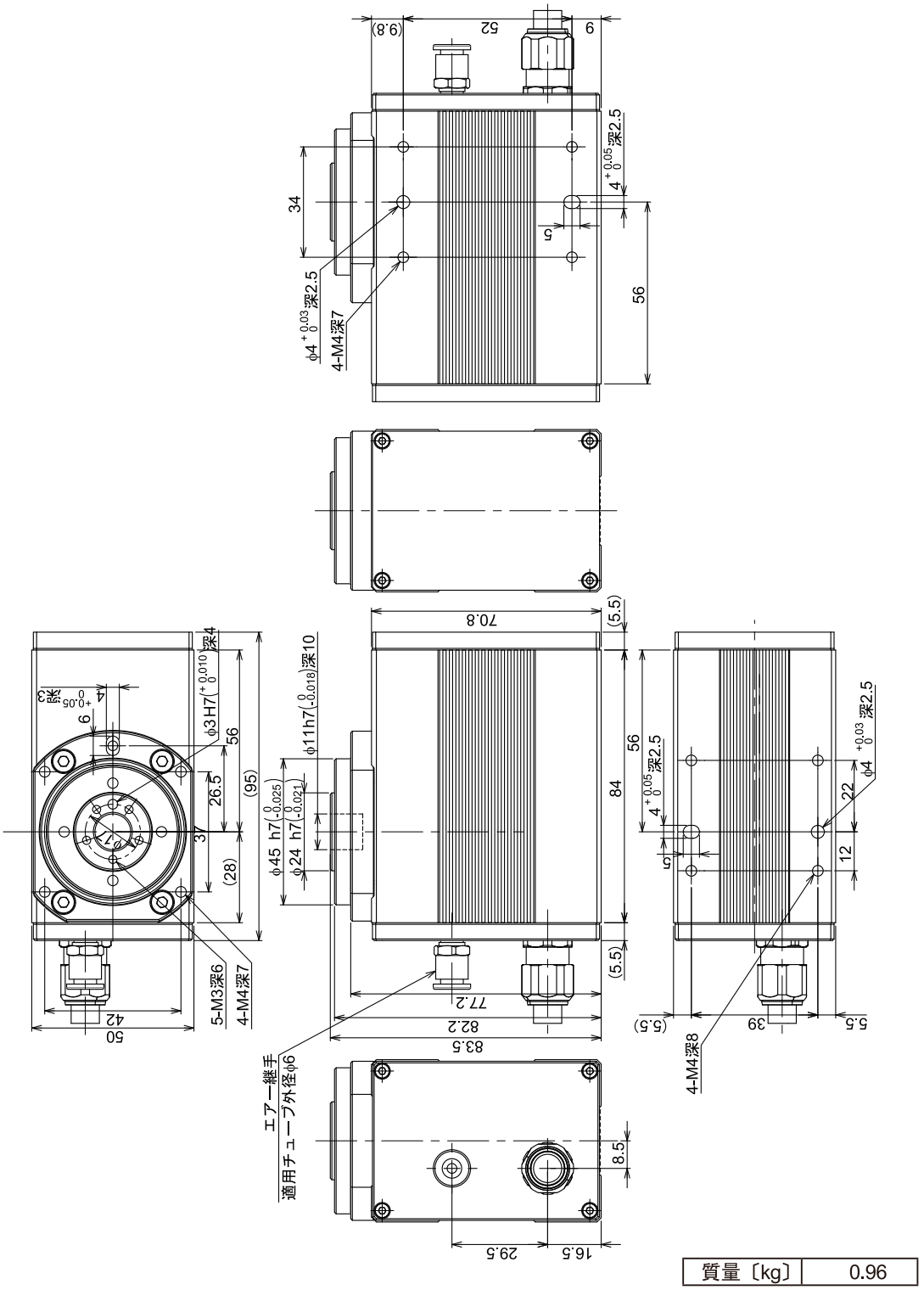
• 330 度回転仕様 RTC、多回転仕様 RTCL（扁平型）　ブレーキ付



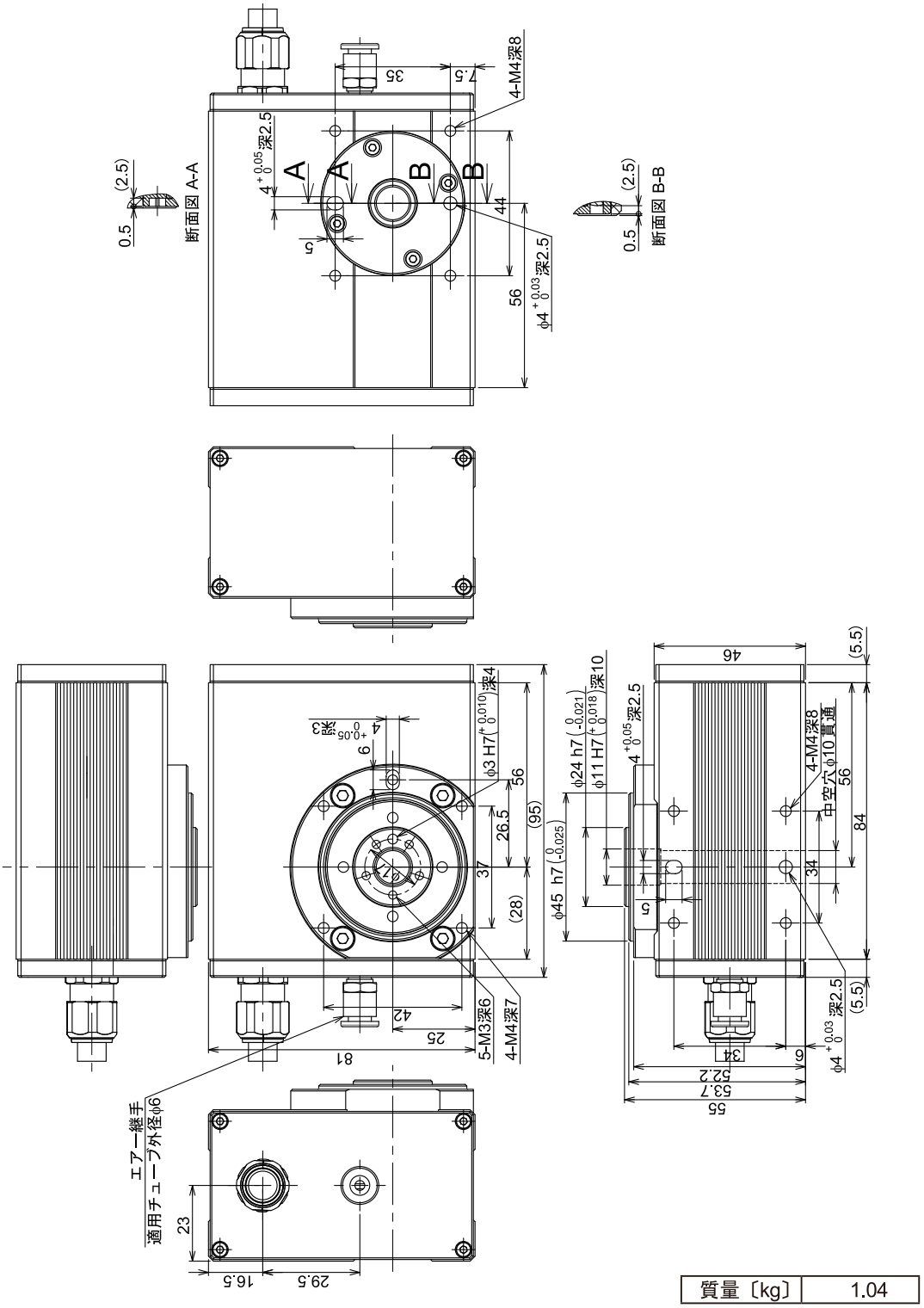
質量〔kg〕	1.3

5.2.2　防塵・防滴・クリーン仕様

- 330 度回転仕様 RTB、多回転仕様 RTBL（縦型）

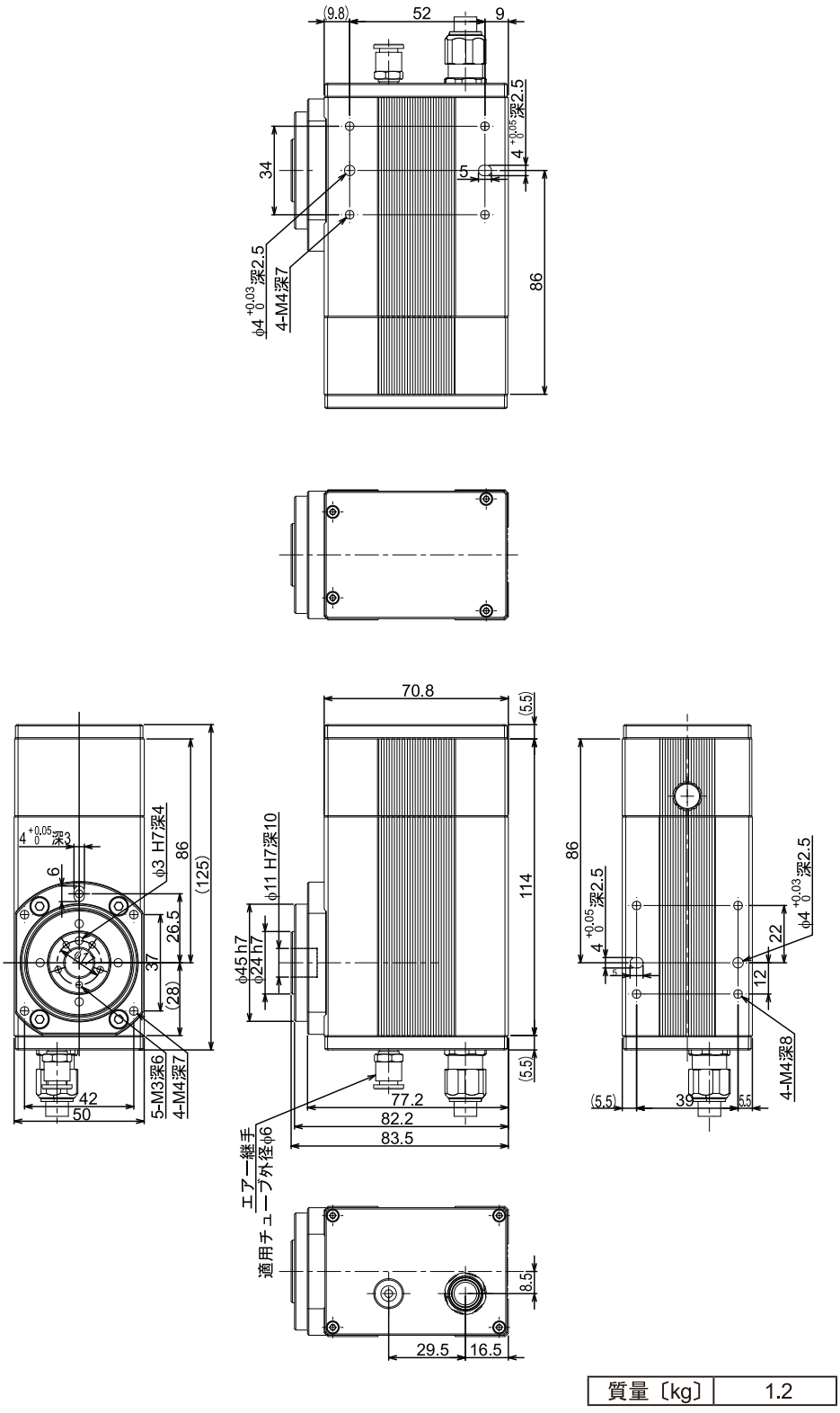


• 330 度回転仕様 RTC、多回転仕様 RTCL（扁平型）



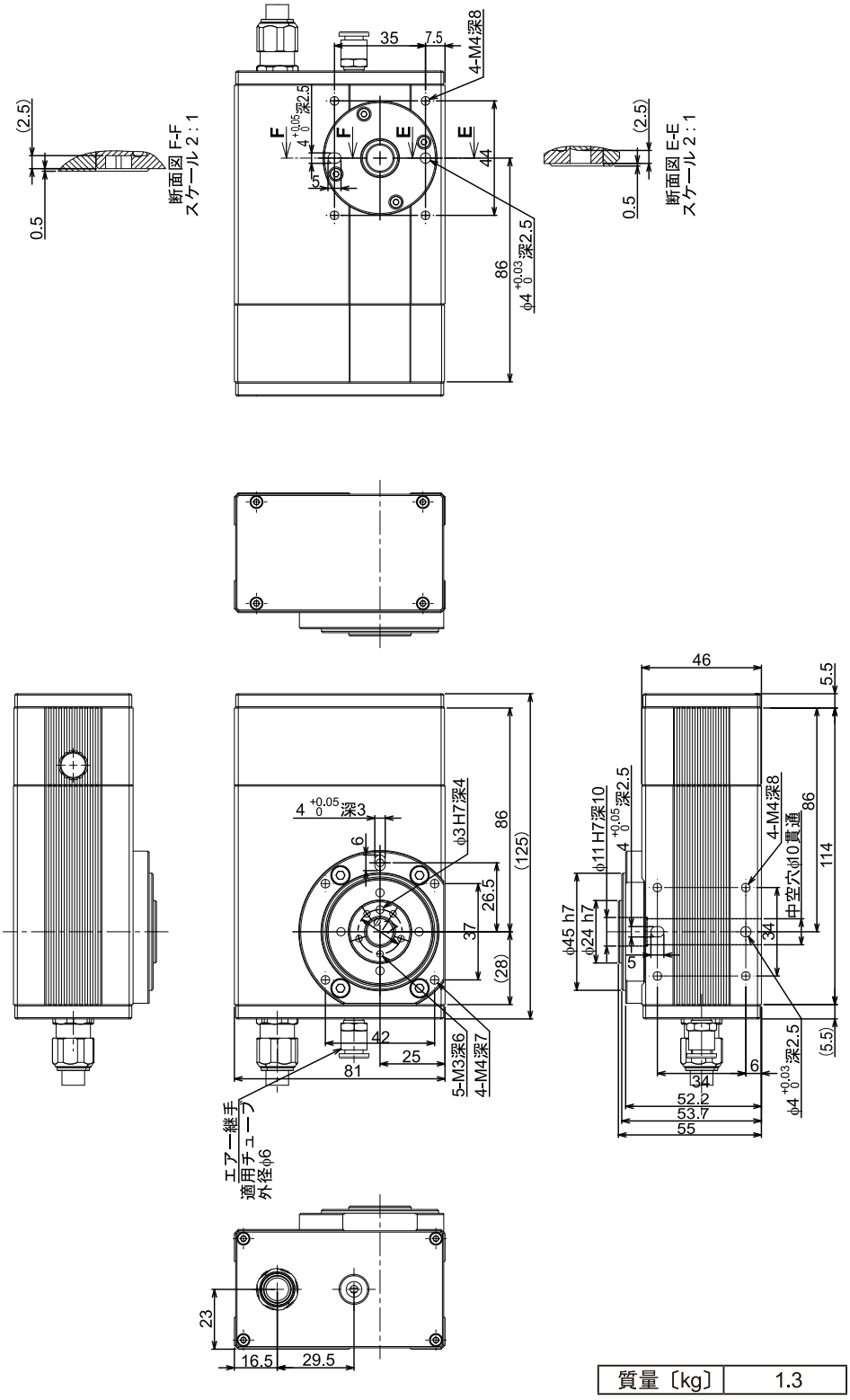
質量〔kg〕	1.04

• 330 度回転仕様 RTB、多回転仕様 RTBL（縦型）　ブレーキ付



質量〔kg〕	1.2

• 330 度回転仕様 RTC、多回転仕様 RTCL（扁平型）　ブレーキ付

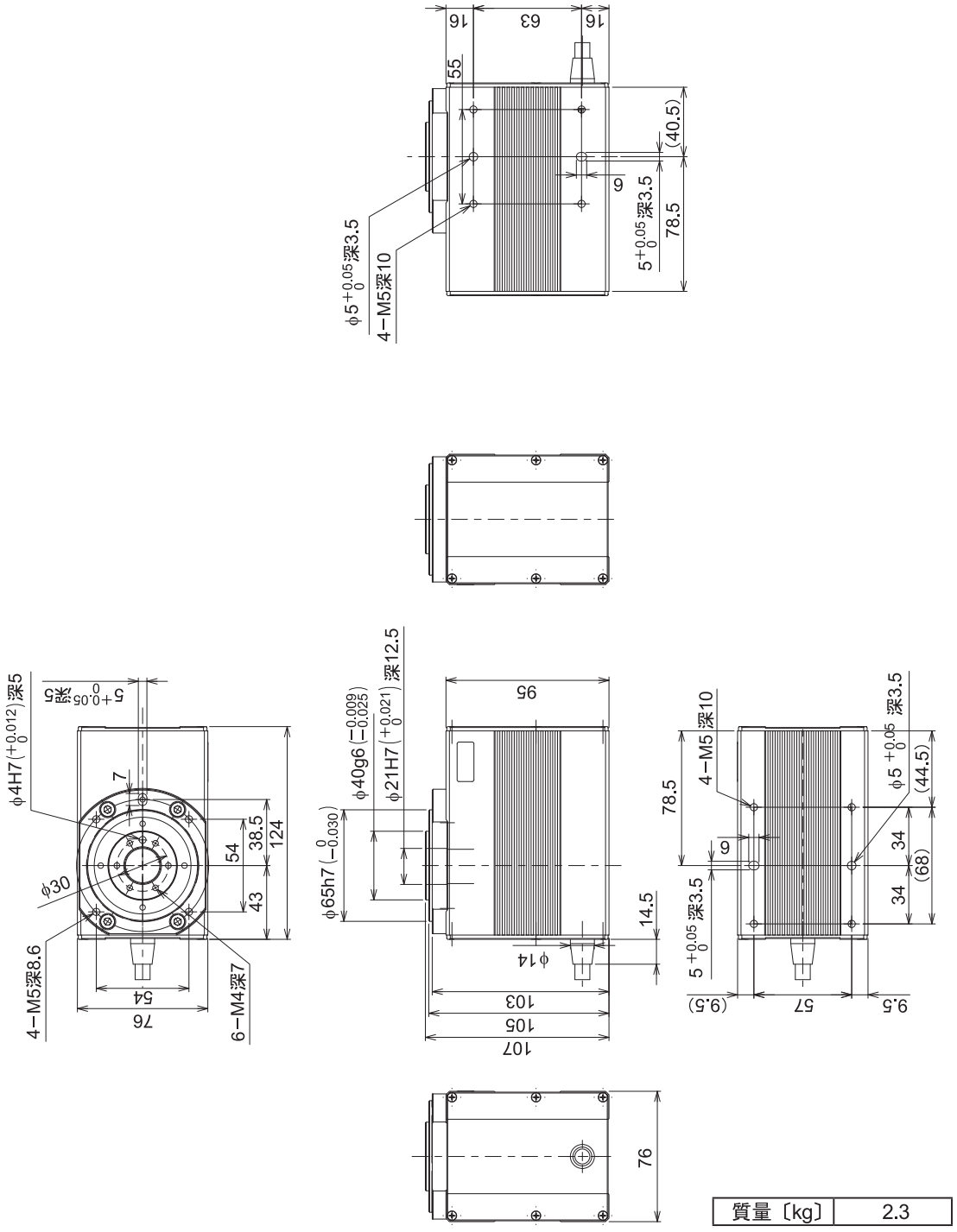


質量〔kg〕	1.3

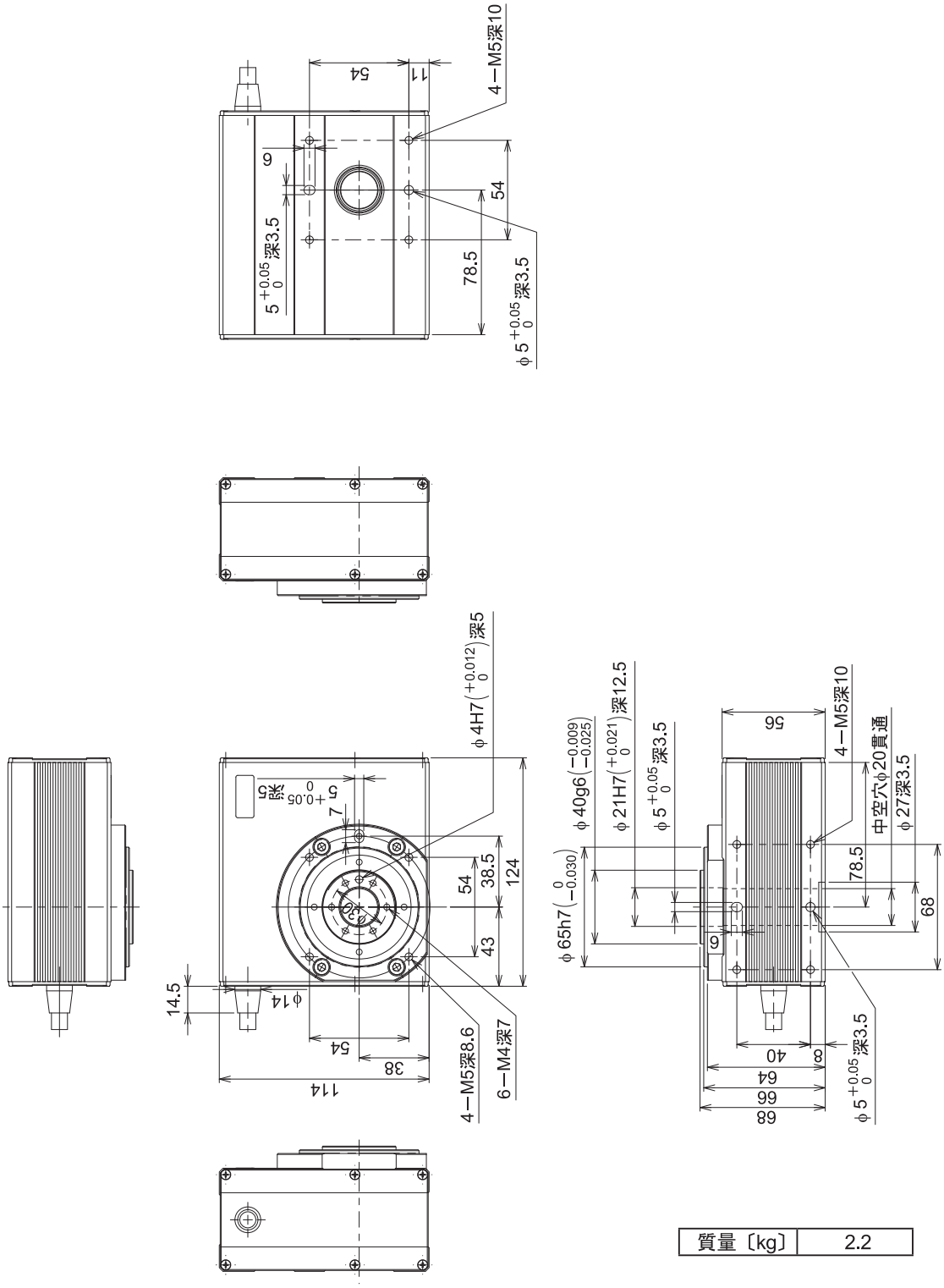
5.3 大型タイプ

5.3.1 標準仕様

- 330 度回転仕様 RTBB、多回転仕様 RTBBL（縦型）

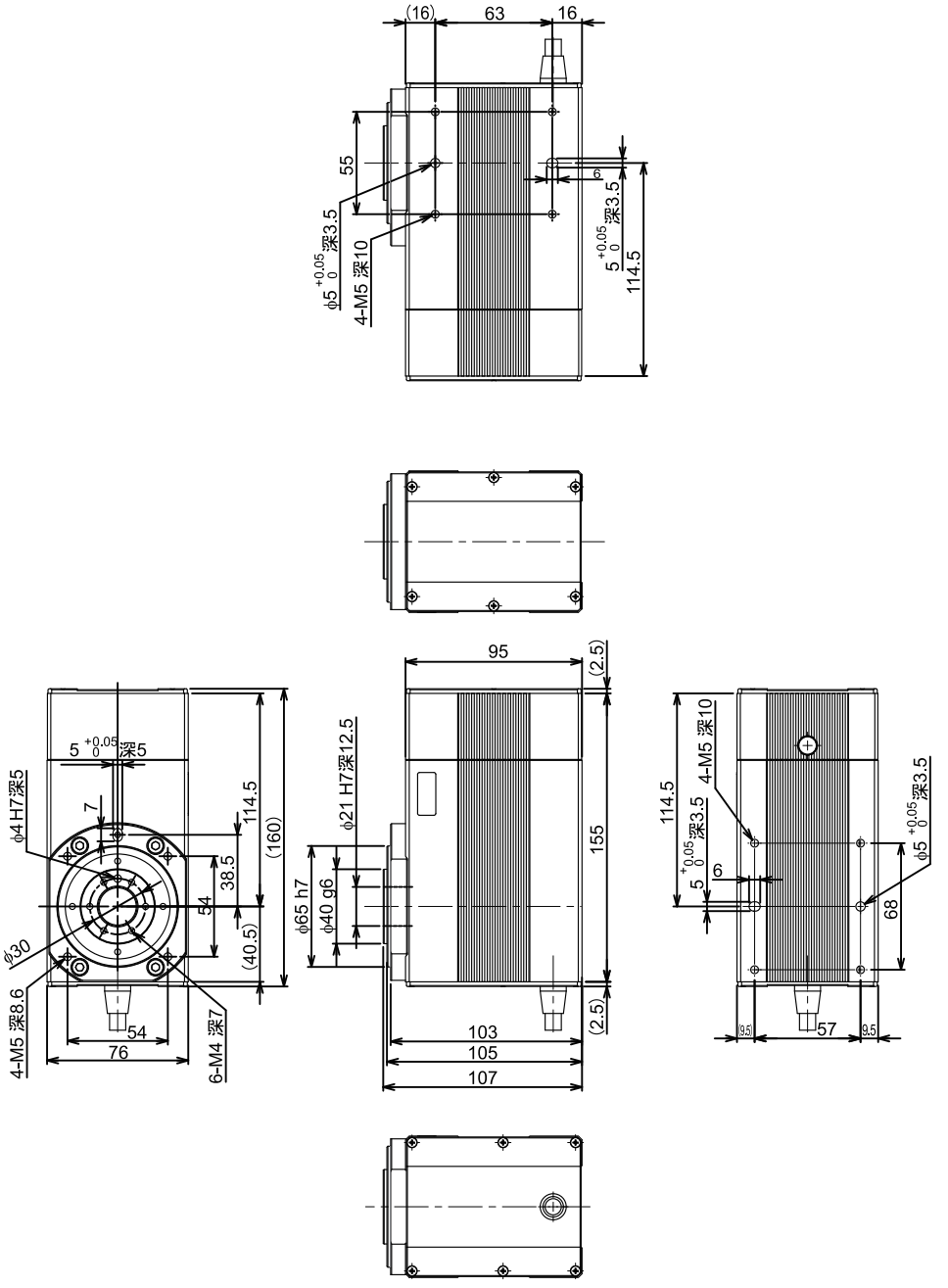


• 330 度回転仕様 RTCB、多回転仕様 RTCBL（扁平型）



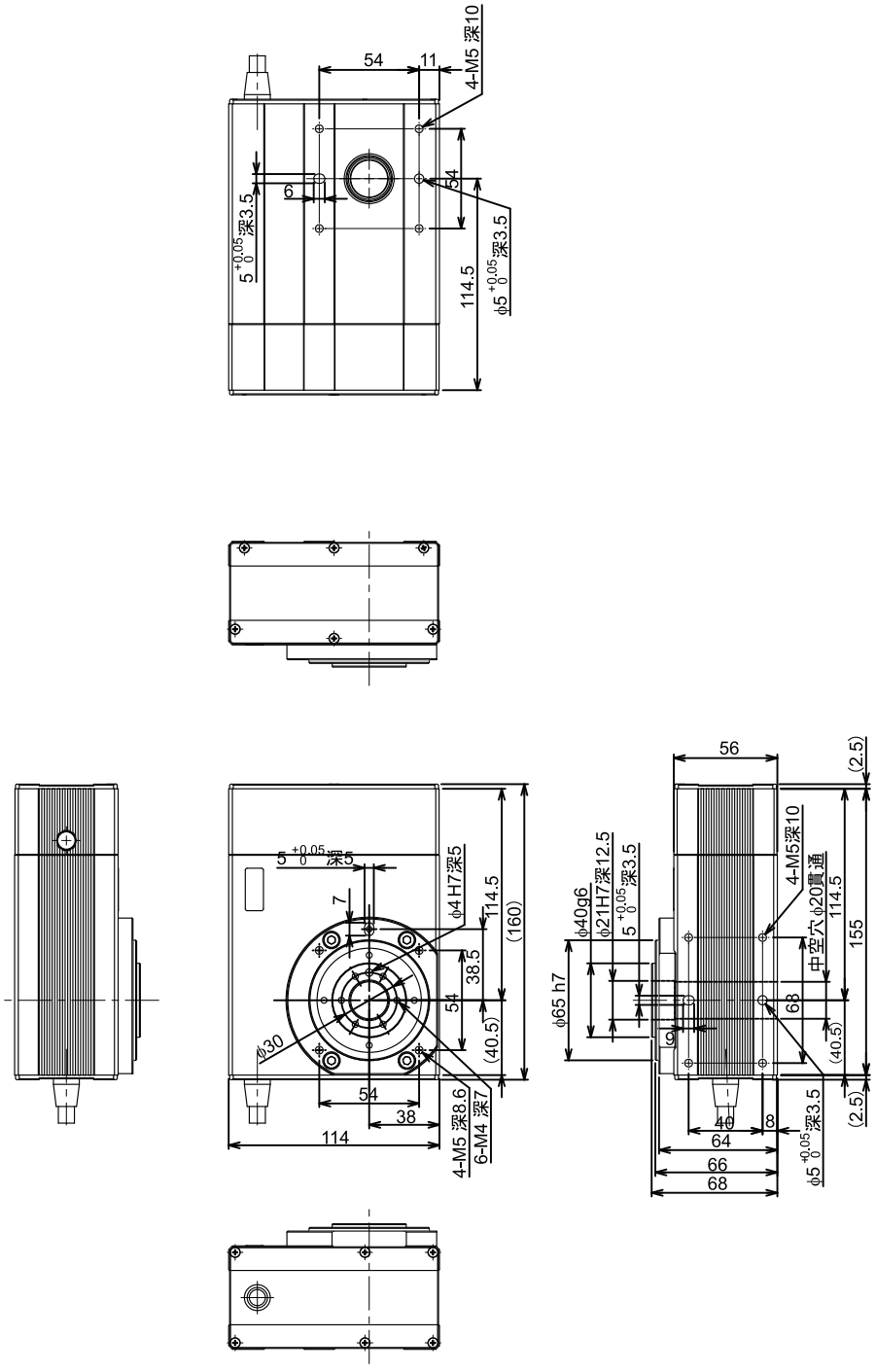
質量〔kg〕	2.2

• 330 度回転仕様 RTBB、多回転仕様 RTBBL（縦型）　ブレーキ付



質量〔kg〕	3.0

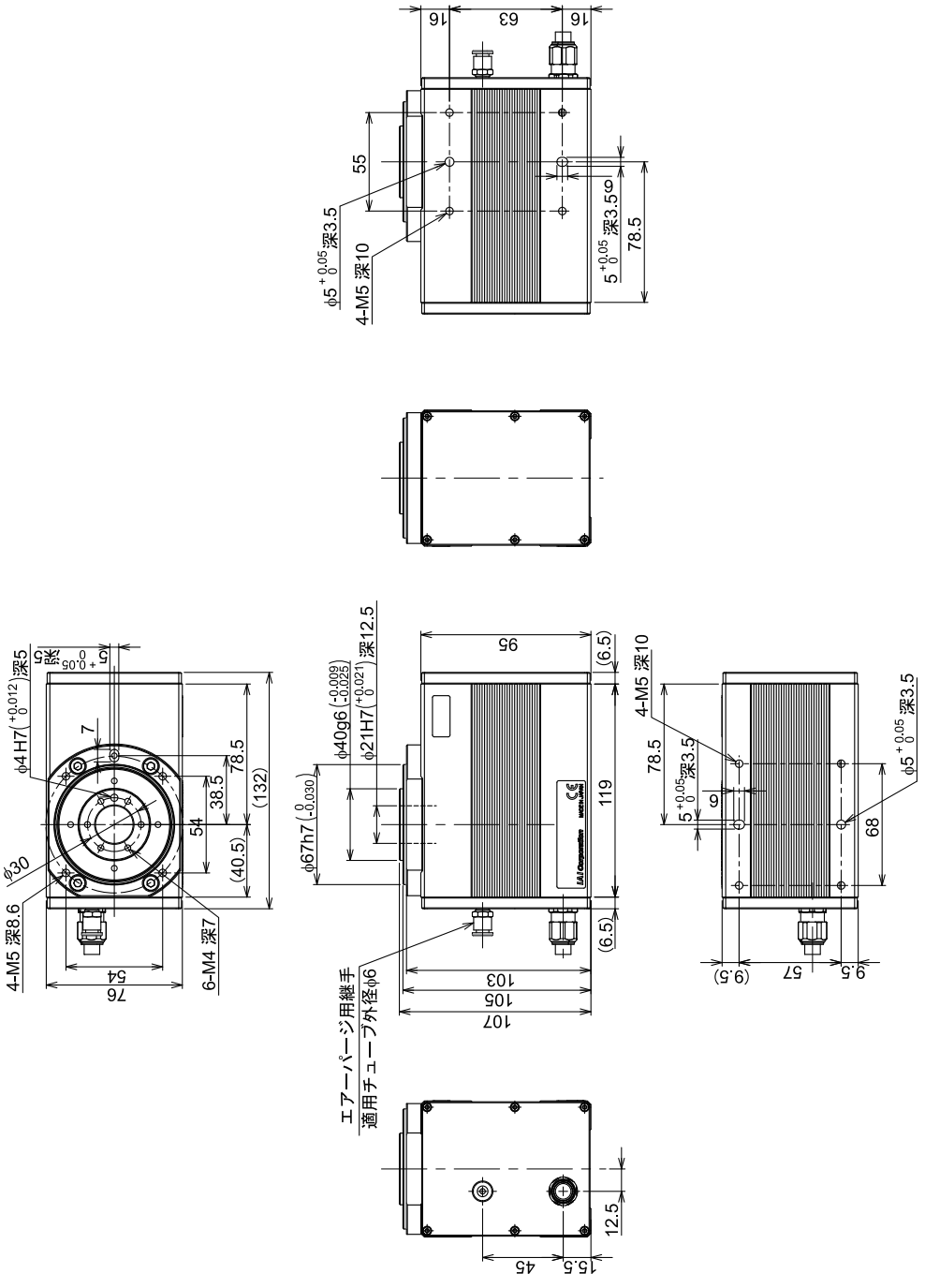
• 330 度回転仕様 RTCB、多回転仕様 RTCBL（扁平型）　ブレーキ付



質量〔kg〕	2.9

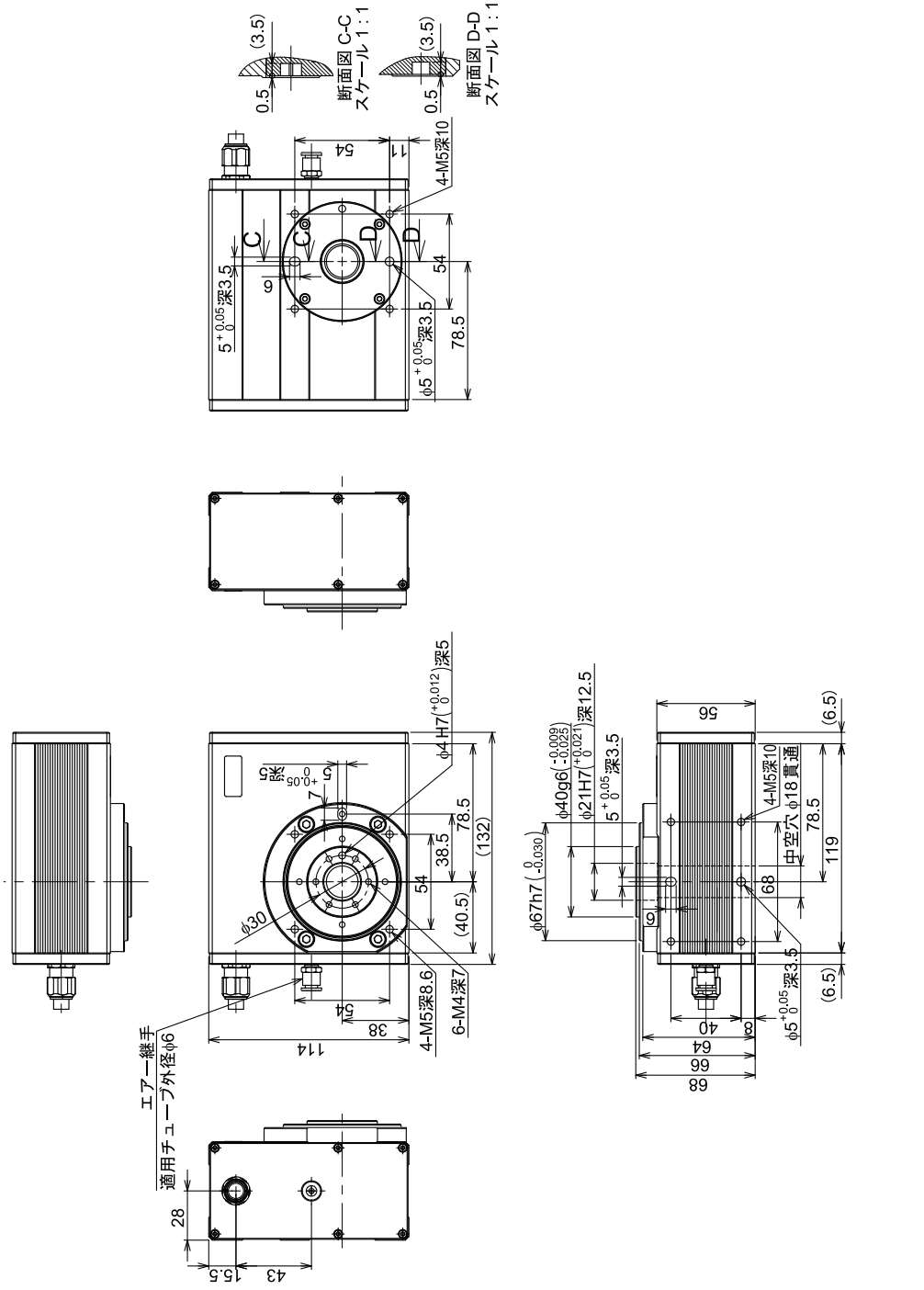
5.3.2　防塵・防滴・クリーン仕様

- 330 度回転仕様 RTBB、多回転仕様 RTBBL（縦型）



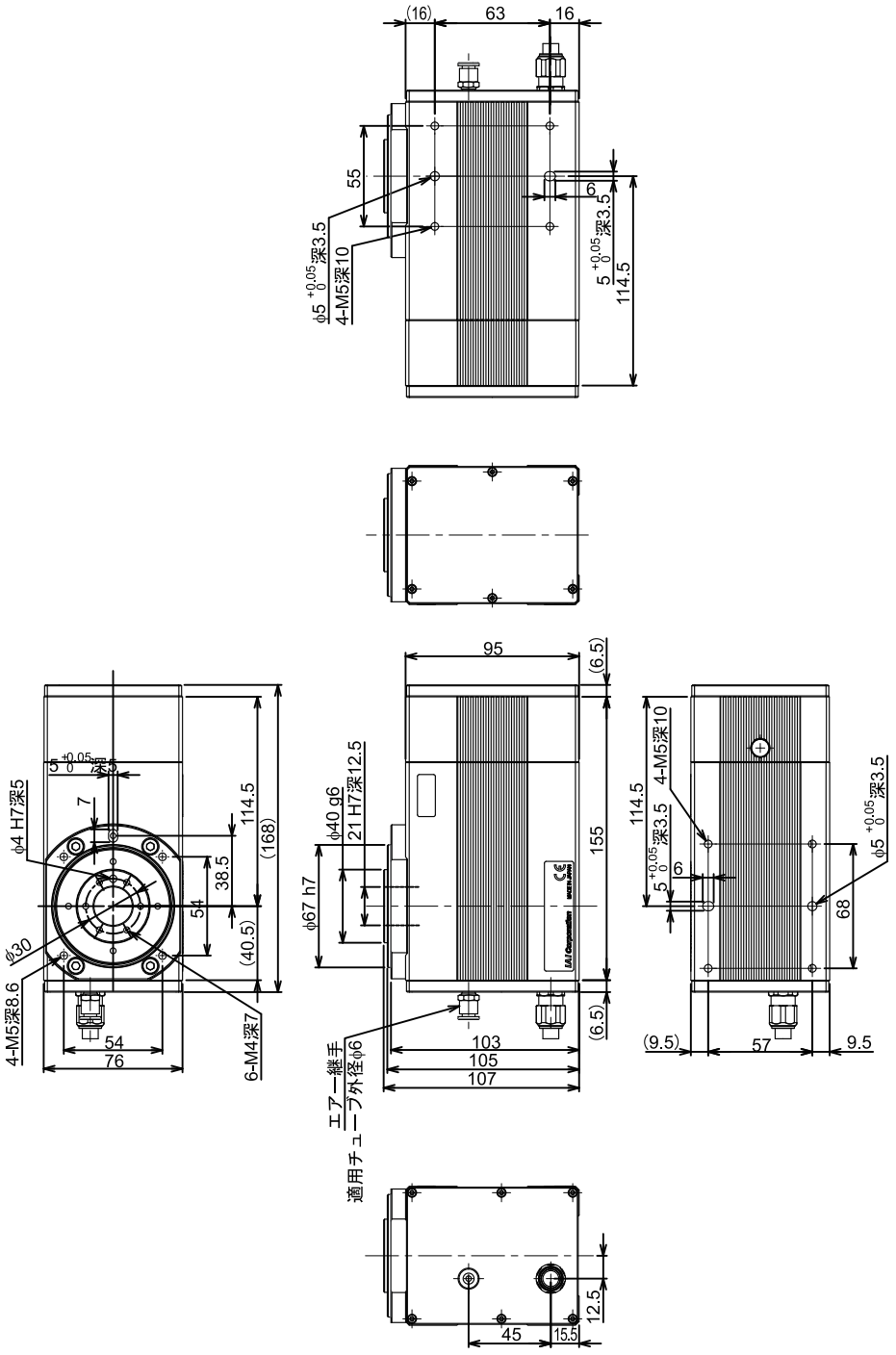
質量〔kg〕	2.5

• 330 度回転仕様 RTCB、多回転仕様 RTCBL（扁平型）



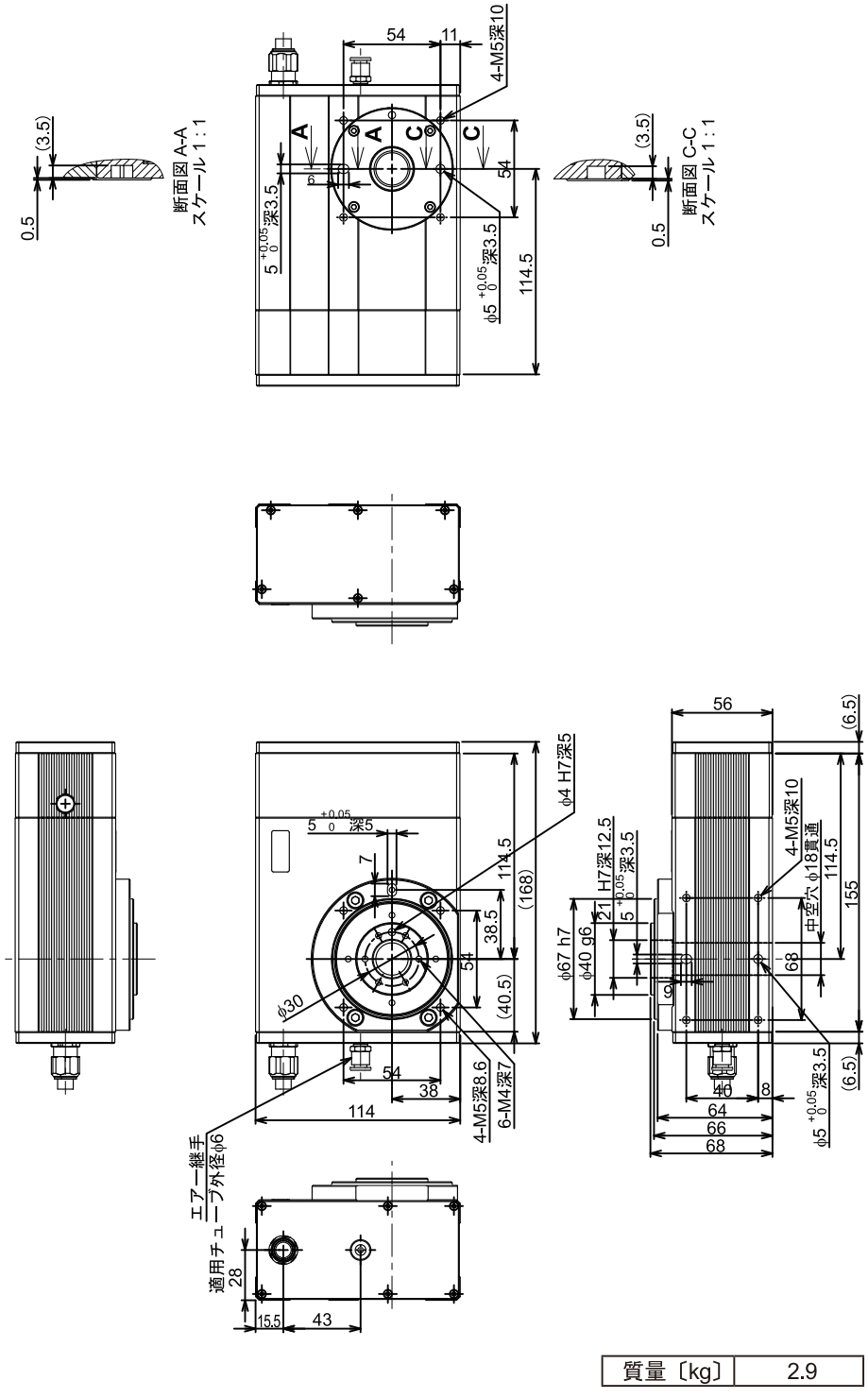
質量〔kg〕	2.4

• 330 度回転仕様 RTBB、多回転仕様 RTBBL（縦型）　ブレーキ付



質量〔kg〕	3.0

• 330 度回転仕様 RTCB、多回転仕様 RTCBL（扁平型）　ブレーキ付



質量〔kg〕	2.9

6. 寿命

寿命は、最大出力トルク、最大加速度・減速度の条件で、360°往復回転を行なった場合、
一千万回(目安)としています。

7. 保証

7.1 保証期間

以下のいずれか、短い方の期間とします。
- 当社出荷後 18 ヶ月
- ご指定場所に納入後 12 ヶ月
- 稼働 2500 時間

7.2 保証の範囲

当社製品は、次の条件をすべて満たす場合に保証するものとし、代替品との交換または修理を無償で実施いたします。
(1) 当社または当社の指定代理店より納入した当社製品に関する故障または不具合であること。
(2) 保証期間中に発生した故障または不具合であること。
(3) 取扱説明書ならびにカタログに記載されている使用条件、使用環境に適合し、適正用途で使用した中で発生した故障または不具合であること。
(4) 当社製品の仕様の不備、不具合、品質不良を原因とする故障または不具合であること。
ただし、故障の原因が次のいずれかに該当する場合は、保証の範囲から除外いたします。
① 当社製品以外に起因する場合
② 当社以外による改造または修理に起因する場合(ただし、当社が許諾した場合を除く)
③ 当社出荷当時の科学・技術水準では予見が困難な原因による場合
④ 自然災害、人為災害、事件、事故など当社の責任ではない原因による場合
⑤ 塗装の自然退色など経時変化を原因とする場合
⑥ 磨耗や減耗などの使用損耗を原因とする場合
⑦ 機能上、整備上影響のない動作音、振動などの感覚的な現象にとどまる場合
なお、保証は当社の納入した製品の範囲とし、当社製品の故障により誘発される損害は保証の対象外とさせていただきます。

7.3 保証の実施

保証に伴う修理のご依頼は、原則として引き取り修理対応とさせていただきます。

7.4 責任の制限

(1) 当社製品に起因して生じた特別損害、間接損害または期待利益の喪失などの消極損害に関しましては、当社はいかなる場合も責任を負いません。
(2) お客様の作成する当社製品を運転するためのプログラムまたは制御方法およびそれによる結果について当社は責任を負いません。

7.5 規格法規等への適合性および用途の条件

(1) 当社製品を他の製品またはお客様が使用されるシステム、装置等と組み合わせて使用する場合、適合すべき規格・法規または規制をお客様自身でご確認ください。また、当社製品との組合せの適合性はお客様自身でご確認ください。これらを実施されない場合は、当社は、当社製品との適合性について責任を負いません。
(2) 当社製品は一般工業用であり、以下のような高度な安全性を必要とする用途には企画・設計されておりません。したがって、原則として使用できません。必要な場合には当社にお問い合せください。
    ① 人命および身体の維持、管理などに関わる医療機器
    ② 人の移動や搬送を目的とする機構、機械装置(車両・鉄道施設・航空施設など)
    ③ 機械装置の重要保安部品(安全装置など)
    ④ 文化財や美術品など代替できない物の取扱装置
(3) カタログまたは取扱説明書などに記載されている以外の条件または環境でのご使用を希望される場合には予め当社にお問い合わせください。

7.6 その他の保証外項目

納入品の価格には、プログラム作成および技術者派遣等により発生する費用を含んでおりません。次の場合は、期間内であっても別途費用を申し受けさせていただきます。

① 取付け調整指導および試験運転立ち会い。
② 保守点検。
③ 操作、配線方法などの技術指導および技術教育。
④ プログラム作成など、プログラムに関する技術指導および技術教育。

変更履歴

改定日	改定内容
	初版
	第 2 版
2007.04	第 3 版
2008.04	第 4 版
2009.04	第 5 版 ・P29、PCON の V0019、PSEL の V0.22 以降の多回転仕様の原点復帰方法を追加 ・P57、オプション シャフトアダプタ追加 ・P58,59、オプション テーブルアダプタ追加
2010.07	第 6 版 ・最初に「ご注意」を追加
2011.04	第 7 版 ・ CE マーキングのページを追加
2012.03	第 8 版 ・4 ～ 7 ページ　安全ガイドの内容を追加変更 ・9 ページ　取扱上の注意　ご注意を削除。ご注意の内容を追加アクチュエータは、本取扱説明書に従って確実に取り付けてくださいを追加。 ・53 ～ 56 ページ　グリース補給に、グリースが目に入った場合、専門医の処置を受けるなどの注意事項を追加 ・94 ～ 108 ページ　外形図に、質量を追加
2012.11	第 8B 版 ・48 ページ　大型ロータリの許容慣性モーメント追加
2013.03	第 9 版 ・55 ページ　 図の説明変更 「グリースを塗布します。」 →「 ギアにグリースを塗布します。」
2014.05	第 10 版 ・22 ページ　取付け姿勢の可否を追加。 ・40 ページ　原点復帰動作時の原点復帰範囲(目安) を追加
2014.06	第 10B 版 ・36 ページ　誤記訂正　度／ sec → 度／ s^2
2014.09	第 11 版 ・防塵、防滴、CR 仕様追加
2014.12	第 12 版 ・クリーンルーム・防塵・防滴仕様の取扱い上の注意およびケーブル図追加

改定日	改定内容
2015.03	第 13 版 ・ブレーキ仕様追加 ・P24 RTBB/RTBBL/RTCB/RTCBL のエア吸引量、エアパージ流量誤記修正
2015.04	第 14 版 ・P13、P14、P32、P34、P36　対応コントローラに「MSEL」追加 ・P70、P71、P74、P75　寸法修正
2015.08	第 14B 版 ・P32、P33　固定使用の場合の曲げ半径追加 ・P33、P55　可動使用の場合の曲げ半径変更 ・P33　電線色を変更 ・P60　生産中止に伴いグリースを変更 アルバニアグリース No.2 → アルバニアグリース S2 モービラックス 2 → ユニレックス N2

管理番号：MJ3626-14B（2015 年 8 月）

IAI
Quality and Innovation

株式会社アイエイアイ

本社・工場	〒424-0103 静岡県静岡市清水区尾羽 577-1	TEL 054-364-5105	FAX 054-364-2589
東京営業所	〒105-0014 東京都港区芝 3-24-7 芝エクセージビルディング 4F	TEL 03-5419-1601	FAX 03-3455-5707
大阪営業所	〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地 2-5-3 堂島 TSS ビル 4F	TEL 06-6457-1171	FAX 06-6457-1185
名古屋営業所	〒460-0008 名古屋市中区栄 5-28-12 名古屋若宮ビル 8F	TEL 052-269-2931	FAX 052-269-2933
盛岡営業所	〒020-0062 岩手県盛岡市長田町 6−7 クリエ 21 ビル 7F	TEL 019-623-9700	FAX 019-623-9701
仙台営業所	〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二日町 14-15 アミ・グランデ二日町 4F	TEL 022-723-2031	FAX 022-723-2032
新潟営業所	〒940-0082 新潟県長岡市千歳 3-5-17 センザイビル 2F	TEL 0258-31-8320	FAX 0258-31-8321
宇都宮営業所	〒321-0953 栃木県宇都宮市東宿郷 5-1-16 ルーセントビル 3F	TEL 028-614-3651	FAX 028-614-3653
熊谷営業所	〒360-0847 埼玉県熊谷市籠原南 1 丁目 312 番地あかりビル 5F	TEL 048-530-6555	FAX 048-530-6556
茨城営業所	〒300-1207 茨城県牛久市ひたち野東 5-3-2 ひたち野うしく池田ビル 2F	TEL 029-830-8312	FAX 029-830-8313
多摩営業所	〒190-0023 東京都立川市柴崎町 3-14-2BOSEN ビル 2F	TEL 042-522-9881	FAX 042-522-9882
厚木営業所	〒243-0014 神奈川県厚木市旭町 1-10-6 シャンロック石井ビル 3F	TEL 046-226-7131	FAX 046-226-7133
長野営業所	〒390-0852 長野県松本市島立 943 ハーモネートビル 401	TEL 0263-40-3710	FAX 0263-40-3715
甲府営業所	〒400-0031 山梨県甲府市丸の内 2-12-1 ミサトビル 3 F	TEL 055-230-2626	FAX 055-230-2636
静岡営業所	〒424-0103 静岡県静岡市清水区尾羽 577-1	TEL 054-364-6293	FAX 054-364-2589
浜松営業所	〒430-0936 静岡県浜松市中区大工町 125 大発地所ビルディング 7F	TEL 053-459-1780	FAX 053-458-1318
豊田営業所	〒446-0056 愛知県安城市三河安城町 1-9-2 第二東祥ビル 3F	TEL 0566-71-1888	FAX 0566-71-1877
金沢営業所	〒920-0024 石川県金沢市西念 3-1-32 西清ビル A 棟 2F	TEL 076-234-3116	FAX 076-234-3107
京都営業所	〒612-8401 京都市伏見区深草下川原町 22-11 市川ビル 3 F	TEL 075-646-0757	FAX 075-646-0758
兵庫営業所	〒673-0898 兵庫県明石市樽屋町 8 番 34 号大同生命明石ビル 8F	TEL 078-913-6333	FAX 078-913-6339
岡山営業所	〒700-0973 岡山市北区下中野 311-114 OMOTO-ROOT BLD.101	TEL 086-805-2611	FAX 086-244-6767
広島営業所	〒730-0802 広島市中区本川町 2-1-9 日宝本川町ビル 5F	TEL 082-532-1750	FAX 082-532-1751
松山営業所	〒790-0905 愛媛県松山市樽味 4-9-22 フォーレスト 21 1F	TEL 089-986-8562	FAX 089-986-8563
福岡営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-13-21 エフビル WING 7F	TEL 092-415-4466	FAX 092-415-4467
大分出張所	〒870-0823 大分県大分市東大道 1-11-1 タンネンバウム Ⅲ 2F	TEL 097-543-7745	FAX 097-543-7746
熊本営業所	〒862-0954 熊本県熊本市中央区神水 1-38-33 幸山ビル 1F	TEL 096-386-5210	FAX 096-386-5112

お問い合せ先

アイエイアイお客様センター　エイト

（受付時間）月～金 24 時間（月 7：00AM～金 翌朝 7：00AM）
土、日、祝日 8：00AM～5：00PM
（年末年始を除く）

フリーダイヤル 0800-888-0088

FAX: 0800-888-0099　（通話料無料）

ホームページアドレス http://www.iai-robot.co.jp

IAI America Inc.

Head Office: 2690 W, 237th Street Torrance, CA 90505
TEL (310) 891-6015　FAX (310) 891-0815
Chicago Office: 110 East State Parkway, Schaumburg, IL 60173
TEL (847) 908-1400　FAX (847) 908-1399
Atlanta Office: 1220 Kennestone Circle Suite 108 Marietta, GA 30066
TEL (678) 354-9470　FAX (678) 354-9471
website : www.intelligentactuator.com

IAI Industrieroboter GmbH

Ober der Röth 4, D-65824 Schwalbach am Taunus, Germany
TEL 06196-88950　FAX 06196-889524

IAI (Shanghai) Co.,Ltd.

SHANGHAI JIAHUA BUSINESS CENTER A8-303, 808, Hongqiao Rd. Shanghai 200030, China
TEL 021-6448-4753　FAX 021-6448-3992
website : www.iai-robot.com

IAI Robot (Thailand) Co.,LTD.

825 PhairojKijja Tower 12th Floor, Bangna-Trad RD., Bangna, Bangna, Bangkok 10260, Thailand
TEL +66-2-361-4458　FAX +66-2-361-4456

製品改良のため、記載内容の一部を予告なしに変更することがあります。
Copyright © 2015. Aug. IAI Corporation. All rights reserved.

15.08.000